

宮城県村田町文化財調査報告書第9集

新峯崎遺跡

平成3年3月

宮城県村田町教育委員会

新峯崎遺跡

序 文

先人たちの生活の積み重ねの上に、私達は豊かな生活を送っています。その生活の跡は、文化財という形で大切に保護され、そして、活用されてきました。

村田町において周知の遺跡と呼ばれるものが、約140ヶ所あります。その中でも関場地区は、愛宕山古墳（県指定）をはじめとして、ほとんど全域が周知の遺跡に該当する『歴史の香りのする里』です。

この度、町道関場線の道路改良工事の際、この関場地区の水田の中から、朱塗りの壺が出土し、県文化財保護課のご指導とご協力をいただき、発掘調査に至りました。

その結果、県内でも数少ない祭祀遺跡ということで、大変貴重な資料を先人より贈られたわけです。

この報告書が、文化財の研究者や関係者はもちろん、多くの人々にとっても文化財への理解のためにご活用いただければ幸いです。

最後に、今回の発掘調査や報告書作成にあたり、ご指導いただきました宮城県文化財保護課の諸先生方をはじめ、ご協力いただきました関係の皆様に深く感謝申し上げます。

平成3年3月

村田町教育委員会

教育長 森 良一

例　　言

1. 本書は宮城県柴田郡村田町の新峯崎遺跡の発掘調査報告書である。
2. 石製模造品の材質同定は仙台市科学館佐々木隆氏、菅野雅克氏にお願いした。
3. 赤色顔料の分析は通産省工業技術院 東北工業技術試験所岡田豊氏にお願いした。
4. 土色は「新版標準土色帖」(小山・竹原:1973)を利用した。
5. 本報告書を作成するにあたり、以下の方々の御助言・御協力をいただいた。(敬称略)
志間泰治(日本考古学協会会員)
佐藤 洋(仙台市教育委員会)
柳沼賢治(郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団)
6. 整理・報告書の作成は宮城県教育庁文化財保護課が担当し、文化財保護課職員の協議を得て行った。整理・執筆者は次の通りである。
整理 斎藤吉弘・阿部恵・真山悟・阿部博志・手塚均・須田良平・古川一明・吉田雅之・
加藤明弘・岩見和泰・大和幸生・木皿直幸
執筆 第Ⅰ章～第Ⅴ章第1節・第3節・第VI章 阿部恵、第Ⅴ章第2節(1)～(3)1.～3.・
5.・(4)・(5) 須田、第Ⅴ章第2節(3)4.・(6) 岩見
7. 発掘調査の記録や整理に関する資料および出土品については、村田町教育委員会が保管している。

目 次

I.	調査に至る経過	1
II.	位置と環境	3
1.	遺跡の位置と自然環境	3
2.	周辺の遺跡	4
III.	調査の方法と経過	5
IV.	調査の成果	7
1.	基本層位	7
2.	発見された遺構と遺物	7
(1)	土壤と出土遺物	7
(2)	溝跡と出土遺物	12
V.	考察	13
1.	土師器	13
(1)	土師器の分類と特徴	13
(2)	土師器の年代	35
2.	石製模造品・石器	39
(1)	概要	39
(2)	出土状況	39
(3)	分類・分析	41
(4)	出土地点別の特徴	59
(5)	まとめ	59
(6)	宮城県内の石製模造品出土遺構とその性格	75
3.	土壤の年代と性格	81
VI.	まとめ	82
引用・参考文献		83
写真図版		85

調査要項

遺跡名：新峯崎遺跡（宮城県遺跡地図登載番号：07136）

遺跡記号：L S

所在地：宮城県柴田郡村田町大字関場字新峯崎 6 番地

発掘面積：約130 m²

調査期間：平成元年 4月10日～20日

調査主体：村田町教育委員会

調査担当：宮城県教育庁文化財保護課

調査員：進藤秋輝・白鳥良一・齊藤吉弘・阿部恵・真山悟・木皿直幸

参加者：村田町

佐山克巳・新貝隆一・遠藤裕悦郎・大宮正夫・小室良子・高橋定光・渡辺哲夫・佐

藤安夫・石井良一・岡崎由美・高橋徳夫・丹野広伸・渡辺明夫・佐山真一・閔友治・

川田瑞治

村田町文化財保護委員

佐々木安彦・佐藤正隆・佐藤信一

有志

須田すみ子・的場悦子・高橋昭子・相原りか

調査協力：山家正男・鶴小川組

I. 調査に至る経過

平成元年2月に柴田郡村田町大字閑場字木戸から字峯崎・字新峯崎にかけての2級町道閑場線では「昭和63年度凍雪害防止道路改良工事」として町道の改良工事が施工されていた。

2月13日、村田町大字閑場の竜泉院住職で、村田町文化財保護委員でもある佐藤正隆氏がこの道路改良工事に伴う側溝工事が行われていた字新峯崎の水田を通りかかったところ、工事によって掘り上げられた土のなかから土師器壺や石製模造品などを発見し、このことをただちに町教育委員会に連絡した。

このため同日、町教育委員会は工事担当課の町建設課と共に現場に出向き、この事實を確認した上で、工事を中止してもらった。

翌2月14日に町教育委員会は町文化財保護委員である佐々木安彦氏の立会いのもとに、遺物の出土範囲の確認のため側溝工事の範囲の表土を剥離したところ、土師器壺を中心とした遺物が集中して包含されていることが判明し、さらにその範囲が北に延びていることからその部分の表土も剥離した。この際、側溝工事に伴って出土した土器片は取り上げた。原位置を保つ遺物には土を掛けてそのままの状態で保存した。また、側溝工事の南壁にも土師器壺が発見され、遺物の分布が南側に延びていることが予想された。

町教育委員会は2月17日に、この遺跡発見の経緯を宮城県文化財保護課に連絡した。

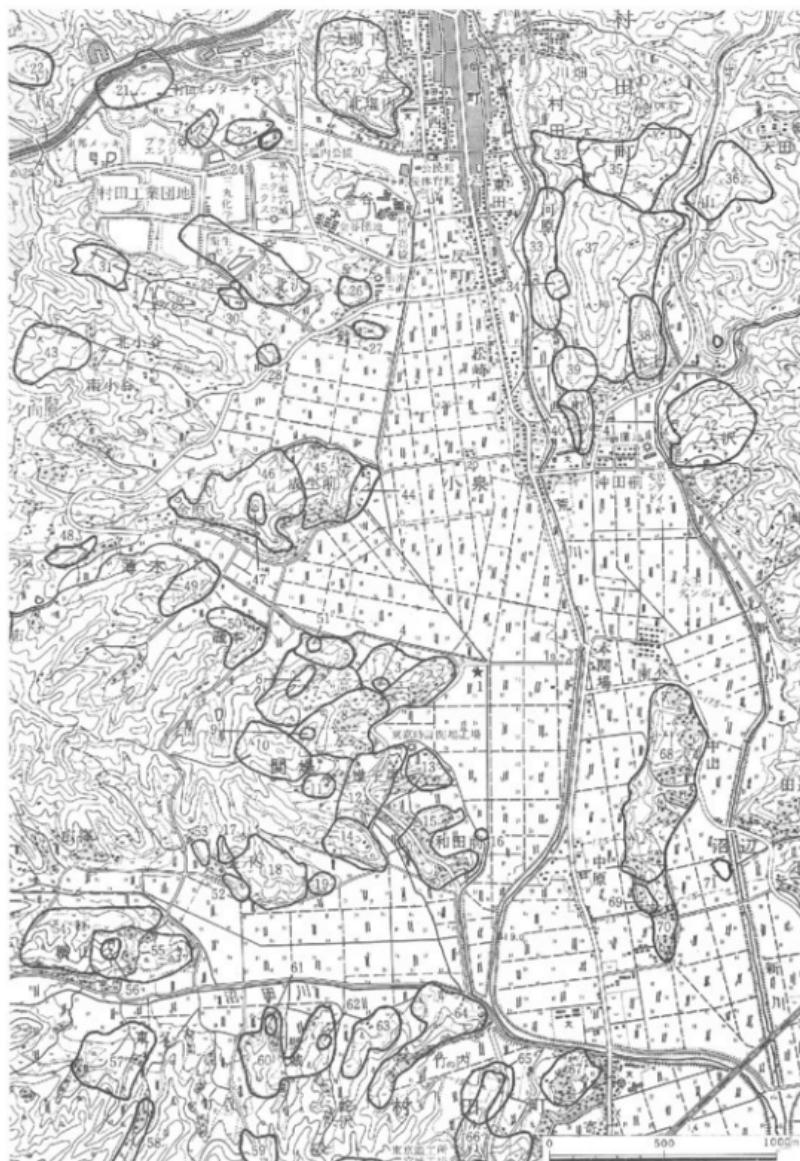
連絡を受けた文化財保護課では2月27日に現地に出向き、遺跡の現状を把握すると共に原位置を動いた遺物はこの時取り上げた。そして、町教育委員会・建設課とこの遺跡の取扱について協議を行った。

その結果、道路改良工事の範囲に遺跡が広く含まれていることから、工事に先立って事前の発掘調査を実施し、工事は発掘調査終了後に施工することで建設課と合意した。

町教育委員会には工事範囲外の南側に遺物の分布が延びていることが予想されたので、この延びと遺跡の性格を把握する発掘調査を実施する必要があるため、水田の所有者の了解を得ることと、文化財保護法上の遺跡発見の手続きを取ることをお願いした。

また、発掘調査の時期としては遺跡が水田の中にあることから、田植え前に調査が終了するように配慮することにした。

町教育委員会は遺跡の所在する水田が、大字閑場字新峯崎6番地で、所有者が山家正男氏であることを調べ、発掘調査の実施について承諾してもらうと共に、3月9日付けで文化財保護法第57条6第1項の規定により遺跡発見の通知を提出した。遺跡名は所在する小字名をとり「新峯崎遺跡」とした。



第1図 遺跡の位置と週辺の遺跡

II. 位置と環境

1. 遺跡の位置と自然環境（第1図）

新峯崎遺跡は宮城県柴田郡村田町大字閑場字新峯崎に所在しており、村田町の中心にある村田町役場から南に約2.6 km 離れた所に位置している。

宮城県南部に位置する村田町南半の地形を概観すると、町の東西両側には奥羽山地から派生した大・小起伏丘陵地である高館丘陵が南に延び、町の中央には山間盆地である村田盆地が位置している。村田盆地の中央を白石川に合流する荒川が南流しており、その流域には沖積地が発達している。村田盆地に接する高館丘陵はこの荒川とその支流の新川・閑場川・沼田川などによって開拓されており、複雑な地形となっている。また、高館丘陵と村田盆地の接する部分には低位の段丘が認められる。

新峯崎遺跡周辺の地形を詳しくみると、町西部を南に延びる高館丘陵は薄木地区で東南東方向に分岐して延び、低平になりながら最終的には閑場地区で村田盆地に接している。この丘陵は閑場地区的北・東部では荒川と平行して流れる閑場川とその支流によって開析され、北東方

番号	跡名	時代	種別	番号	跡名	時代	種別
1	新峯崎遺跡	古墳	系古墳群	36	百々目木遺跡	绳文	包含地
2	峯崎遺跡	古墳、奈良・平安	包含地	37	月野山遺跡	弥生	包含地
3	疊合遺跡	奈良・平安	包含地	38	小原遺跡	空町	城郭
4	蛭塚	中世	耕塚	39	寺の上遺跡	弥生・奈良・平安	包含地
5	宮ノ下遺跡	弥生(後)・古墳、奈良	包含地	40	古館横穴古墳群	古墳(後)	横穴古墳
6	成木古墳群	古墳	古墳	41	古木遺跡	中世	城郭
7	高木遺跡	绳文、弥生(中・後)・古代	包含地	42	人遺跡	绳文・弥生(後)	包含地
8	高木遺跡	绳文、弥生、奈良・平安	包含地	43	南北谷遺跡	绳文・弥生、奈良・平安	包含地
9	蛇口古墳	古墳	円墳	44	北生瀬遺跡	弥生(後)	包含地
10	京史跡受容山古墳	古墳(中)	前方後円墳	45	金原古墳群	古墳	方墳・円墳
11	墳頂駆逐室古墳	古墳(後)	横穴古墳	46	薄木城跡	中世	城跡
12	佐太田遺跡	奈良・平安	包含地	47	方氣廻古墳	古墳(中) 前方後円墳	円墳
13	猪子尾遺跡	奈良・平安	包含地	48	八幡遺跡	中世?	遺跡
14	鶴鳴遺跡	空町	包含地	49	今立遺跡	弥生(後)	包含地
15	塔ヶ崎遺跡	奈良・平安	包含地	50	四郎遺跡	弥生(後)	包含地
16	東南塙原古墳	古墳	円墳	51	下原遺跡	古墳(中)	円墳
17	大室遺跡	绳文	包含地	52	下清水横穴古墳群	古墳(後)	横穴古墳
18	大室遺跡	奈良・平安	包含地	53	下清水遺跡	奈良・平安	包含地
19	笠内遺跡	绳文、奈良・平安	包含地	54	蛇沢遺跡	绳文(中)・弥生	包含地
20	村田城跡	中世	城跡	55	沼田駆逐室古墳	绳文(中・後)・弥生・古代	包含地
21	西原遺跡	绳文、平安	集落跡	56	須賀現古墳	古墳	方墳
22	北割山遺跡	绳文・弥生	包含地	57	見世遺跡	绳文・弥生・古墳	包含地
23	堆内窓跡	近世	窓跡	58	神妙遺跡	奈良・平安	包含地
24	塙内遺跡	弥生(後)	包含地	59	二斗内A遺跡	绳文	包含地
25	北沢遺跡	弥生(後)・奈良・平安	包含地	60	元塙遺跡	弥生(後)	包含地
26	針生A古墳	古墳(後)	円墳	61	元塙古墳	古墳(後)	円墳
27	針生古墳	古墳(中)	前方後円墳	62	元塙横穴古墳群	古墳(後)	横穴古墳
28	上ヶ沢横穴古墳	古墳	円墳	63	蛇沢遺跡	奈良・平安	包含地
29	北沢窓跡	弥生・平安	窓跡	64	塙山遺跡	绳文(中・後)・弥生・奈良	包含地
30	鶴遺跡	弥生・平安	包含地	65	竹ノ内遺跡	中世	城跡
31	上ヶ沢遺跡	弥生	包含地	66	竹の内遺跡	中世	包含地
32	木本遺跡	绳文・弥生	包含地	67	御屋敷跡	中世	城跡
33	中ノ内遺跡	绳文・弥生・奈良・平安	包含地	68	牛星内遺跡	弥生	包含地
34	下ノ内古墳	古墳	前方後円墳?	69	中野横穴古墳群	古墳(後)	横穴古墳
35	山ノ内遺跡	弥生(後)・古墳	包含地	70	中山遺跡	奈良・平安	包含地
36	山ノ内遺跡	古墳	前方後円墳?	71	小原古墳	古墳	前方後円墳?

第1表 遺跡地名表

向に延びる樹枝状の小丘陵群となっている。新峯崎遺跡はその北東端に位置する字高木から字峯崎かけて延びる丘陵のさらに東の水田中にあり、関場川に臨んでいる。遺跡周辺の標高は17.89 mで、関場川もしくは荒川の自然堤防上に立地する遺跡と考えられる。

2. 周辺の遺跡（第1図）

村田町内には村田盆地に接する丘陵上を中心に縄文時代～近世にかけての133の遺跡が知られている。このうち関場地区に立地する遺跡は19遺跡である（宮城県教委：1988）。

これを時代別に見てみると、縄文時代の遺跡には蔵本遺跡・高木遺跡・大室遺跡・笠の内遺跡があり、時期は明確でないが縄文土器や石器が出土している。

弥生時代の遺跡には蔵本遺跡・宮ノ下遺跡・高木遺跡・石橋遺跡などがある。蔵本遺跡からは梯形壠式・十三塚式の、宮ノ下遺跡・石橋遺跡からは円田式の土器が出土し、蔵本遺跡では石歌やアメリカ式石鐵も出土している。

古墳時代の遺跡としては今回調査した新峯崎遺跡を始めとして、中期の前方後円墳と考えら



第2図 遺跡周辺の地形

れる県史跡の愛宕山古墳附薬師堂古墳や、雲南権現古墳・箱式石棺の出土した戸木古墳群・蛇口古墳・坂下古墳（佐々木：1982）などの円墳からなる高塚古墳と、竜泉院横穴古墳群などの横穴古墳、それに宮ノ下遺跡・峯崎遺跡などの集落跡と考えられる遺跡がある。愛宕山古墳は墳丘の主軸長が90mと名取市雷神山古墳、仙台市遠見塚古墳、古川市青塚古墳につぐ大きさの古墳であり、陪塚と考えられる主軸長が35mの薬師堂古墳を伴って閑場地区の最高所に位置している。愛宕山古墳の存在は、弥生時代に始まったと考えられる稻作を中心とした経済基盤が村田盆地にしっかりと根づき、それを背景として古墳時代の閑場地区に県南地方最大の前方後円墳が出現した事を示しており、古墳時代の閑場地区が安定した経済基盤の上に成り立っていたことや、さらにこの地域が社会的にも中心地であったことが知られる。

奈良・平安時代の遺跡としては峯崎遺跡・鎌倉遺跡・宮ノ下遺跡・戸木遺跡・高木遺跡・信太田遺跡・雉子尾遺跡・塔ヶ崎遺跡・大室沢遺跡・笠の内遺跡など10遺跡がある。いずれも集落跡と考えられ、遺跡数の増加は古墳時代に引き続いている閑場地区が繁栄していた事を示している。

中世の遺跡としては城館跡の閑場城跡と経塚と考えられる経塚がある。

新峯崎遺跡の今回の調査地点は峯崎遺跡の東端から約90m東に離れた所である（第2図）。

III. 調査の方法と経過

I章の「調査に至る経過」でも述べたように今回の発掘調査は町道「閑場線」の改良工事に伴う側溝工事の際、土器がまとめて発見されたことを契機として実施された。

調査が開始されたのは4月10日である。2月14日に土器が集中して出土した部分を中心に表土を除去していたため、まず、重機を使用してその周辺の約80 m²の範囲の表土と上げ土を除去した。そして2月14日の土器の確認後に埋め戻していた土を排除して、土器集中部分の現況を露出させた。さらにこの土器が遺構に伴っているか、否かを知るために土器周辺の平面での精査を実施した。一方、調査区南壁の壁面を清掃して断面で観察したところ、土器の集中は溝状の土壤の中に見られることが知られ、この土壤はさらに南の方向に伸びている可能性が考えられた。このため調査区南壁の断面図を1/20の縮尺で作成すると共に、約50 m²の範囲で調査区を南へ拡張した（第3図）。

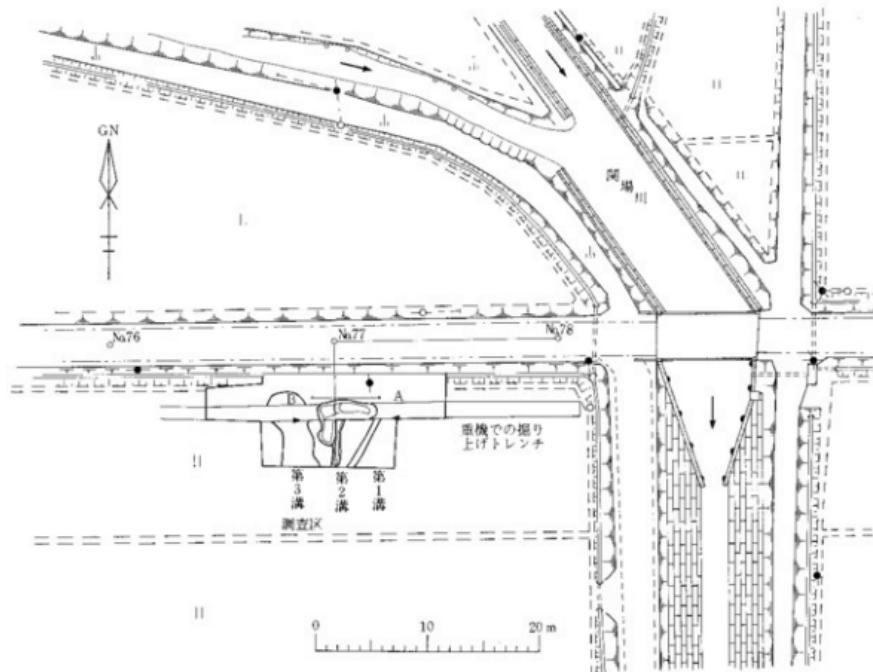
この結果、土壤は南から東にほぼ直角に折れ曲がる「L」字状の細長い平面形を持つことが判明し、新たに3本の溝も確認された。これらの遺構の精査を進め、土壤中の土器や石製模造品がほぼ露出した段階で、道路改良工事の中心杭No.77とNo.78を結ぶ線を基準として土壤周辺に1m単位の基準線を設け、1/10の縮尺の平面図・断面図で記録した。No.77から直角に伸びた基準線の方針は座標北から30°西に偏している。また、随時写真撮影をして記録化するとともに、

調査区全体は1/100の縮尺の平板図で記録した。

土壌の精査にあたっては2月27日に取り上げた完形の壺のなかに石製模造品の有孔円板が1個と白玉4個が入っていたため、小さな石製模造品を見逃さずのないように堆積土を全て篩を使用して水洗いした。

調査の概要が明らかになってきた4月15日には、地元住民を対象として現地説明会を実施した。

出土遺物のレベルを取りながら遺物の取り上げをし、調査の終了したのは4月20日である。最終的な発掘面積は130m²である。また、第3溝の精査は実施しなかった。



第3図 調査区と遺構配図

IV. 調査の成果

1. 基本層位

第4図に拡張前の調査区南壁の断面図を示してある。堆積層は3層認められた。

第1層：暗褐色(7.5YR3/3)シルト層で、表土。水田の耕作土である。

第2層：黒色(7.5YR3/2)シルト層で、水平に堆積している。部分的に分布しない所も見られる。

第3層：暗褐色(10YR3/3)砂質シルト層で、第2層の下に認められる。調査区東側に分布している。

第4層：オリーブ黄色(5Y6/4)細砂層で、遺物を含まない。地山と考えられる。

第4層上面はわずかに西から東に向かって傾斜しており、土壤はこの第4層上面で確認された。第1溝は表土下の第2層上面で、第2溝は同じく表土下の第3層と土壤堆積土上面で確認され、第3溝は第2層下の第3層・第4層上面で確認された。

遺物は第1～3層の各層から土師器・須恵器が少量づつ出土している。



第4図 調査区南壁断面図

2. 発見された遺構と遺物

今回の調査によって発見された遺構には土壤1基、溝跡3条があり、遺物には土壤を中心に出土した多くの土師器と石製模造品、少量の須恵器がある。

(1) 土壤と出土遺物（第5～19・40～43図）

〔遺構の確認〕 道路改良工事中心杭No.77から南に5～10m離れた地点の基本層位4層上面で確認された。

〔平面形〕 発掘の端緒となつた倒溝工事によって水抜き穴が掘られたために北西部を欠き、東端も明確でないが、平面形は南から東にほぼ直角に曲がる細長いL字状を呈する。

〔規模〕 土壌を西側部分と北側部分とに分けると、西側部分は南北長が約4m、東西幅は上幅

で1.35～1.5m・底面幅で約0.8m、深さ20～30cmの規模を、北側部分は東西長が約5m、南北幅は上幅で1.7～1.35m・底面幅で0.9～0.5m、深さ30～40cmの規模をもつ。

〔重複〕西側土壙の東壁部分が土壙より新しい第2溝と重複して切られている。

〔壁・床面〕自然堤防堆積土と考えられるオリーブ黄色の細砂を、壁・床面としている。床面はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは緩やかであり、断面形は船底状を呈している。大きく見ると床面は南から東に向かって緩やかに傾斜している。

〔堆積土〕西側土壙の断面で見ると4層認められる。いずれも砂質シルトで流入堆積土と思われ、第3層は甌の崩落土の可能性がある。第4層中からは石製模造品が出土しており、土器は第4層の上面で検出されている。

〔出土遺物〕主として底面から土師器（壺・高壺・壺・甌・ミニチュア土器）、石製模造品（有孔円板・劍・勾玉・白玉）が多く出土し、堆積土から須恵器が少量出土した。土師器の内訳と数量は壺68(18)点、高壺9(3)点、壺17(4)点、甌13(3)点、ミニチュア土器3点の合計110点である。石製模造品のそれは有孔円板75点、劍26点、勾玉3点、白玉568点、器種不明の破片29点の合計701点である。土師器の器種別の数量のなかで()で示したのは、発掘調査前に町教育委員会によって取り上げられたものや発掘調査開始日の4月10日に原位置を動いたため取り上げられたものの数である。須恵器には甌・蓋？などがあるが小破片で図示できるものはない。

〔出土状況〕土師器・石製模造品などの遺物の出土状況を第5図に示してある。

第5図でも明らかなように土壙北側部分の南半は側溝工事によって掘り上げられ、さらに土壙北西隅は水抜き穴として深掘りされているため、この部分での遺物の分布は、調査区拡張の際に発掘した土壙北側部分の南壁ぎわを除いては、全く認められない。

出土した遺物は平面図に位置やレベルを記録し、番号を付して取り上げた。第5図、第2表・第3表はそれを整理して示したもので、土師器・石製模造品に分けて番号を付してある。番号を付して取り上げた土師器の中には第3表に示したように、他の取り上げ番号のものと接合したり、小破片のため図示できないものも9点ある。また、平面図に記録されなかった破片などで、土壙西側部分出土のものは第1土器集中地点、土壙北側部分出土のものは第2土器集中地点として取り上げている。堆積土を箇で水洗いして検出された石製模造品の多くも同様である。

第2表・第3表には、取り上げ番号別に器種・出土状況・接合関係などが示してあるが、土師器1～40、石製模造品1～29は土壙北側部分（第2土器集中地点）から、土師器41～91、石製模造品30～38は土壙西側部分（第1土器集中地点）から出土したものである。土師器の出土状況は第5図からも読み取れるように、土壙西側部分では南側全体に甌・高壺が隣接しながら分布しており、北側になるにしたがって甌・壺などが密集して分布し、北端では重なり合っていることが知られる。土壙北側部分では土壙ほぼ中央の北壁よりの、比較的狭い部分に壺・甌

- S5
W1.5

+ S5
0

B

+ S5
E3

+ S7

21

23

24

25

28

29

37

38

E3

B
17.5m

C

D

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

100

101

102

103

104

105

106

107

108

109

110

111

112

113

114

115

116

117

118

119

120

121

122

123

124

125

126

127

128

129

130

131

132

133

134

135

136

137

138

139

140

141

142

143

144

145

146

147

148

149

150

151

152

153

154

155

156

157

158

159

160

161

162

163

164

165

166

167

168

169

170

171

172

173

174

175

176

177

178

179

180

181

182

183

184

185

186

187

188

189

190

191

192

193

194

195

196

197

198

199

200

201

202

203

204

205

206

207

208

209

210

211

212

213

214

215

216

217

218

219

220

221

222

223

224

225

226

227

228

229

230

231

232

233

234

235

236

237

238

239

240

241

242

243

244

245

246

247

248

249

250

251

252

253

254

255

256

257

258

259

260

261

262

263

264

265

266

267

268

269

270

271

272

273

274

275

276

277

278

279

280

281

282

283

284

285

286

287

288

289

290

291

292

293

294

295

296

297

298

299

300

301

302

303

304

305

306

307

308

309

310

311

312

313

314

315

316

317

318

319

320

321

322

323

324

325

326

327

328

329

330

331

332

333

334

335

336

337

338

339

340

番号	種別	出土状況	接合	その他	図番号	番号	種別	出土状況	接合	その他	図番号
1	环	6の上			第6回15	57	环	云の下		無孔・有孔内板・單孔5	第9回12
2		9の上+9ト104				58	大判鏡	+52+1集+2集			第10回1
3	中形鏡	+2集	好玉1、鏡11・17、有孔内板複孔 1・單孔54、白玉1～27と17回2			59	小判鏡				第10回2
4	环			第10回1	60	环					第9回15
5	环			第9回4	61	环					第8回2
6	环			第6回5	62	环					第9回1
7	环	6の下	白玉25～30	第9回6	63	环					第9回4
8	环	5の下	白玉21～34	第6回15	64	長鏡台					第10回5
9	环	ト2	有孔内板・複孔10	第6回3	65	环	印の下				第8回5
10	M-	9の下		第6回4	66	环	60・65の下	+24			第7回2
11	环	10のF	+28+33	白玉35～38	第7回3	67	环	66の下			第9回13
12	环	8の下	白玉39～58	第6回6	68	变形鏡					同化不可能
13	环	11のF	+17+35 +1集+2集	第6回1	69	环	+36				第7回7
14	环	12のF	白玉49	第7回4	70	环	初の下				第10回8
15	环	6～8・12・14の 束縛	白玉50・51	第8回11	71	円形鏡	+75+76				第10回3
16	小形鏡	15の下	+15+71	白玉52	72	心口鏡					第10回3
17		13に接合	有孔内板・單孔5	白玉53・54	73	环	刀の下	+8			第8回14
18	环			同化不可能	74	鏡	82の下		刺		第10回2
19	环			有孔内板・複孔2、白玉52～55	75	环	刀の下	+8			第8回6
20	环			第10回2	76	鏡	71と75				第10回3
21	环			第10回9	77	高	环	60～67・74の下			第10回2
22	小形鏡	+28+33	白玉59・61	第6回6	78	高鏡台	77の下	+1集			第7回6
23	环	12の下		第10回7	79	長鏡台	+83+1集				第4回3
24	环	23の下	+27	有孔内板・複孔4	80	長鏡台	83の下		白玉104		第10回5
25	ミニ鏡	10の下		第10回2	81	环	82の下	+78			第6回14
26	長鏡台	+22		第10回9	82	环	90の下	+65	有孔内板・複孔8		第6回8
27	环	26の下	+25	第9回9	83	三二环					第10回7
28	長鏡台	+2	白玉59～83	第10回3	84	环		+1集			第6回5
29	鏡口鏡		白玉86・87	同化不可能	85	环	刀の下				第9回11
30	环			第7回10	86	長鏡台					第10回2
31	小形鏡	29の下	+33	第10回7	87	長鏡台			有孔内板・複孔6・80、白玉86		第10回2
32	环	+21		第6回19	88	長鏡台	+568				第10回2
33	环	+11+34	F玉88、下から有孔内板・複孔22	同化不可能	89	長鏡台	"	"			第10回6
34		33に接合		第6回12	90	环	6の上	第2集中			第10回10
35	环	+13+17	下から露頭不明6・7	第10回7	91	小形鏡	第2集中				第10回7
36	环の一部		剣1が入る	下から鍔片4・15	92	环	第2集中				第9回4
37	环			同化不可能	93	环	+1集+2集				第8回7
38	环	+78		第10回9	94	环	+1集+2集				第9回5
39	环口鏡+体部			第7回11	95	环	+2集				第6回8
40	环	+1集肩		同化不可能	96	环	+2集				第6回7
41	环			第10回2	97	环	+2集				第9回6
42	大形鏡	+41+47	剣8、有孔内板・複孔5・25、E 玉5564	第10回8	98	高	环	+2+1集+2集			第10回6
43	鏡頭鏡	+33+42+44 +2集+2溝		第14回3	99	环	+1集+2集				第6回3
44	高 环	+54+1集	E玉503	第11回3	100	环	+1集+2集				第8回6
45	环			第8回13	101	环	+2集				第9回3
46	大形鏡			第10回2	102	高	环	+2集			第9回2
47	大形鏡	也と接合		同化不可能	103	环	+2集				第6回1
48	小形鏡		有孔内板・複孔26	第10回8	104	环	+2集				第6回6
49	高 环			第11回5	105	环	+2集				第9回10
50	高 环			第11回4	106	环	+2集				第6回9
51	环			第8回4	107	高	环	+2集			第10回4
52	大形鏡	+60		第15回1	108	長鏡台	+2集				第10回3
53	高 环			第12回1	109	長鏡台	+2集				第10回7
54	高 环		有孔内板・複孔28・29	第11回2	110	中形鏡	+2集				第10回1
55	大形鏡	+55		第17回1	111	环	第3層出土				第7回5
56	环			第10回6							

石製模造品の番号は各器種の属性表の番号と一致する

第3表 土器の出土状況

などが密集して分布している。特に壺の多くは口縁を上にした状態で重なり合って出土している。

第3表の92番以降には第5図に位置を示すことのできない、番号を付さないで取り上げた資料や発掘調査前に取り上げられた資料で、次章で図示される資料について示してある。それらについて説明すると、92・93は2月27日の段階までに第1集中地点の壁から抜かれたもので、92は中から石製模造品が発見されたため篠を使って堆積土を水洗いをする事の契機になった壺である。94は4月10日発掘調査開始時に埋め戻しの土を排除した際に原位置を移動したため取り上げたものである。92～94・95は2月13・14日に町教委が撮った現場の写真で出土場所が知られたものである。96・97は取り上げ番号を付さなかった破片が接合して図化できたものである。98～105は2月14日に取り上げられたもののうち、第1土器集中地点・第2土器集中地点として取り上げた破片に接合したものである。この内、第1土器集中地点と接合したのが98・105の2点、第1・第2の両方に接合したのが99・100・103の3点、第2土器集中地点と接合したのが101～103の3点と、2月14日に取り上げられた資料の位置関係を反映していると考えられる。106～119は同じく2月14日に取り上げられたもので、接合関係を持たないものである。前述の接合関係をもつものの存在から、これらのものも第1土器集中地点と第2土器集中地点の間から出土したものであることは明らかである。

以上で述べた接合関係や、前に述べた出土状況のなかでも、土壤北側部分出土土器と土壤西側部分北端出土土器との間に認められる器種構成の類似や重なり合って出土するという出土状態の類似は、本来これらの土器が一連のものとしてあったことを示していると考えられる。

また、120は基本層位第3層から出土したものであるが、この層は第4図に示したように土壤堆積土と接しており、出土位置も土壤北側部分の南東隅であるので、土壤から出土した土器を取り上げる際に誤認した可能性が強い。

(2)溝跡と出土遺物（第3・4図）

溝跡は3条検出されている。

第1溝跡—調査区東半部で、表土下の第2層上面で確認された新しい溝である。この溝は南西方向から北東方向に調査区に対して斜めに伸びている。規模は上幅で約1.8m、深さ約40cmで、壁の立ち上がりは緩やかである。出土遺物としては少量の土師器があるが図示できるものはない。

第2溝跡—第1溝跡と同じく表土下の第3層と土壤堆積土上面で確認された。調査区のほぼ中央を南北方向に伸びている。土壤の一部を切っており、土壤より新しい溝である。規模は上幅約0.9m、深さ約30cmで、壁の立ち上がりは緩やかである。出土遺物には少量の土師器があり、図示できるものは無いが、土壤出土遺物と接合するものもある。

第3溝跡—第2層下の第3層・4層上面で確認された。上幅2m以上の規模で南北方向に伸びるが、精査は行わなかったため詳細は不明である。

V. 考察

1. 土師器

図示できた土師器は合計111点ある。1点を除いてはすべて土壌から出土したもので、その1点もすでに述べたように本来は土壌に属していたものと考えられるので、図示した土師器は土壌からの一括資料と言える。

土師器の器種には壺・高壺・壺・甕・ミニチュア土器の5種類がある。各器種毎に分類し、その特徴などを述べる。

(1) 土師器の分類と特徴

壺 (第6~10図)

壺は全部で69点ある。体部と口縁部の器形をみると、A—体部から口縁部まで内窩気味に外傾するもの、体部の器形がB—直線的もしくは内窩気味に外傾するもの、C—内窓するものなどがあり、口縁部の器形にはI—内傾するもの、II—ほぼ直立するもの、III—外傾するもの、IV—外反するものなどがある。そして体部と口縁部の組合せには以下に示したような関係が認められ、それを基準として壺の分類を行うと次のようになる。



第1類 (第6図1~3)

Aの器形で、体部から口縁部まで全体的に内窩気味に外傾するものである。

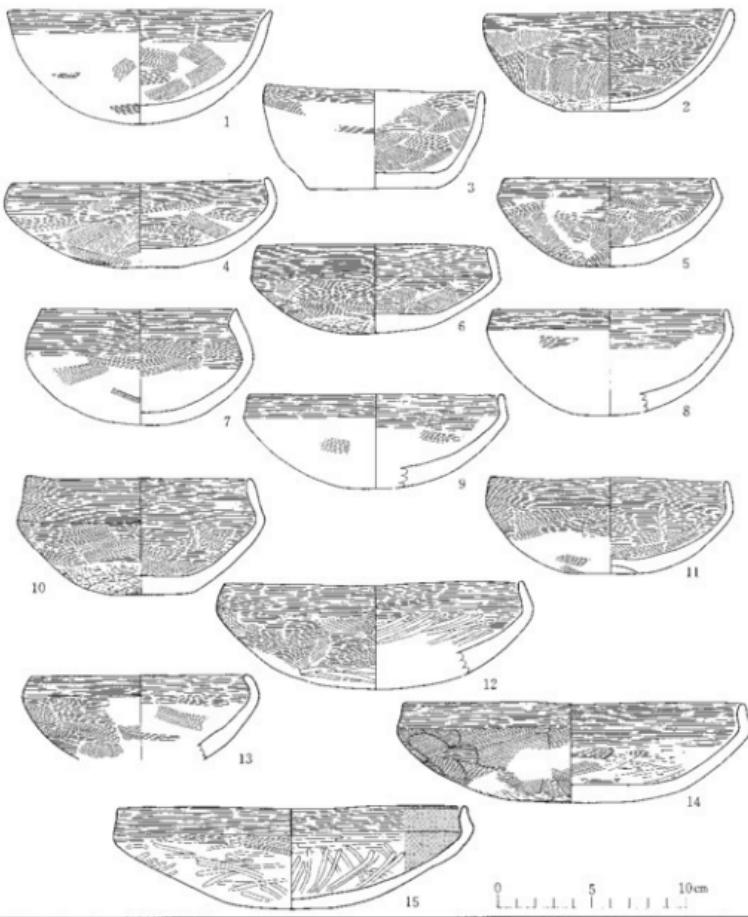
3点ある。全体的に単純な器形で変化のあるものは少ないが、口縁部の内面に稜をもつものもある。底部は丸底のものとと平底のものとがある。

器面調整は口縁部内外面に横ナデが、体部には内外ともナデが施され、外面の体部下端にヘラケズリが施されるものもある。いずれも内外共赤彩されている。

第2類 (第6図4~15・第7図1~5)

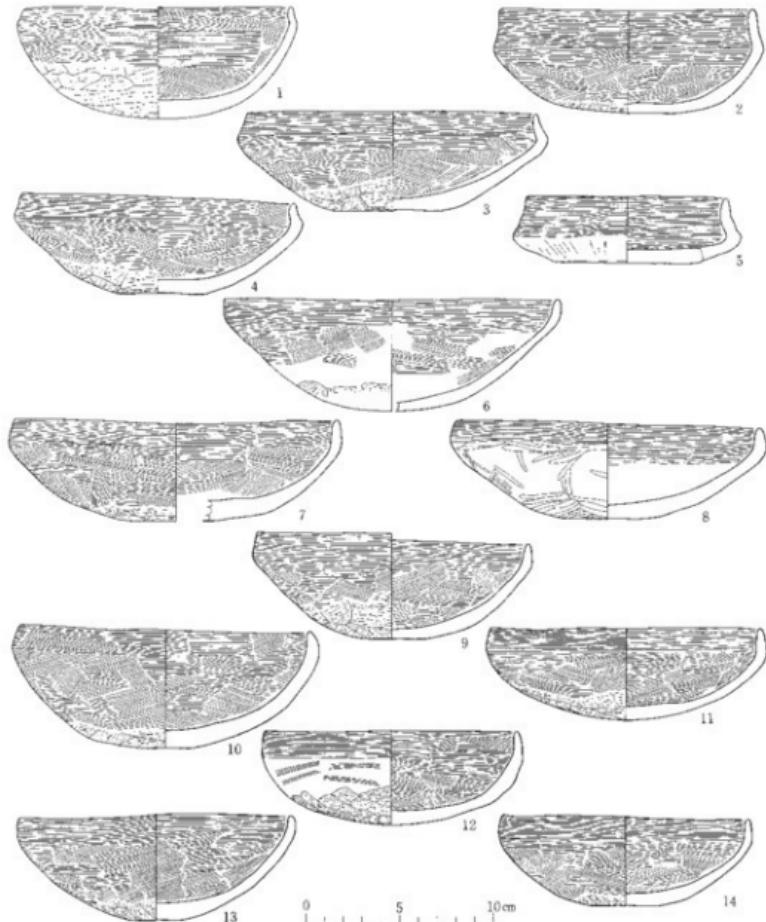
B Iの組合せで、体部が直線的もしくは内窩気味に外傾し、口縁部が内窓するものである。内窓する口縁部の形態によってa・bに細分される。

第2a類 口縁部が内窩気味や直線的に内窓するものである。



No.	土No.	外 因 の 特 徴	内 因 の 特 徴	口径	体径	底径	高さ	分類
1	110	□: 横ナデ、体: ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ナデ 赤彩	14.0			6.1	1
2	41	□: 横ナデ、体: 下~底部へラケズリ→ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ナデ 赤彩	13.4	5.0	5.2	1	
3	106	□: 横ナデ、体: ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ナデ 赤彩	11.6	8.9	5.5	1	
4	10	□: 横ナデ、体: ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ナデ 赤彩	13.8	14.5		4.5	2 a
5	89	□: 横ナデ、体: 下~底部へラケズリ→ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ナデ 赤彩	11.3	12.6		4.7	2 a
6	12	□: 横ナデ、体: 下~底部へラケズリ→ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ナデ 赤彩	12.7	13.4		4.8	2 a
7	92	□: 横ナデ、体: ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ナデ 赤彩	10.5	14.5		6.2	2 a
8	101	□: 横ナデ、体: ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ナデ 赤彩	12.5	13.1		5.6	2 a
9	102	□: 横ナデ、体: ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ナデ 赤彩	13.6	14.1		5.1	2 a
10	32	□: 横ナデ、体: 下~底部へラケズリ→ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ナデ 赤彩	12.0	13.2	4.9	6.2	2 a
11	13	□: 横ナデ、体: ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ナデ 赤彩	12.7	13.2	4.2	5.2	2 a
12	35	□: 横ナデ、体: ナデ→下端へラミガキ 赤彩	□: 横ナデ、体: ナデ→ラミガキ 赤彩	15.8	16.9			2 a
13	1	□: 横ナデ、体: ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ナデ 赤彩	11.6	12.5			2 a
14	81	□: 横ナデ、体: 下端へラケズリ→ヘラナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ヘラケズリ・ナデ 赤彩	18.2	18.9		5.4	2 b
15	6	□: 横ナデ、体: ナデ→ラミガキ 赤彩	□: 横ナデ、体: ラミガキ 黒色丸縁	18.6	19.2		5.5	2 b

第6図 土師器杯(1)



No.	土名	外観の特徴	内面の特徴	口径	体径	底径	高さ	分類
1	20	□: 横ナデ、体: 中一底へラケズリ→横ナデ 赤彩	□: ナデ、体: ナデ	赤彩	14.3	14.9	9.0	2 b
2	66	□: 横ナデ、体: 下~底部へラケズリ→ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ナデ	赤彩	13.0	14.4	5.6	2 b
3	11	□: 横ナデ、体: 下端へラケズリ→ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ナデ	赤彩	15.4	16.5	5.7	4.5
4	14	□: 横ナデ、体: 中~ラタズリ→ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ナデ	赤彩	14.7	15.4	4.6	5.2
5	120	□: 横ナデ、体: ヘラケズリ	□: 横ナデ、体: ナデ・ヘラミガキ?	赤彩	10.8	12.1	7.9	3.5
6	7b	□: 横ナデ、体: 下へラケズリ・体ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ナデ	赤彩	18.0		6.0	3 a
7	69	□: 横ナデ、体: 下~底部へラケズリ→ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ナデ	赤彩	17.3		5.5	3 a
8	10	□: 横ナデ、体: 底部へラミガキ	□: 横ナデ、体: ナデ	赤彩	16.4	17.0	6.5	3 a
9	21	□: 横ナデ、体: 中~底部へラケズリ→ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ナデ	赤彩	14.5	15.0	5.6	3 a
10	30	□: 横ナデ、体: 下~底部へラケズリ→ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ナデ	赤彩	15.5	16.4	6.3	3 a
11	36	□: 横ナデ、体: 下~底部へラケズリ→ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ナデ	赤彩	14.5	15.0	5.0	3 a
12	86	□: 横ナデ、体: 下~底部へラケズリ→ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ナデ	赤彩	13.7		5.1	3 a
13	85	□: 横ナデ、体: ト~底部へラケズリ→ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ナデ	赤彩	14.7		5.7	3 a
14	24	□: 横ナデ、体: 下~底部へラケズリ→ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ナデ	赤彩	13.2	13.5	4.7	3 a

第7図 土器窯 (2)

10点ある。6は口縁部と体部の境の外面に段を有する。また、7・10は口径と器高の比率が0.5より大きく、楕形をなす。底部には丸底のものと平底のもの、底部を欠くため不明のものがある。平底の中には上げ底のものもある。

第2b類 口縁部が外反気味に内傾するものである。

7点ある。第7図5のように体部が極端に短く、器中位より下に屈曲をもつものもある。底部には丸底のものと平底のものがある。

第2類の器面調整は外面が口縁部に横ナデ、体部にナデ・ヘラナデが施され、体部下端から底部にヘラケズリが施されるものが多い。内面は口縁部に横ナデ、体部にナデが施され、ヘラケズリの後にナデが施されるものもある。また、体部の内外両面にヘラミガキが施されるもの(12・15)もある。最終的には内外両面に赤彩されているものが多く、外面が赤彩され内面に黒色処理が施されるものが1点、赤彩・黒色処理ともにみられないものが1点ある。

第3類(第7図6～14・第8図1～13)

B IIの組合せで、体部が直線的もしくは内弯気味に外傾し、口縁部が直立するものである。直立する口縁部の形態によってa・bに細分される。

第3a類 口縁部が内弯気味ないし直線的に直立するものである。

17点ある。屈曲や稜などによって口縁部と体部の境が明瞭なものと、あまり明瞭でないものとがあり、前者が多い。底部は不明なものが1点あるが、丸底のものと平底のものとがあり、丸底のものが多い。

第3b類 口縁部が外反気味に直立するものである。

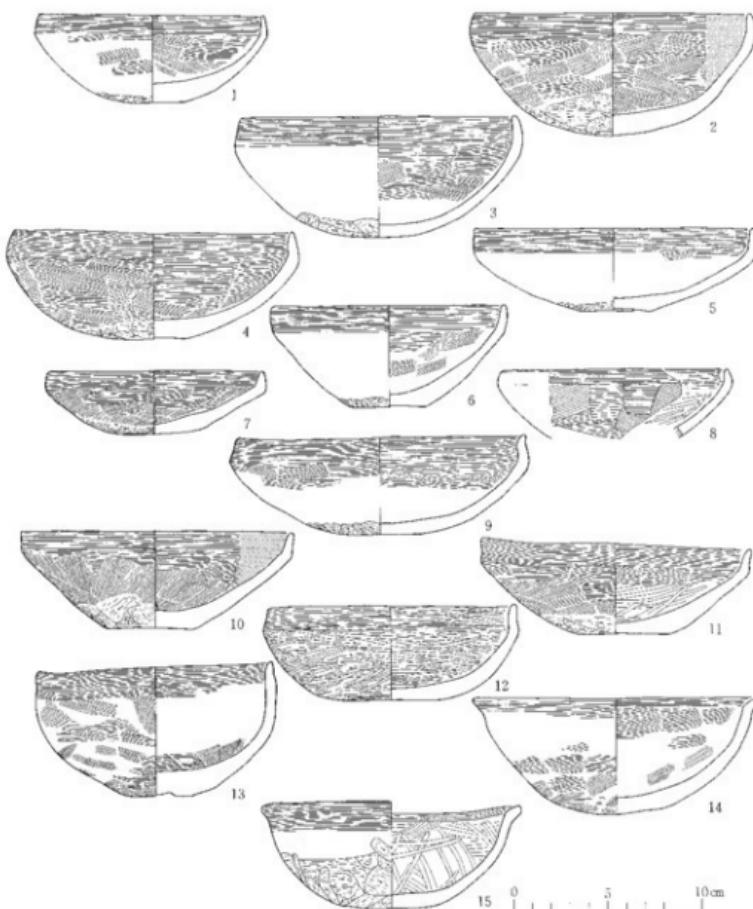
5点ある。口縁部と体部の境の明瞭なものが多いため、不明瞭なものも1点ある(第8図13)。13はまた口径と器高の比率が0.5より大きい楕形のものである。底部はいずれも平底である。

第3類の器面調整は、口縁部の内外両面共横ナデが、体部内外面はナデ・ヘラナデが施され、体部外面の下端から底部までヘラケズリが施されるものが最も多い。第8図12は内面全体と外面の体部と底部に、第7図8は外面の体部と底部に、第8図8と11は体部内面にヘラミガキが施されている。最終的には内外両面に赤彩されているものが多いが、外面が赤彩され内面に黒色処理されるものが1点、外面が無赤彩で内面に黒色処理されるものが1点、赤彩・黒色処理のみられないものが2点ある。

第4類(第8図14・15・第9図1～7)

B IIIの組合せで、体部が直線的もしくは内弯気味に外傾し、口縁部が外傾するものである。

9点ある。口縁部の外傾の度合いが強いものと弱いものとがある。口径と器高の比率で0.5より大きい楕形のものはない。底部には丸底のものと平底のものとがあり、不明のものも1点ある。



No.	土名	外 面 の 特 徴	内 面 の 特 徴	口径	体径	底径	高さ	分類
1	112	口：横ナデ、体：下～腹部へラケズリ→ナデ	赤彩	口：横ナデ、体：ナデ	赤彩	12.0	12.4	4.7 3 a
2	61	口：横ナデ、体：ト～底部へラケズリ→ナデ	赤彩	口：横ナデ、体：ナデ	黑色地刷	14.1	15.1	6.5 3 a
3	9	口：横ナデ、体：下～腹部へラケズリ	赤彩	口：横ナデ、体：ナデ	赤彩	14.7	15.0	6.4 3 a
4	51	口：横ナデ、体：下唇へラケズリ→ナデ	赤彩	口：横ナデ、体：ナデ	赤彩	14.9	15.4	4.0 5.0 3 a
5	65	口：横ナデ、体：下唇へラケズリ	赤彩	口：横ナデ、体：ナデ	赤彩	15.1	3.2	4.0 3 a
6	103	口：横ナデ、体：下唇へラケズリ、底部：ナデ赤彩	赤彩	口：横ナデ、体：ナデ	赤彩	12.4	4.0	5.4 3 a
7	99	口：横ナデ、体：下唇へラケズリ→ナデ	赤彩	口：横ナデ、体：ナデ	赤彩	11.4	4.2	3.4 3 a
8	113	口：横ナデ、体：ヘラナデ	赤彩	口：横ナデ、体：ナデ・ヘラミガキ	赤彩			3 a
9	27	口：横ナデ、体：下唇へラケズリ→ヘラナデ	赤彩	口：横ナデ、体：ナデ	赤彩	15.4	16.0	5.2 3 b
10	107	口：横ナデ、体：下唇へラケズリ→ナデ、底部ナデ	赤彩	口：横ナデ、体：ヘラナデ・ナデ黑色地刷		14.5		5.3 3 b
11	15	13	口：横ナデ、体：下唇へラケズリ→ナデ	赤彩	口：横ナデ、体：ナデ・ヘラミガキ	赤彩	14.4	4.8 5.0 3 b
12	18	口：横ナデ、体～腹部：ヘラミガキ	赤彩	口～底部：ヘラミガキ	赤彩	13.3	13.6	5.2 5.0 3 b
13	45	口：横ナデ、体：ナデ		口：横ナデ、体：ヘラナデ		12.4	3.7	7.0 3 b
14	75	口：横ナデ、体：ナデ	赤彩	口：横ナデ、体：ナデ	赤彩	15.8	6.2	4
15	8	口：横ナデ、体：中～底部へラケズリ	赤彩	口：横ナデ、体：ナデ・ヘラミガキ	赤彩	13.9	5.7	4

第8図 土師器壊(3)

器面調整は、口縁部の内外両面共に横ナデが、体部の内外両面はナデ・ヘラナデが施され、外面の体部下端と底部にはヘラケズリが施されるものが多い。体部内面にヘラミガキが施されているものもある。最終的には内外両面に赤彩されているものが多いが、無赤彩のものも4点ある。

第5類 (第9図8~10)

B IVの組合せで、体部が直線的もしくは内湾気味に外傾し、口縁部が外反するものである。

3点ある。全体の器形の知られるものはないが、全体的に体部から口縁部にかけての屈曲が大きく、口縁部の内面に稜をもつものと内外両面に稜をもつものとがある。底部の形態はいずれも不明である。

器面調整は、口縁部の内外両面に横ナデが施されるものと、外面が横ナデで内面にヘラミガキが施されるものとがあり、体部には内外両面にヘラナデ・ナデが施されるものと、外面にヘラケズリが施されるものとがある。最終的にはすべてが内外両面に赤彩されている。

第6類 (第9図11~13)

C Iの組合せで、体部が内湾し、口縁部が内傾するものである。

3点ある。体部から口縁部に屈曲をもって内傾するものと、屈曲をもたずに全体的に内傾するものとがある。口径と器高の比率は13を除いて0.5よりも大きい椀形のものである。底部はいずれも平底である。

器面調整は、口縁部の内外両面に横ナデが、体部の内外両面にはヘラナデ・ナデが施され、外面の体部下端と底部にはヘラケズリが施されている。体部の内外両面にヘラミガキが施されているものもある。この第6類には赤彩や黒色処理が施されるものはない。

第7類 (第9図14・15・第10図1)

C IIの組合せで、体部が内湾し、口縁部がほぼ直立するものである。

3点ある。いづれも口縁部が短くほぼ直立している。内面に稜をもつものもある。いずれも口径と器高の比率が0.5よりも大きい椀形のもので、最大径は体部上半にある。底部は平底である。

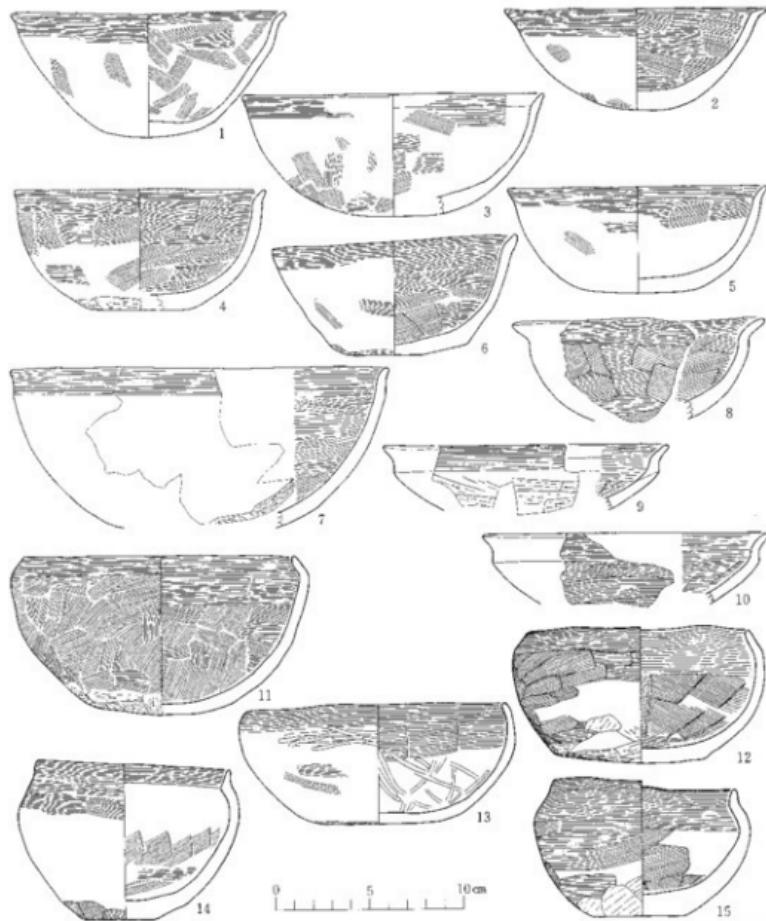
器面調整は、口縁部の内外両面に横ナデが、体部の内外両面にはヘラナデ・ナデが施され、外面の体部下端にはヘラケズリの痕跡を残している。底部外面にはナデが施されている。体部内面にヘラミガキが施されるものもある。最終的にはすべてが内外両面に赤彩されている。

第8類 (第10図2~10)

C IIIの組合せで、体部が内湾し、口縁部が外傾するものである。最大径の位置によって a・b に細分される。

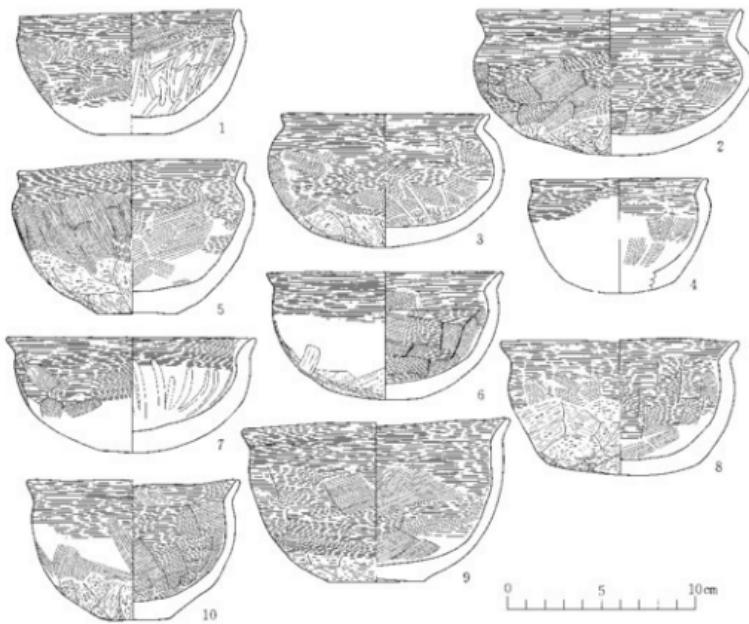
第8a類 最大径が体部にあるもの

4点ある。最大径の位置が体部のほぼ中央にあるものと、体部の上半にあるものとがあり、後者が多い。外傾する口縁部も比較的長いものと短いものとがある。口径と器高の比率ではす



No.	土No.	外 国 の 特徴		内 面 の 特徴		口径	体径	底径	高さ	分類
		口	体	口	体					
1	02	口: 横ナデ、体: ナデ		口: 横ナデ、体: ナデ		14.7			6.7	4
2	111	口: 横ナデ、体: ナデ		口: 横ナデ、体: ナデ		13.9			5.4	4
3	109	口: 横ナデ、体: ナデ		口: 横ナデ、体: ナデ		16.1			6.8	4
4	98	口: 横ナデ、体: 下へ螺旋へラケズリ・ナデ	赤彩	口: 横ナデ、体: ナデ・ヘラナデ	赤彩	13.4	4.0	6.5	4	
5	100	口: 横ナデ、体: ナデ	赤彩	口: 横ナデ、体: ナデ	赤彩	13.9	6.0	5.3	4	
6	7	口: 横ナデ、体: 下へ螺旋へラケズリ・ナデ		口: 横ナデ、体: ヘラナデ・ナデ		13.1	8.5	8.0	4	
7	103	口: 横ナデ、体: 下へ螺旋へラケズリ	赤彩	口: 横ナデ、体: ヘラナデ	赤彩					4
8	97	口: 横ナデ、体: ヘラナデ	赤彩	口: 横ナデ、体: ヘラナデ	赤彩					5
9	115	口: 横ナデ、体: ヘラケズリ	赤彩	口: 横ナデ、体: ナデ・ヘラナデ	赤彩					5
10	114	口: 横ナデ、体: ヘラナデ	赤彩	口: 横ナデ、体: ヘラナデ	赤彩					5
11	90	口: 横ナデ、体: 下へ螺旋へラケズリ→体ナデ		口: 横ナデ、体: ヘラナデ		14.4	15.3		8.5	6
12	57	口: 横ナデ、体: 螺旋へラケズリ→体ヘラナデ		口: 横ナデ、体: ヘラナデ		11.8	13.3	8±	7.3	6
13	97	口: 横ナデ、体: ヘラミガキ・ナデ、底へラケズリ		口: 横ナデ、体: ヘラナデ・ヘラミガキ		13.7	14.7	6.2	6.4	6
14	5	口: 横ナデ、体下へ螺旋・ヘラナ・ナデ	赤彩	口: 横ナデ、体: ヘラナデ・ナデ	赤彩	10.4	11.7	3.8	8.3	7
15	90	口: 横ナデ、体: ヘラケズリ→ヘラナ	赤彩	口: 横ナデ、体: ヘラナデ・ナデ	赤彩	9.8	11.5	4.5	7.5	7

第9図 土師器壺(4)



No.	土器No.	外 壁 の 特 徴	内 壁 の 特 徴	口径	体深	底深	高さ	分類
1	4	□: 横ナデ、体: ナデ、底: ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ナデ→ヘラミガキ 赤彩	11.9	12.2	3.7	6.7	7
2	40	□: 横ナデ、体: 下~底部ヘラケズリ→ヘラナデ ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ヘラナデ→ナデ 赤彩	14.2	15.0	7.8	8 a	
3	35	□: 横ナデ、体: 下~底部ヘラケズリ→ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ナデ→ヘラミガキ 赤彩	11.2	12.6	7.3	8 a	
4	96	□: 横ナデ、体: 上横ナデ	□: 横ナデ、体: ナデ	8.5	9.3	6.6	8 a	
5	87	□: 横ナデ、体: ヘラケズリ→ヘラナデ	□: 横ナデ、体: ナデ	12.3	13.0	4.1	8.3	8 a
6	56	□: 横ナデ、体: 下~底部ヘラケズリ→ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ヘラナデ→ナデ 赤彩	12.7			6.8	8 b
7	23	□: 横ナデ、体: ヘラナデ→ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ナデ→ヘラミガキ 赤彩	13.3			6.1	8 b
8	70	□: 横ナデ、体: 中~底部ヘラケズリ→ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ヘラナデ→ナデ 赤彩	12.8			7.3	8 b
9	37	□: 横ナデ、体: 下~底部ヘラケズリ→ヘラナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ヘラナデ→ナデ 赤彩	14.2			5.1	8.5 8 b
10	94	□: 横ナデ、体: 上~底部ヘラケズリ→ナデ 赤彩	□: 横ナデ、体: ヘラナデ→ナデ 赤彩	11.4			3.2	7.5 8 b

第10図 土器器杯 (5)

べてが0.5より大きく楕形をなす。底部には丸底のものと平底のものとがあり、どちらか不明のものも1点ある。

第8b類 最大径が口縁部にあるものである。

5点ある。口径と器高の比率では1点を除いてはすべて0.5より大きく楕形をなす。底部は丸底のものと平底のものとがある。

第8類の器面調整は、口縁部の内外両面に横ナデが、体部の内外両面にはヘラナデ・ナデが施され、外面の体部下端から底部までヘラケズリが施されるものが多い。平底の底部外面にはナデが施されている。最終的には内外両面に赤彩されるものが多いが、3点は赤彩・黒色処理

などは施されていない。

以上、坏を体部と口縁部の器形の特徴から、第1類から第8類までに分類し、それぞれの特徴を各類毎に述べた。ここでは口径と器高の比率や、底部形態の違い、最終的な器面調整の違いなど分類基準とはならなかった属性について、各類毎にまとめてみる。

口径と器高の比率

口径値で器高値を割った口径と器高の比率は、0.5より大きな数値になると椀形の器形となり、0.5より小さい数値ではより小さいほど皿形の器形に近くなる。

ここでは口径と器高の比率を i . 0.5より大きい椀形のもの、ii . 0.5より小さいもの、iii. 全体形が不明で数値化できないもの=不明なものとに分けて各類別との組合せと数をみると、以下のようになる。

	1	2 a	2 b	3 a	3 b	4	5	6	7	8 a	8 b類	計
i	3	2			1			2	3	4	4	16
ii	6	7	16	4	8	1	3	1		1	1	46
iii	2		1									7
	3	10	7	17	5	9	3	3	3	4	5	69

iii しかない5類を除いて、各類での i と ii の関係をみると、7・8 a類では i だけが、1・2b・3a・4類では ii だけが認められ、2a・3b・6・8b類では i・ii の両方が認められる。この両方が認められる類で i と ii のどちらが主体を占めているかをみると、2a・3b では ii が、6・8b類では i が主体を占めている。

以上のことから 1~4 類では ii が主体を占め、i は含まれているものの少數であることと 6~8 類では i が主体を占め、ii は少數であることが知られる。

底部形態の違い

底部の形態には、i. 丸底のもの、ii. 平底のもの、iii. 底部を大きく欠くため不明のものなどがある。この違いを各類別と組合せ、その数をみると、以下になる。

	1	2 a	2 b	3 a	3 b	4	5	6	7	8 a	8 b類	計
i	1	6	4	12	1	5		1		3	3	36
ii	2	2	3	4	4	3		2	3	1	2	26
iii	2		1			1	3					7
	3	10	7	17	5	9	3	3	3	4	5	69

iii しかない 5 類を除いて、各類での i と ii の関係をみると、7 類を除くすべての類に i と ii が認められる。ii しかない 7 類を含めて 1・3b・6 類では ii のほうが多いが、それ以外の類では i が多數を占めており、i と ii の比率で i のほうが多い類もある(2a・

3a・8a類)。しかし、iとiiの両方の認められる類の多いことは、底部形態の違いと類別との間には強い相関関係はないことを示している。

最終的な器面調整

器面調整として内外両面や外面に赤彩されているものや、内面に黒色処理が施されるものなどがあり、これらをまとめると、i. 内外両面に赤彩されているもの、ii. 外面が赤彩され内面に黒色処理が施されるもの、iii. 外が無赤彩で内面に黒色処理が施されるもの、iv. 内外両面に赤彩・黒色処理とも施されないものとがある。これらを各類別と組合せ、その数をみると、以下のようなになる。

	1	2a	2b	3a	3b	4	5	6	7	8a	8b類	計
i	3	10	5	15	3	5	3		3	2	5	54
ii			1	1	1							2
iii			1	1	1	4		3		2		1
iv												12
	3	10	7	17	5	9	3	3	3	4	5	69

i・iiの赤彩されるものは全体の81%を占めており、iii・ivの無赤彩のものは19%しかなく、赤彩されているものが圧倒的に多いことが知られる。赤彩されているものではiの内外両面が赤彩されるものが大部分を占め、iiの外面のみが赤彩されるものは極めて少ない。各類との関係をみると1・2a・5・7・8b類ではiだけが認められ、2b・3a類ではiが圧倒的に多いがiiも少量認められる。ii・iiiとした内面に黒色処理が施されるものは2b・3a・3b類に各1点ずつあるだけであり、数としては非常に少ないと知られる。このうちiiとした2b類・3a類の2点の外面には赤彩がなされており、黒色処理のみのiiiは3b類の1点だけである。無彩色のivについてみると6類はすべてivで占められており、4・8a類では両面に赤彩されるものとほぼ同数認められるほか、2b・3a・3b類にも少量みられる。

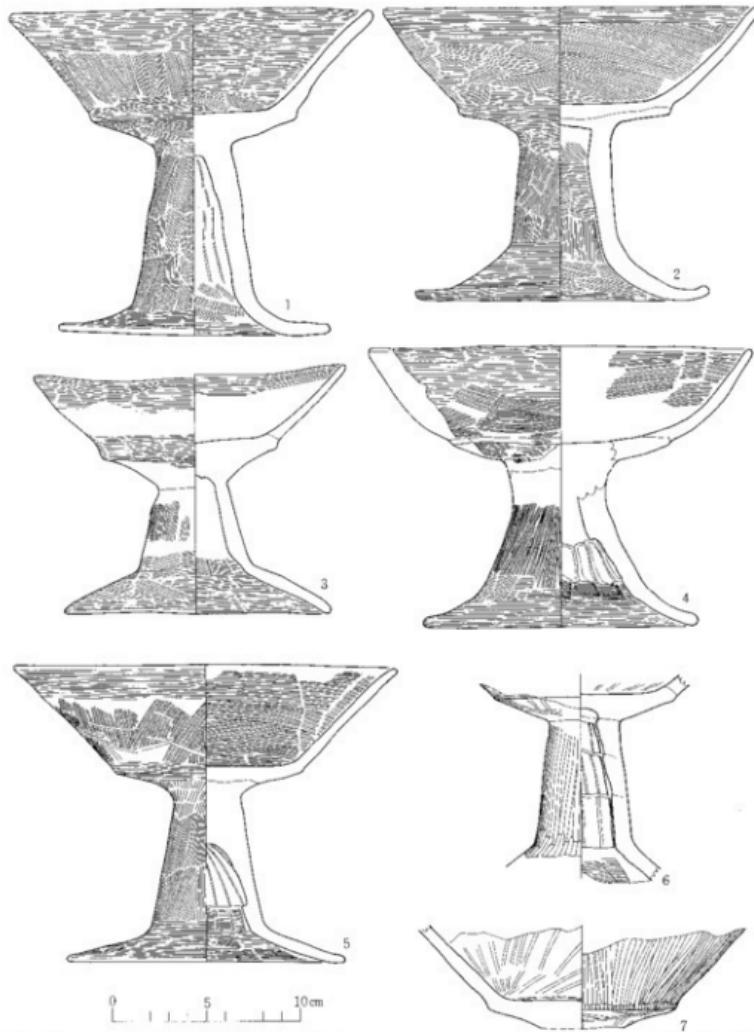
高坏(第11・12図)

図示できたのは9点であるが、全体の器形の分かるものは7点である。坏部の器形が知られるものはすべて坏部下端に段や棱をもっており、これを基準とし、それに脚部の類別を付け加える形で分類をおこなうと、以下のような。

第1類(第10図1~7)

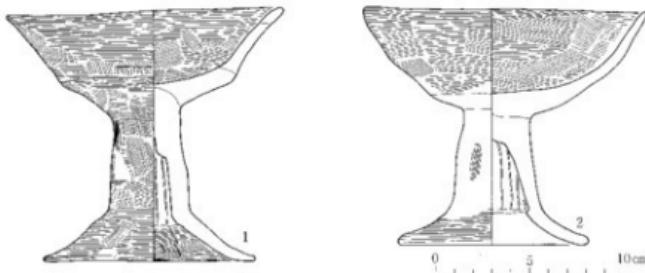
坏部の下端に段をもつものである。脚部の形態によりa・bに細分される。脚部を欠くためa・bどちらに入るか不明のものが1点ある(7)。

第1a類 脚部が下方に向かってやや開く円筒部と、大きく外反する裾部からなる。円筒部



No.	上No.	外 面 の 特 徴	内 面 の 特 徴	口径	周径	器高	脚高	分類
1	50	环:横ナデ・ナデ、脚:ナデ・横ナデ	环:横ナデ・ナデ、脚:ナデツケ・ナデ・横ナデ	19.4	14.4	17.5	10.2	1 a
2	54	环:横ナデ・ナデ、脚:ナデ・横ナデ	环:横ナデ・ナデ、脚:ナデ・横ナデ	19.9	15.6	15.6	9.5	1 a
3	44	环:横ナデ・ナデ、脚:横・横ナデ	赤形	16.6	14.2	13.2	8.8	1 b
4	116	环:横ナデ・脚毛目ナデ、脚:脚毛目横ナデ(赤)	环:横ナデ・脚:ナデツケヘラナデ・横ナデ	20.4	14.7	14.9	8.7	1 b
5	49	环:横ナデ・脚毛目・ヘラミガキ、脚:脚毛目・ナデ・横ナデ	脚毛目	20.4	14.3	15.8	9.4	1 b
6	104	环:ヘラミガキ、脚:ヘラミガキ	赤形	环:ヘラミガキ、脚:ナデツケ・ヘラナデ	赤形			1 b
7	25	环:ヘラミガキ、	赤形	环:ヘラミガキ、	赤形			1

第11図 土師器高环 (1)



Na	寸No	外 面 の 特 故		内 面 の 特 故		口縁	横縫	底高	脚底	分類
		环	横ナデ・ヘラナデ・脚	ナデ	横ナデ赤彩					
1	53	环	横ナデ・ヘラナデ・脚	ナデ	横ナデ赤彩	环	横ナデ・ナデ・脚	ナデツケ	ヘラナデ青彩	14.8 11.3 13.5 8.0 2
2	77	环	横ナデ・ナデ・脚	ナデ	横ナデ	赤彩	环	横ナデ・ナデ・脚	ナデツケ	15.0 10.1 12.8 7.6 2

第12図 土器器高坏（2）

から裾部にはゆるやかに移行し、明瞭な境はもたない。

2点ある。どちらも坏部下端の段は明瞭である。坏部は体部から口縁部にかけて外反気味に外傾するもの（1）と内弯気味に外傾するもの（2）がある。

第1b類 脚部が下方に向かってやや開く円筒部と、「八」の字状に大きく開く裾部からなる。円筒部と裾部の境に屈曲をもって移行する。

4点ある。坏部下端の段が明瞭なもの（3）と小さなもの（4～6）がある。坏部は体部から口縁部にかけて外反気味に外傾するもの（4）と内弯気味に外傾するもの（3）、底部から口縁部にかけて全体的に内弯するもの（5）がある。坏部口縁部から体部上半と脚部裾端を欠くものもある（6）。

坏部と脚部に分けて器面調整をみると、坏部の外面には口縁部と体部下端に横ナデが施され、その間に縱方向や不定方向のナデが施されるものと刷毛目が施されるものとがあり、刷毛目の上にヘラミガキが施されるものもある。底部には横ナデ・ナデが施されている。また、内外両面にヘラミガキが施されるものもある。内面には横ナデ・ナデが施されるものが多いが、外面に刷毛目の施されるものは内面にも刷毛目が施されている。

脚部の外面には円筒部に縦方向のナデ、裾部に横ナデが施されるものが多く、坏部に刷毛目やヘラミガキが施されるものは脚部にもみられる。内面には円筒部の上部にナデツケが、その下にヘラナデ・ナデが施され、裾部には横ナデが施されるものが多い。最終的には内外両面に赤彩されているが、無赤彩のものも1点ある（1）。

第2類（第12図1・2）

坏部の体部と底部の境に稜をもつものである。脚部は下方に向かってやや開く円筒部と、「八」の字状に大きく開く裾部からなり、円筒部と裾部の境に屈曲をもって移行する。

2点ある。坏部の器形には体部から口縁部まで外反気味に外傾するもの（1）と底部から口縁部にかけて全体的に内弯するもの（2）がある。

坏部と脚部に分けて器面調整をみると、坏部の口縁部内外面に横ナデが、体部と底部の内外面にナデ・ヘラナデが施されている。

脚部の外面には円筒部に主として縦方向のナデが、裾部は横ナデが施されている。内面には円筒部に縦方向のナデツケが、裾部にヘラナデ・横ナデが施される。2点とも最終的には内外両面に赤彩されている。

壺（第13・14図）

壺は17点ある。器種別では坏について多い。口縁部破片が1点、口縁端部を欠くものが2点あるが、その他は全体の器形の分かるものである。壺は口縁部の器形を基準に、その長さ・傾き・その他を観察すると以下のように分類される。口縁端部を欠くためこの分類に該当しないものが1点ある（第14図5）。

第1類（第13図1～3）

口縁部が長く、外傾し、中位に段や屈曲をもつものである。

3点ある。1は口縁部中位外面に明瞭な段をもち、段の上・下半とも直線的に外傾している。2は口縁部中位外面に沈線による段をもち、内面にも浅い沈線が巡っており、段から上は内弯気味に外傾している。3は外反する口縁部が大きく屈曲して外面に稜をもつもので、稜から上は欠けて不明である。体部の器形にはi. 球形に近いもの、ii. 横長の橢円形に近いもの、iii. 算盤玉に近いものなどがあり、1はiiiに、2はiに、3はiiに相当する。底部は1が平底で、2・3は丸底である。

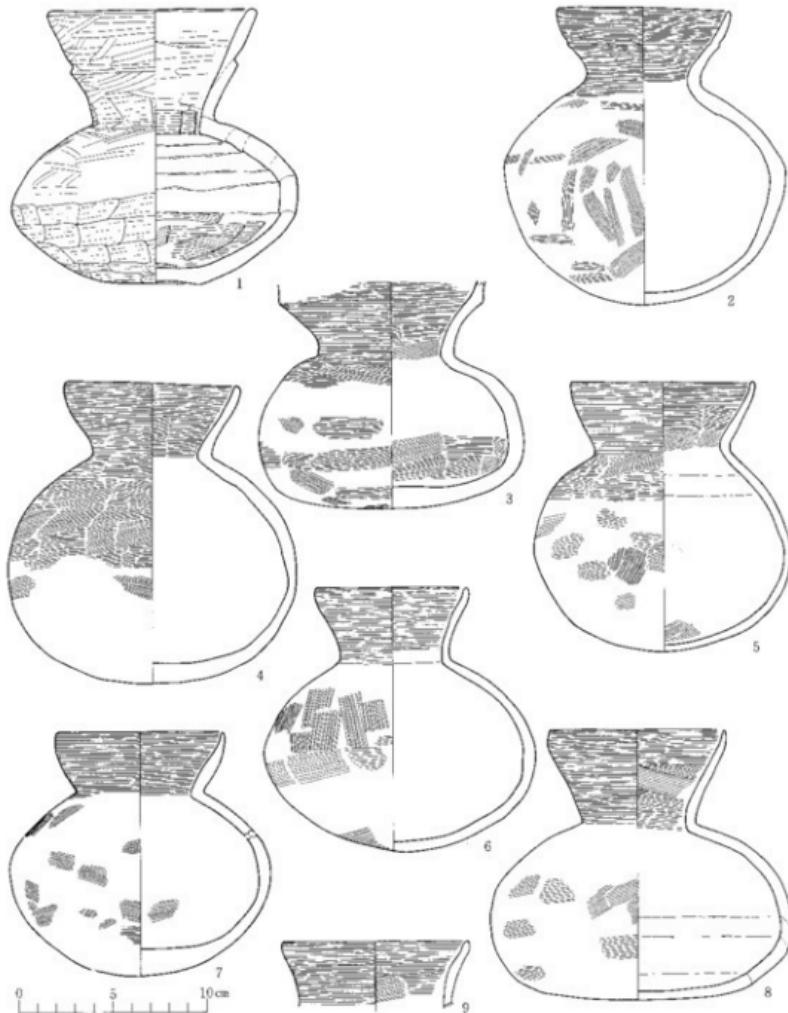
器面調整は2・3は口縁部の内外両面にヨコナデ、体部の内外両面にナデが施されるが、1は口縁部内外両面と体部外面にヘラミガキが、外面の口縁部下端と体部下半にヘラケズリが、内面にはヘラナデが施されている。最終的には内外両面に赤彩が施されている。

第2類（第13図4～9・第14図1・2）

口縁部が長く、外傾し、端部が内弯するものである。

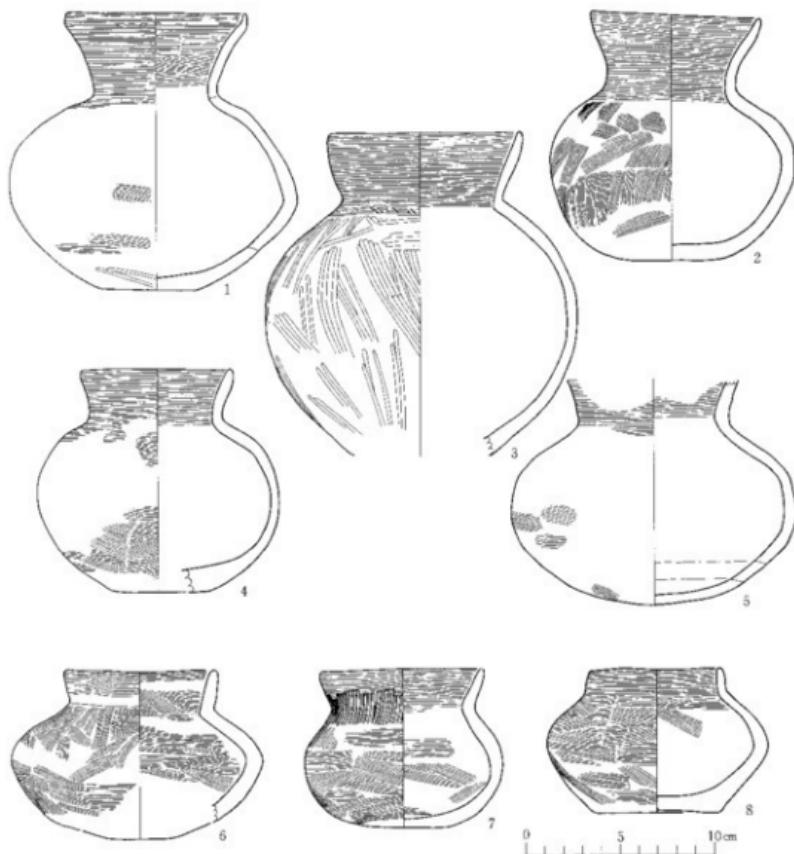
8点ある。1点は口縁部破片で全体の器形の不明のものである（第13図9）。体部の器形がiに相当して丸底のもの（4・5）、iiに相当して丸底のもの（6～8）、iiに相当して半底のもの（第14図1・2）がある。

器面調整は口縁部の外面に横ナデ、内面に横ナデ・ナデが、体部の内外両面にナデが施されることが多いが、体部外面に刷毛目が施されるもの（5・6・第14図2）やヘラミガキの施されるもの（第14図1）もある。いずれも最終的には内外両面に赤彩が施されているが、第14図



No.	土No.	外面の特徴		内面の特徴		口径	体径	底径	高さ	分類
		口: ヘラミガキ・ヘラケズリ、体: ヘラミガキ・ヘラケズリ	身: 形	口: 横ナデ、体: ナデ	身: 形					
1	26			口: 横ナデ、ナデ	身: 形	11.2	14.3	4.8	14.7	1
2	91	口: 横ナデ、体: ナデ	身: 形	口: 横ナデ、ナデ	身: 形	9.3	15.1		15.3	1
3	28	口: 横ナデ、体: ナデ	身: 形	口: 横ナデ、ナデ、体: ナデ	身: 形	11+	14.2		12+	1
4	83	口: 横ナデ、体: ナデ	身: 形	口: 横ナデ、ナデ、体: ナデ	身: 形	9.2	15.4		16.6	2
5	100	口: 横ナデ、体: ナデ・筋毛目	身: 形	口: 横ナデ、ナデ、体: ナデ	身: 形	9.8	13.7		14.3	2
6	93	口: 横ナデ、体: 筋毛目	身: 形	口: 横ナデ、ナデ	身: 形	8.2	14.5		14.1	2
7	119	口: 横ナデ、体: ナデ	身: 形	口: 横ナデ、体: ナデ	身: 形	8.9	13.8		13.0	2
8	73	口: 横ナデ、体: ナデ	身: 形	口: 横ナデ、ナデ	身: 形	9.4	16.1		14.4	2
9	72	口: 横ナデ	身: 形	口: 横ナデ、ナデ	身: 形	10.0				2

第13図 土師器図 (1)



No.	土No.	外面の特徴	内部の特徴	口径	体径	底径	高さ	分類
1	117	口: 横ナデ、体: ナデ・ヘラミガキ 赤彩	口: 横ナデ・ナデ 赤彩	9.7	15.1	4.8	14.7	2
2	92	口: 横ナデ、体: 刷毛目・ナデ	口: 横ナデ・ナデ 赤彩	9.2	13.0	5.5	13.8	2
3	43	口: 横ナデ、体: 刷毛目・ナデ→ヘラミガキ 赤彩	口: 横ナデ 赤彩	10.3	16.1	7.4	17.1	3
4	79	口: 横ナデ、体: ナデ 赤彩	口: 横ナデ 赤彩	8.2	12.9	5.8	11.8	3
5	64	口: 横ナデ、体: ナデ 赤彩	口: 横ナデ 赤彩	—	15.2	—	12+	
6	22	口: 横ナデ・ナデ、体: ナデ	口: 横ナデ・ナデ、体: ナデ 赤彩	8.2	13.4	—	9±	4
7	31	口: 横ナデ・刷毛目、体: ナデ	口: 横ナデ、体: ナデ 赤彩	8.8	10.6	—	10.0	4
8	48	口: 横ナデ、体: ナデ、底: ナデ 赤彩	口: 横ナデ、体: ナデ 赤彩	7.2	11.8	6.7	7.7	5

第14図 土師器壺（2）

2だけは赤彩されていない。

第3類（第14図3・4）

口縁部が長く、単純に外傾するものである。

2点ある。どちらも平底で、体部の器形は3がiに相当し、4がiiに相当する。

器面調整は口縁部内外両面に横ナデが、体部にはナデが施される。3の体部外面にはヘラミガキが施され、体部上端には斜位の刺突痕が一巡している。最終的にはどちらも赤彩されている。

第14図5に示したものは上記の第2類か第3類に相当すると考えられるが、口縁端部を欠くためその判断ができない。

第4類（第14図6・7）

口縁部が短く、単純に外傾するものである。他の類に比べて小形である。

2点ある。体部の器形は6がiiiに相当し、7がiiに相当する。底部はどちらも丸底である。器面調整は口縁部内外両面に横ナデが、体部の両面にナデが施されている。7の口縁部から頸部にかけて縦位の刷毛目がのこる。最終的にはどちらも赤彩されている。

第5類（第14図8）

口縁部が短く、単純に内傾するものである。第4類と同じく小形である。

1点ある。体部の器形はiiiに相当し、底部は平底である。

器面調整は口縁部が内外両面に横ナデ、体部の両面にナデが施されている。最終的には内外両面に赤彩されている。

甕（第15～18図）

甕は13点ある。このうち全体の器形の知られるものは10点ある。甕はその大きさにより器高が30cm以上の大形のもの、20～25cm程度の中形のもの、15cm前後以下の小形のものに分けることができる。

第1類（第15・16図・第17図1）

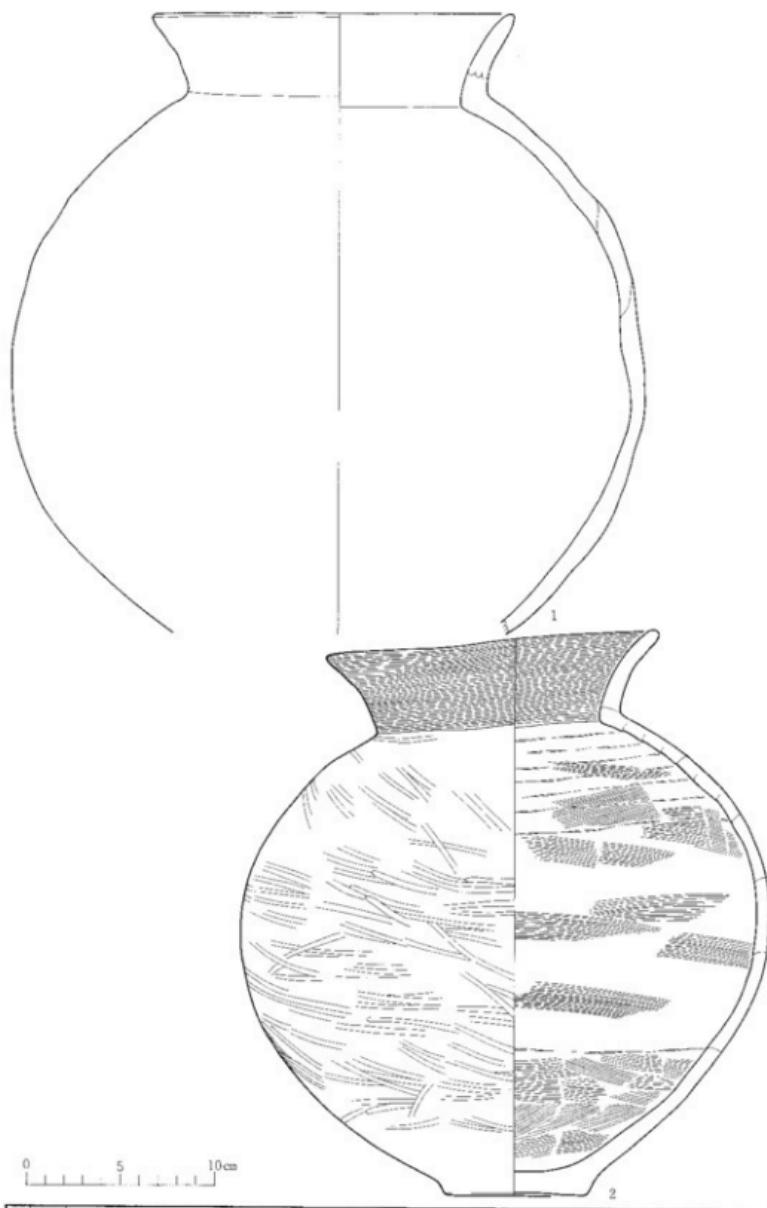
器高が30cm以上の大形のものである。いずれも体部に最大径をもつ。体部の高さと最大径の比較によりa・bに細分される。

第1a類 体部が、高さと最大径がほぼ等しく、球形をなすものである。

3点ある。第15図1が底部を欠くが、他の2点は全体形が分かる。いずれも体部中央に最大形が位置している。3点とも頸部で「く」の字状に屈曲し、口縁部は外反するもの（第15図1・2）と直立気味に外傾し、短いもの（第16図1）とがある。底部は突出した小さな平底で、安定している。

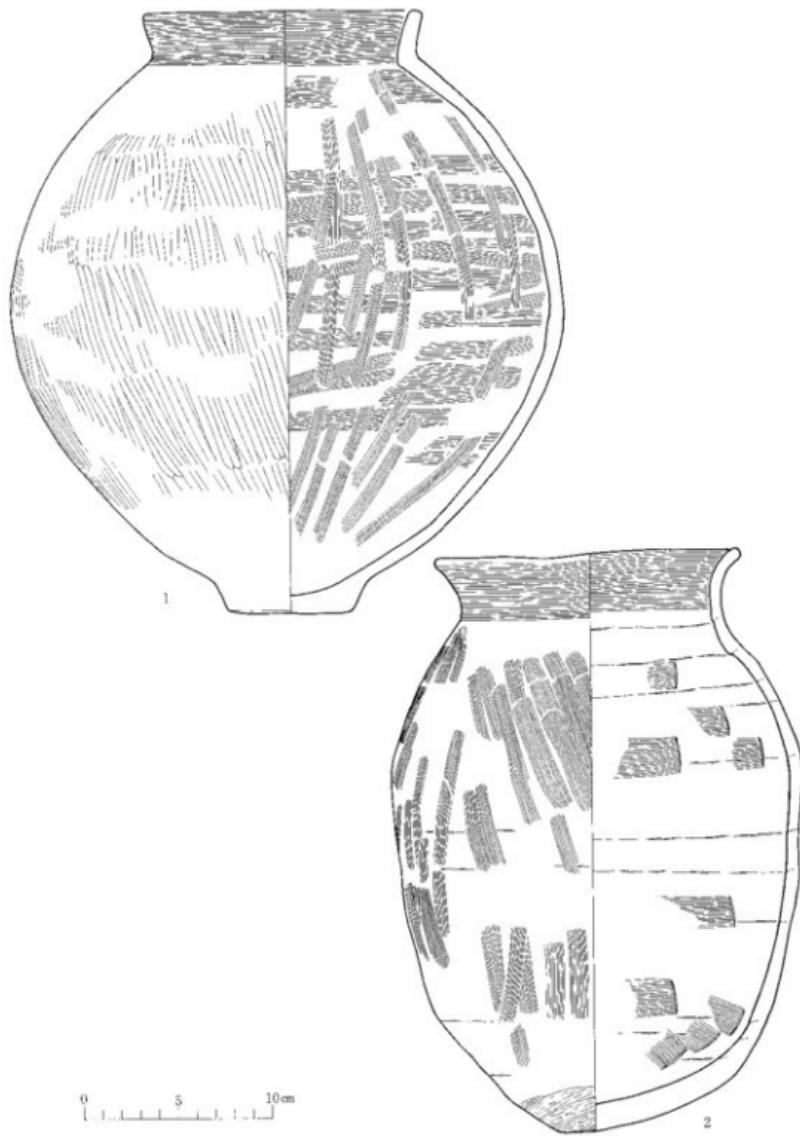
第1b類 体部が、高さの方が最大径より大きく、長胴形をなすものである。

2点ある。最大径の位置には体部上半にあるものと、体部中央にあるものとがある。頸部で「く」の字状に屈曲し、口縁部が外傾するもの（第17図1）と体部から口縁部にかけてゆるく外



No.	土名	外 面 の 特 徴		内 面 の 特 徴		口径	総径	底径	高さ	分類
		形	表面	形	表面					
1	52	不明	不明	不明	不明	18.2	33.0	33.0	1.8	1a
2	47	口: 横ナギ、体: ヘラミガキ	赤彩	口: 横ナギ、体: ナデ・ヘラナギ	赤彩	17.0	28.2	7.2	30.1	1a

第15図 土師器甕 (1)



第16図 土師器甕 (2)

No.	土名	外 因 の 特 徴		内 因 の 特 徴		口径	体径	底径	高さ	分類
		口	体	口	体					
1	58	横ナデ	ヘラミガキ	赤彩	横ナデ、体：ナデ	14.5	29.4	6.8	32.2	1 a
2	46	横ナデ	ナデ、底：ヘラケズリ	口：横ナデ、底：ヘラナデ	18.4	22.0			31.1	1 b

反して、頸部に屈曲もたないもの（第16図2）とがある。底部が丸底風のものもある（第16図2）。

器面調整は、火熱をうけ器壁が剥落して全く不明のものが1点ある（第15図1）ほかは明瞭で、口縁部の内外両面に横ナデが、体部には外面にヘラミガキ、刷毛目・ヘラミガキ、ナデ・ヘラケズリなどが施され、内面にナデ・ヘラナデが施されている。第1a類は不明のもの1点を除いて最終的に赤彩されているが、第1b類は赤彩されていない。

第2類（第17図2・3・第18図1）

器高が20～25cm程度の中形のものである。いずれも体部に最大径をもつ。体部の高さと最大径の比較によりa・bに細分される。

第2a類 体部が、高さと最大径がほぼ等しく、球形をなすものである。

1点ある。口縁端部を欠き、体部も直接接合しないが、全体形はほぼ知ることができる。体部中央に最大径をもつ。頸部で「く」の字状に屈曲して口縁部が強く外傾している。底部は第1a類と同じように突出した平底である。

第2b類 体部が、高さの方が最大径より大きく、長胴形をなすものである。

2点ある。1点は口縁部から体部上半の破片であるが、残存部から推定してこの類に含めた。第17図3は体部中央に最大径をもっており、体部から口縁部にかけてゆるく外反して、頸部に屈曲をもたない。第18図1は頸部で「く」の字状に屈曲して口縁部が直線的に外傾している。

器面調整は口縁部の内外両面や外面に横ナデが、内面にナデが施され、体部の外面には刷毛目とヘラミガキが施されるもの、ヘラケズリとナデが施されるもの、ナデが施されるものがあり、内面にはナデが施されている。第2a類は最終的に赤彩されており、第2b類は赤彩されていない。

第3類（第18図2～6）

器高が15cm前後以下の小形のものである。最大径の位置によりa・bに細分される。

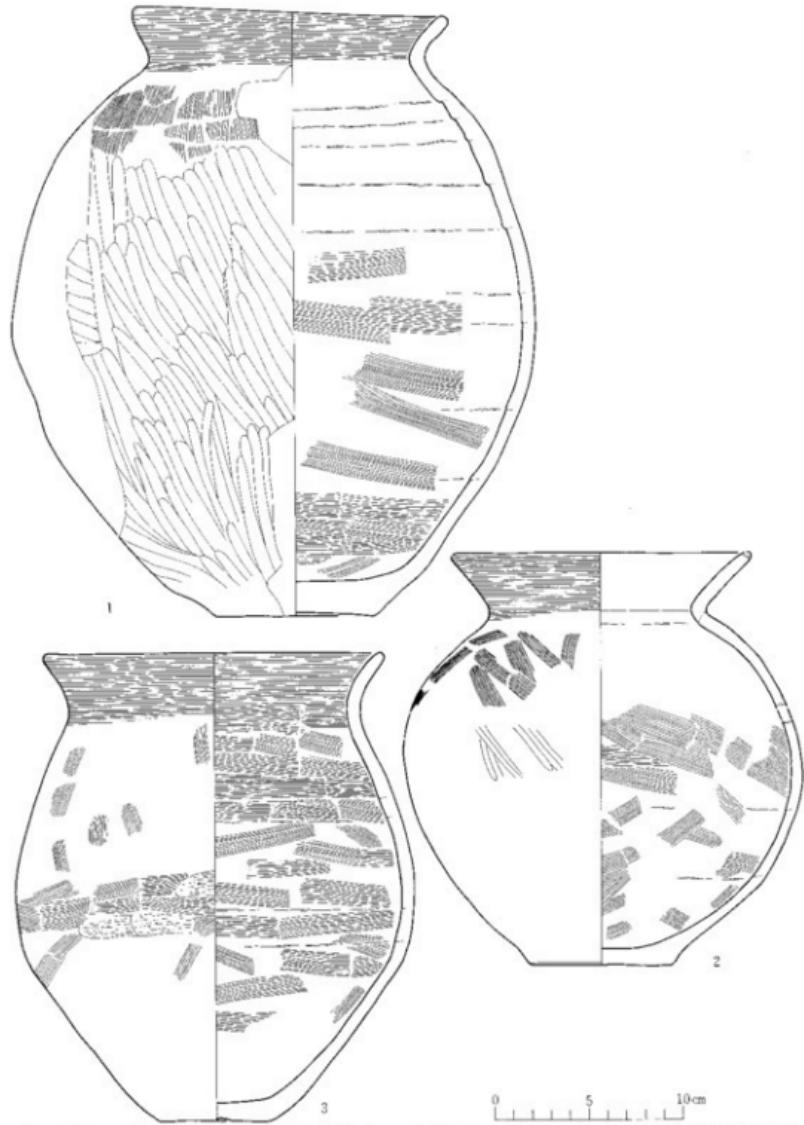
第3a類 体部に最大径をもつもので、体部の高さと最大径がほぼ等しく、球形をなす。

3点ある。1点は体部下半と底部を欠いている。頸部で「く」の字状に屈曲して口縁部が外傾しているもの（2・3）と、体部から口縁部にかけて強く外反するが屈曲をもたないもの（4）とがある。

第3b類 口縁部に最大形をもつもので、体部の高さと最大幅がほぼ等しいが、体部が大きく開くため全体形は鉢形をなす。

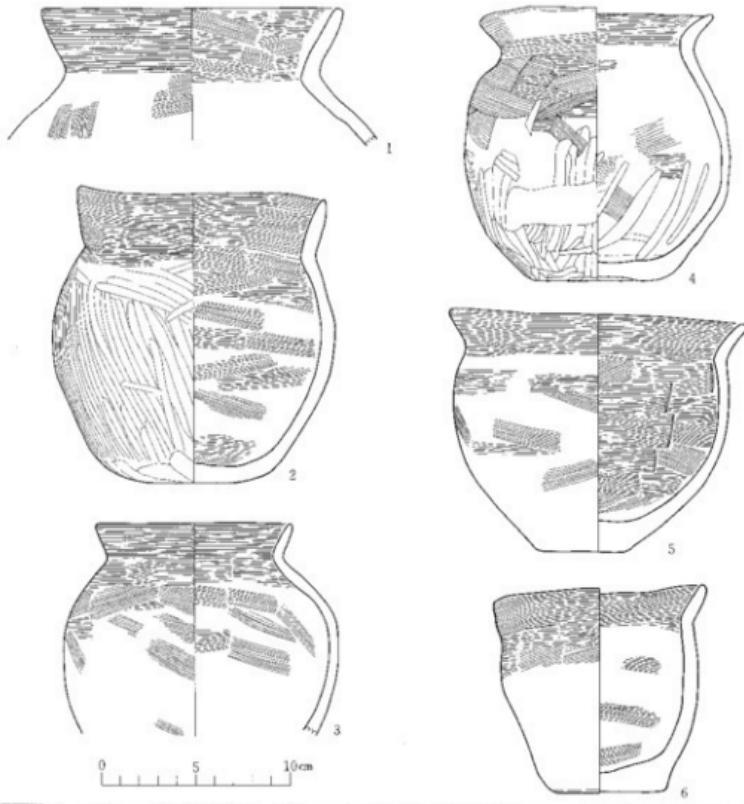
2点ある。頸部で「く」の字状に屈曲し、口縁部が外反するもの（5）と口縁部が外傾するもの（6）とがある。

器面調整はすべての口縁部の内外両面に横ナデが施されている。体部には内外両面にナデが



No.	土名	外面の特徴	内面の特徴	口径	体径	底径	器高	分類
1	55	口:横ナデ、体:網毛目・ヘラミガキ	口:横ナデ、体~底:ナデ	16.8	27.7	8.2	32.5	1 b
2	2	口:横ナデ、体:網毛目・ヘラミガキ	赤彩 口:不明、体:ナデ	16.0	21.4	7.6	22±	2 a
3	71	口:横ナデ、体:ヘラケズリ→ナデ	口:横ナデ、体:ナデ	16.2	21.2	8.0	25.0	2 b

第17図 土師器甕 (3)



第18図 土師器甕 (4)

施されるもの（3・6）、外面にナデ、内面にヘラナデが施されるもの（5）と外面にナデとヘラミガキが施され、内面にナデが施されるもの（2）、ナデ・ヘラミガキが施されるもの（4）がある。すべてが最終的に赤彩されている。

No.	土No.	外面の特徴		内面の特徴		口径	体径	底径	高さ	分類
		口	横ナデ	口	横ナデ					
1	119	口：横ナデ	体：ナデ	口：ナデ		10.1	15.1	4.5	15.0	2 b
2	59	口：横ナデ	体～底：ナデ・ヘラミガキ	赤彩	口：横ナデ、体：ナデ	赤彩	13.2	15.1	4.5	15.0 3 a
3	105	口：横ナデ	体：ナデ	赤彩	口：横ナデ、体：ナデ	赤彩	10.5	14.6	4.2	12+ 3 a
4	16	口：横ナデ	体～底：ヘラナデ・ヘラミガキ	赤彩	口：横ナデ、体：ナデ・ヘラミガキ	赤彩	12.5	14.0	5.5	14.5 3 a
5	84	口：横ナデ	体：ナデ	赤彩	口：横ナデ、体～底：ヘラナデ	赤彩	15.8	14.6	4.7	13.0 3 b
6	96	口：横ナデ	体：ナデ	赤彩	口：横ナデ、体：ナデ	赤彩	11.3	10.5	5.9	11.1 3 b

No.	土器名	種別	外 面 の 特 徴	内 面 の 特 徴	口径	体径	底径	高さ
1	88	ミニ坏	口:ナデ、体:ナデ、底:ナデ	口~底:指頭によるナデ	6.9	4.9	3.5	
2	25	ミニ壺	口:横ナデ、体:ナデ	口:横ナデ、体:ナデ	5.7	7.7		6.2
3	74	ミニ壺	口:横ナデ、体:ナデ	赤彩	6.9	8.0	3.8	8.5

第19図 ミニチュア土器

ミニチュア土器（第19図）

器種には坏・壺・壺がある。これまで分類した各器種とは、明らかに大きさおよび特徴が異なるため、ここに一括した。各1点ずつある。

坏（第19図1）

小形手捏ね土器で、底部から体部・口縁部が直線的に外傾している。指頭によると思われるナデが内外両面に施されている。

壺（第19図2）

口縁部が長く、単純に外傾するものである。この点では壺第3類を小形化したものであるが、底部は丸底である。器面調整は口縁部の外面が横ナデ、内面がナデ、体部の内外面共ナデが施されている。

壺（第19図3）

体部上半に最大径をもち、頸部で屈曲して口縁部が外反している。器形的には壺第3a類に類似している。器面調整は口縁部の外面が横ナデ、内面がナデ、体部の内外面共ナデが施されている。最終的には内外両面に赤彩されている。

土器の赤色顔料の分析について

本遺跡の赤彩された土器の赤色顔料について、仙台市宮城野区苦竹四丁目2番1号に所在する通産省工業技術院 東北工業技術試験所 機械金属部長 岡田 豊明氏（但し、平成2年7月より 岩手県工業試験場長）に分析をお願いした。

本遺跡出土の赤彩された土器壺か壺の接合しない小片複数個について、蛍光X線分析による重元素の定性分析をした結果、いずれにも As, Pb, Hg(S) は見出せず Fe のみが検出され、赤色顔料はベンガラ（酸化鉄）である可能性が強いとの報告を得ている。

2) 土師器の年代

土器類には壺・高壺・壺・甕・ミニチュア土器の5種類の器種があり、前節では各器種毎に器形的特徴などによって分類を行った。この各器種での分類を数量的にみると次のようになる。

坏	1	2 a	2 b	3 a	3 b	4	5	6	7	8 a	8 b類	合計
数量	3	10	7	17	5	9	3	3	3	4	5	69点
高坏												
	1 a	1 b	1	2類	合計							
数量	2	4	1	2	9点							
壺												
	1	2	3	4	5類	不明	合計					
数量	3	8	2	2	1	1	17点					
甕												
	1 a	1 b	2 a	2 b	3 a	3 b類	合計					
数量	3	2	1	2	3	2	13点					
ミニ												
	坏	壺	甕	甕	合計							
数量	1	1	1	3点								

以上のように、分類して数量化された本遺跡出土土器群の特徴をまとめてみると以下のようなになる。

最も数の多い坏は、器形的な特徴などから8類に分類され、さらに細分によって11類に分けられたが、このことは本遺跡出土の坏が器形的に豊富なバラエティーをもっていることを示している。そして数的に最も多いのは第3類の22点で、第2類の17点がそれに次いでいる。第4・8類が9点ずつで、第1・5・6・7類がそれぞれ3点ずつあるという構成になっている。すなわち、器形的には体部が直線的もしくは内弯気味に外傾し、口縁部が直立するものが最も多く、口縁部が内傾するものがそれに次いでおり、この両者で56%強を占めている。体部が直線的もしくは内弯気味に外傾し、口縁部が外傾する第4類と体部が内弯し、口縁部が外傾する第8類とがそれぞれ13%ずつでそれに次いで多く、第1・5・6・7類は各4%を占めるだけであまり多くない。

高环は坏部の器形により2類に分類され、脚部の形態により3類に細分された。脚部を欠くため第1類としか分からぬもの1点を含め、坏部の下端に段をもつ第1類は7点と多く、坏部の体部と底部の境に稜をもつ第2類は2点と極めて少ない。第1a類は脚部が下方に向かってやや開く円筒部と大きく外反する裾部からなり、円筒部から裾部にはゆるやかに移行し、明瞭な境をもたない。第1b類は脚部が下方に向かってやや開く円筒部と「八」の字状に大きく開く裾部からなり、円筒部と裾部の境に屈曲をもって移行する。第1a類は2点、第1b類は

4点あり、第2類の脚部も第1b類と同じであるので、脚部の形態ではa類が2点、b類が6点と差をもっている。

壺は壺に次いで数の多い器種で17点あり、口縁部の器形などから5類に分類された。このうち第4・5類は口縁部が短い小形のもので、残り14点が口縁部の長いものである。口縁部の長い14点のうち13点が第1～3類に類別された。第1～3類のなかで特徴的なのは、8点と圧倒的に数の多い第2類で、外傾する口縁部の端部が内弯する器形をもつものである。第1類は外傾する口縁部中位に段や屈曲をもつもので3点あり、第3類は口縁部が単純に外傾するもので2点ある。口縁部の短い第4・5類は、第4類が単純に外傾するもので2点あり、第5類が単純に内傾するもので1点ある。

甕はその大きさから3類に分類され、器形的特徴などの細分によって6類に分けられた。第1類は大形のもの、第2類は中形のもので、いずれも体部が球形のもの(a)と長胴形のもの(b)とに細分される。この第1a類と第1b類、第2a類と第2b類の数的な関係をみると、第1類ではaが、第2類ではbがそれぞれ1点ずつ多く、合計するとaとbは同数となる。第3類は小形のもので、体部が球形のもの(a)と全体形が鉢形となるもの(b)とがあり、前者が3点、後者が2点である。

ミニチュア土器には壺・壺・甕がある。壺は小形手捏ね土器である点で前述した壺と特徴が異なるが、甕・甕はそれぞれの器種との類似が指摘される。

このように多岐にわたって分類された本遺跡出土土器群は、その出土状態や接合関係から土壤に一括して遺棄されたものであると考えられ、時間的に同時性の強いものであることを示している。

本遺跡出土の土師器と特徴の類似する土器群を宮城県内に求めてみると、北から高清水町東館遺跡竪穴住居跡(加藤:1980)、古川市留沼遺跡第3次調査(土岐山:1981)、名生館遺跡第2・5・6・10次調査(白鳥・後藤:1982・85・86、鈴木・高橋:1990)、多賀城市山王遺跡(高倉他:1981)、仙台市岩切湧ノ井遺跡第1・2号住居跡(白鳥・加藤:1974)、南小泉遺跡(伊東:1950、結城・工藤1978他)、名取市十三塚遺跡(名取市教委:1979)、大河原町台ノ山遺跡第5号住居跡(阿部・千葉:1980)、亘理町宮前遺跡第25・42・45号住居跡(丹羽:1983)、藏正町塩沢北遺跡(小川:1980)、宮城館跡住居跡(狩野:1981)などから出土した土器群がある。

これらの土器はその器形的特徴などから、いずれも氏家と典氏によって大綱が組立られた東北地方の土師器の編年版の南小泉式に位置付けられており(氏家:1957)、本遺跡出土の土師器も南小泉式に比定できるものと考えられる。

南小泉式は宮前遺跡の報告書の中でA・B2群の土器群に分けられ、さらにC群土器が後出するとして3分される可能性が指摘されている(丹羽:1983)。宮前遺跡A群土器は留沼遺跡第

3次調査出土土器や山王遺跡第3遺構出土土器と、B群土器は岩切鴻ノ巣遺跡第1号住居跡出土土器と共通した内容を持つとされ、C群土器としては台ノ山遺跡第5号住居跡出土土器や仙台市富沢埴輪窯跡出土土器（渡辺他：1974）が想定されている。このA・B・C群土器の変遷の順序は基本的には正しいと考えられるので、これらの土器群と本遺跡出土の土器群との比較をして、本遺跡出土土器群の南小泉式の中での具体的な位置付けを検討する。

しかし、本遺跡出土の土器の器種構成が壺・高壺・壺・甕・ミニチュア土器からなっており、甕や大形の壺が含まれてない点、また、先に上げた遺跡の土器群の中に器種の欠落しているものやすべての資料が報告されていない遺跡もある点、さらに本遺跡ほど各器種が数的にまとまって出土している例はなく、特に壺のように数が多いだけでなく器形および細部形態にバラエティーをもつ例はない点など、比較が困難な部分も多くある。

A群土器の良好な資料とされた山王遺跡第3遺構出土土器を本遺跡の分類でみると、壺は8点あり、器形的には第5・6・7類などはないものの他はすべて揃っている。その内訳は第1類が2点、第3類が3点、第2・4・8類が各1点である。高壺は8点あり、壺部には第1・2類が、脚部にはa・bがありこの点では類似するが、脚部上・中部が円錐台状を呈するものや底部に段をもつものがあるという点では異なっている。壺では広口壺の口縁部に屈曲をもつものがあり、この点では第1類に類似するが、大形の壺の口縁部に二重口縁状のものがある点では異なっている。甕は大形・中形・小形のものがあり、この点では第1・2・3類に類似するが、第1・2類の体部形態はaがほとんどで、bに近いものが1点あるだけであり、明確に長胴形になるものと3b類はない。また、1a類の口縁部に二重口縁状になるものがある点でも異なっている。

B群土器とされた岩切鴻ノ巣遺跡第1号住居跡出土土器を本遺跡の分類でみると、壺は7点あり、その内訳は第1類が1点、第3類が3点、第8類が3点である。高壺は2点あり、2a類に相当するものが1点と壺部の体部と底部の境に稜をもつものが1点ある。壺は3点あり、第2類が1点、第3類が1点と口縁部が直立するもの1点である。甕は2点あり、第1b類が1点と第2類に相当する大きさで口縁部に最大径をもつ長胴形のものとがある。この他に無底で把手のつく甕が1点ある。

C群土器とされた台ノ山遺跡第5号住居跡出土土器を本遺跡の分類でみると、壺は6点あり、その内訳は第4類が4点、第8類が2点となっている。高壺は破片が3点あり、2点が脚部でbの形態を持っている。壺は小形の物が1点あるが、口縁部を欠き何類に属するかは不明である。甕は1点あり、体部下半の破片であるが第1a類と思われる。この他に須恵器壺？1点がある。

以上、簡単に丹羽茂氏が提示した南小泉式A・B・C土器群と本遺跡出土土器群との関係を

みたが、前にも述べた数的な差や器種の欠落もあり、必ずしも十分な比較はなし得ない。しかし、共通項の有無から言えば、壺の器形のパラエティーという点で明らかにC群土器とは異なる。残るA・B群土器と比較した場合、A群土器とは各器種共、共通点が多いが、高壺や壺・甕などに本遺跡土器群に認められないものが見られる。高壺の円錐台の脚や有段の脚裾、壺・甕に見られる二重口縁状の口縁部や甕の体部に長胴形になるものがないなどの点で、このことはA群土器が本遺跡出土土器群より古い要素を持っていることを示していると考えられる。一方、B群土器とは高壺の壺部の体部と底部の境に稜を有するものがあることや、甕の体部がすべて長胴形であるなどの相違点が認められ、前者が本遺跡出土土器群より古い要素、後者は新しい要素とも考えられるが、壺や壺・前述以外の高壺や甕に見られる類似は本遺跡出土土器群とこのB群土器がほぼ共通する土器群であることを示していると思われる。このことから本遺跡出土土器群の編年的な位置はB群土器と一致すると考えられる。しかし、A群土器との時間的な差はあまりもたない可能性も考えられる。

このB群土器の年代について丹羽氏は、B群土器と共通する内容をもつ福島県国見町下入ノ内遺跡第1号住居跡での土師器と、共伴する須恵器蓋・蓋壺・把手付椀・壺が下入ノ内遺跡の報告書の中で大阪府陶邑古窯群の「TK216の時期か、TK216の特徴を強く残したTK208の初期の段階のもの」で「5世紀中葉末に想定されるものであろう。」（佐藤他：1980）としているのを引用し、大蓮寺窯とほぼ同じ時期のもので5世紀中葉ではないかとの渡辺泰伸氏の見解と合わせて5世紀中葉と考えている。そしてC群土器については台ノ山遺跡5号住居跡で土師器と共に須恵器壺？や富沢埴輪窯跡が仙台市裏町古墳に埴輪を供給したとされていることから裏町古墳出土の須恵器がTK208型式期のものであることから、田辺昭三氏の説（田辺：1981）を引用し5世紀後葉と考えている。ここでは丹羽氏の年代観を参考にして本遺跡出土土器群の年代を、5世紀中葉頃のものと考えておきたい。

また、本遺跡出土土器群の壺に特徴的にみられた第2類は古川市引田遺跡出土（氏家・大場：1954）の壺と器形的に類似しており、引田遺跡の甕1点・壺7点も、甕は本遺跡の第1b類に、壺は第8類に3点が、第2・3・4・5類に各1点が相当すると考えられる。岩切鴻ノ巣遺跡では引田式として提示された資料を含む形で南小泉式に位置付けるのが妥当としており、このような土器群のあり方は新峯崎遺跡でも確認されたものと思われる。

2. 石製模造品・石器

(1)概要

新峯崎遺跡からは合計702点の石製模造品およびその破片、黒曜石製石核が出土した。その内訳は、勾玉形石製模造品3点、剣形石製模造品26点、鏡形石製模造品（平面形が四角形を呈するもののも含む。有孔円板）75点、白玉568点、破片で器種不明のもの29点、黒曜石製石核1点である。以下ではそれぞれを、勾玉、剣、有孔円板、白玉、破片、石核と記述する。

石製模造品はほとんどが土壌の中から、土器の分布と重なる2つの集中地点を中心にして、それぞれの集中地点の土器の中や下、周辺から出土している。

先に発掘した第2集中地点においては、細かな白玉の出土に気付いてから土壌内の土を鏟にかけ、第1集中地点では土壌内のすべての土を箒にかけたが、一部後世の耕作や重機により破壊された部分もあるため、いずれも持ち込まれた当時の正確な点数を反映はしていない。しかし実態と大きくかけ離れた数値ではないと考えられる。

また、土壌を切る第2溝からも出土しているが、これらも出土状態から、もとは土壌内にあったものと判断して、重機により取り上げられたものと一括し、出土地点不明としてあつかった。

石製模造品の石材は粘板岩、雲母片岩、砂質岩、滑岩などが用いられ、粘板岩、砂質岩については肉眼観察によりそれぞれ6つ、4つの同一石材に（注1）に分類できた。石材番号では、粘板岩①②③⑩⑪⑫、砂質岩④⑤⑥⑦、滑岩⑧、雲母片岩⑨、その他⑬、である。合計12の同一石材に分類ができたことになる。

石製模造品の破片も出土しているが、点数は少なく全体の中で占める割合は低い。これらは石製模造品の製作過程で作出されたものではなく、石製模造品本体から折れたり、剝がれたりしたものであって、基本的にはこの場所には完成品しか持ち込まれていないと考えられる。

(2)出土状況（第5図）

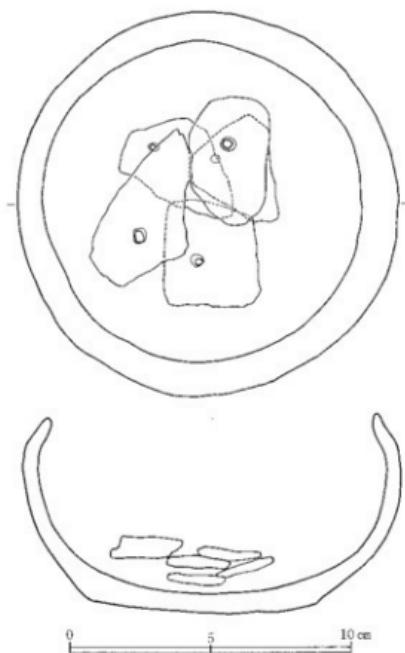
先にも述べたように、土器の分布と重なって主に2つの集中地点から出土しているが、土器から離れて土壌の縁の高い部分や、土壌の外にも分布が認められる。ただし後者は後世の擾乱により土壌の原位置から遊離したものと考えられる。出土層位別では、土壌埋土の最下層の第4層と土壌底面から多く出土しているものの、第1～3層からも出土している。土器の出土状況をみると、土器は重なって出土しており、また土壌を確認した面すでに土器の一部が露出し、また一部は後世の耕作により壊されている。第1～3層から出土した石製模造品については、土壌の肩の部分にあったものが流れてきたか、あるいは土器の出土状況から判断して土器の中に入っていたものがこぼれたものと考えられる。

土器番号	器種	勾玉	劍	有孔円板 ・複孔	有孔円板 ・単孔	臼玉	土器図版 番号
3	中形甕	1(1)	2(11~17)	1(1)	1(64)	27(1~27)	17 - 2
7	坏					3(28~30)	9 - 6
8	坏					4(31~34)	8 - 15
9	坏			1(10)			8 - 3
11	坏					4(35~38)	7 - 3
12	坏					10(39~48)	6 - 6
14	坏					1(49)	7 - 4
15	坏					2(50~51)	8 - 11
16	小形甕					1(52)	18 - 4
17	坏				1(62)	2(53~54)	6 - 11
18	坏			1(2)		4(62~65)	8 - 12
19	坏		1(2)	1(3)	1(63)	7(55~61)	7 - 8
21	坏					1(89)	7 - 9
22	小形甕					2(90~91)	14 - 6
23	坏					8(92~99)	10 - 7
24	坏			1(4)			7 - 14
28	長頸甕					20(66~85)	13 - 3
29	甕					2(86~87)	國化不能
33	坏			1(22)		1(88)	6 - 12
42	大形甕		1(8)	2(5~25)		1(564)	15 - 2
54	高 坏			2(28~29)			11 - 2
57	坏		4(23~26)		1(75)		9 - 12
74	ミニ甕		1(20)				19 - 3
80	長頸甕					1(104)	13 - 5
92	長頸甕			2(6~60)		4(565~568)	14 - 2
不明				2(18~30)	1(66)		
計		1	9	14	5	105	

カッコ内の番号は各器種の属性表の番号と一致する。

第4表 土器内出土石製模造品一覧表

土器の中から出土したものについて、土器の番号と石製模造品の点数を表にして示した（第4表）。石製模造品の入っていた土器は25点であり、第1集中地点6点、第2集中地点19点と第2集中地点に多く認められる。入っていた土器の器種は、第1集中地点では偏ることがなく様々なものが認められ、第2集中地点では高坏ではなく、坏の数が16点と非常に多い。石製模造品の器種では第1集中地点には勾玉はないものの、組合せとして、劍・有孔円板・臼玉、劍・有孔円板・有孔円板・臼玉、劍のみ、有孔円板のみ、臼玉のみがそれぞれ1例ずつある。これに対して第2集中地点では偏りが認められ、勾玉・劍・有孔円板・臼玉すべてあるもの1例、劍・有孔円板・臼玉1例、有孔円板・臼玉3例、有孔円板のみ2例、臼玉のみ12例である。1個の土器の中に入っていた石製模造品個別の点数では、勾玉1点、劍1~4点、有孔円板1~3点、



第20図 坯内剣・有孔円板・単孔出土状況

められない。意図的に入れられていたと考えられる坯No57では5点も入っていたが、坯No57以外の土器の中には1~4点ずつ入れられたのかもしれない。これ以外、組合せや点数という面では、それが意図的に入れられたという積極的な根拠は見出しえない。白玉が数点あるものについても、細かなものを数点だけ入れたとは考え難く、意図的に入れられたもののうち大部分がこぼれた残りなのか、あるいは僅かに流れ込んだものなのか判断は困難である。

以上より、石製模造品の組合せや点数、あるいは出土状況から土器の中に意図的に入れられたと思われるものは坯No57のみであり、それ以外のものについては、明確な判断材料はなく、不明といわざるを得ない。

(3)分類・分析

白玉および点数の少ない勾玉、石核を除いて、分類は平面形態のみでおこない、それらと諸属性の相関、あるいは他の諸属性間の相関を検討して、形態、製作技法、出土状況を中心に、それぞれの特徴を明らかにするための分析をおこなう。

剣と単孔の有孔円板の一部には、同一石材を用い製作技法も類似しているために区別が困難

白玉1~27点であり、前3者は点数が4点を越すことはない。

出土状況から、明確に意図的に入れられたと判断できるものとして、坯No57(第9図12)の内部底面からから折り重なるように出土した剣4点・有孔円板1点がある(第20図)。坯No57の上には他の土器が重なり、後述するような類似した特徴をもつものが坯No57の中に後から流れ込んだとは考え難く、目的を持って意識的に入れられたものと思われる。その他には、出土状況から意図的に入れられたと思われるものはない。

石製模造品の組合せや点数という面でも、坯No57から出土した剣などは石材や大きさが同じで、粗く作られて形態も類似する事など共通する点が多い。その他では、白玉を除いて1~4点しか入っていないということのほかには傾向性は認め

なものが認められた(第40図11、第42図5など)。これらは、平面形態がより剣に近く、孔の位置も一方に偏るものを剣とし、孔の位置が中央に近いものを単孔の有孔円板とした。

1. 勾玉 (第41図1~3)

第1集中地点から2点、第2集中地点から1点の合計3点出土している。

すべて粘板岩¹²の同じ石材を用いており、この石材は白玉で8点用いられているだけで、剣、有孔円板では用いられていない。また製作技法的にも内湾部分を金属器で挟っている点が共通している。しかし、図をみても明らかなように大きさや厚さ、平面形態、断面形態、孔の位置などはそれぞれ異なっている。

点数が少なく、個々の特徴は異なるものの、他にはあまり用いられていない石材のみを使用している点など、非常に特異なありかたを示している。

2. 剣 (第41図4~14)

合計26点出土している。

a) 平面形態

平面形態は以下のように分類できた(第21図)。

I類 基部が平坦ですぼまる細長い五角形状を呈するもの。長軸に沿った中軸線に対して線対称をなす。

II類 一侧辺が基部から先端まで明確な屈曲点をもたず弯曲し、他側辺の基部側に2つの屈曲点が認められるもの。基部は長軸に対して直交し平坦である。

III類 I類と類似するが、I類では平坦な基部が斜めになり、見た目では基部が尖っているもの。

IV類 その他。

I類からIII類まで、いずれも基本的な形態は五角形状を呈する。

I類が最も多く全体の半数近くの12点を占め、それ以外は4~5点とほぼ同じ割合である(第6表)。

b) 大きさ (第22図)

破損して不明なものを除くと、ア群：長さ3.5~4.5cm、幅1.5~2.5cmに集中する細長いもの、イ群：長さ3.5~4.5cm、幅2.5~3.5cmに集中する幅広のもの、ウ群：長さ5cm以上の大

形のものの3群に分けられる。



第21図 剣分類図

その他
育類

c) 鎬の有無

鎬が作出されているものは15点あり、そのうち1点は両面に認められる。また11点には鎬は作出されていない。

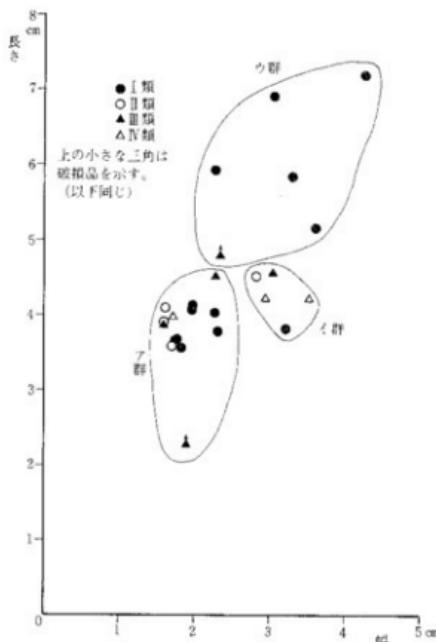
石材 器種	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	計
勾玉											3			3
劍	4	2		1		8	1		9		1			26
有孔円板・複孔	28	11	6	5	1	1	1	2	3		1		1	60
〃・單孔						3		12						15
器種不明		4	1		1	8		1	14					29
計	32	17	7	6	2	20	2	3	38	0	2	3	1	193

第5表 器種別石材内訳

石材 類型	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	計
I	1	0		0		0	(1)	0		2		0		3(1)
	0	1		1		2	1		2		1			8
II	2	0								1				3
	0	1								0				1
III	1					1			1	(1)				3(1)
	0					1			0					1
IV						0			1	(1)				1(1)
						3			0					3
計	4	0		0	1	1	(1)	0		5	(2)	0	1	10(3)
	0	2	0	1	0	6	1	0	2	0	1	0	0	13

(左上…第1集中、右下…第2集中、カッコ内…不明)

第6表 剣類型別石材、集中地点内訳



第22図 剑・類型別長幅相関分布図

d) 石材（第5表）

合計7つの同一石材が用いられているが、そのうちの3つ、⑨、⑥、①が主に用いられている。

e) 孔径（第23図）

点数が少なく散漫であるが、直徑2.0~3.2 mmに集中し、より大きいものが僅かに認められる。

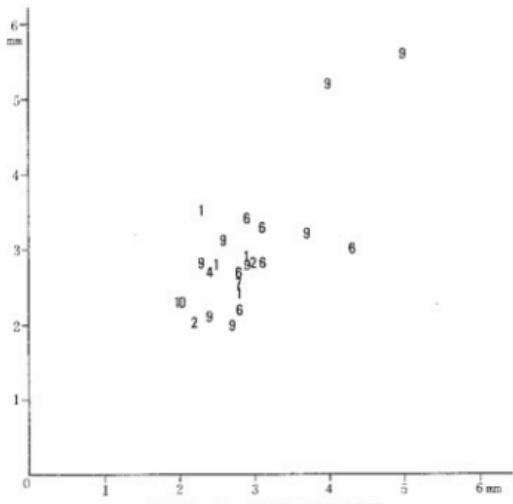
f) 金属器の加工痕（注2）

金属器の加工痕として明確に認められる例はない。

g) 出土状況

合計26点のうち、第1集中地點からは10点、第2集中地點から13点、第1集中地點の東側の第2溝の埋土から3点出土している。特に大きな偏りはない。

以下ではこれらの属性の間で相関が認められたものについて記述をおこなう。



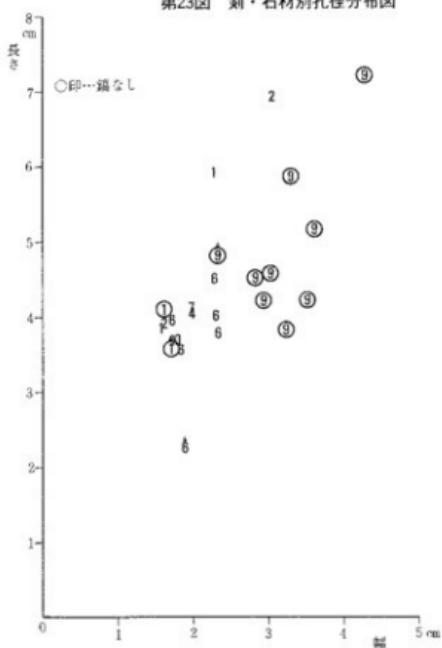
第23図 刻・石材別孔径分布図

まず a) 平面形態と b) 大きさである(第22図)。I類はア群の中央とウ群の二つに分布し、その他はア、イ群に主に分布する。大形のものはほとんど I類であり、それ以外は小形である。

また d) 石材の中では⑥と⑨に e) 孔径との相関が認められた。どちらも孔径は大きい傾向が認められる。

その他、形態、製作技法と関係するものとして、b) 大きさ、及び c) 鑄の有無と d) 石材の相関が認められる。第24図をみると、石材①で作られたものは細長く、石材⑥はやや細長く、石材⑨は幅広で大形である。また、鑄のないものは①と⑨の石材だけであるが、特に石材⑨は筋理が発達して非常に剥がれやすく、細かな加工や鑄の作出は困難と思われる。これは石材により形態が強く規定された一例であり、この場合には形態と石材は強い相関があるといえよう。

出土状況と諸属性の相関を見ると(第6表)、a) 平面形態の I類は第2集中地点に多い。また c) 鑄がなく、かつ d) 石材の①、⑨を用いたものは第1集中地点に多く、鑄があり、石材の②、④、⑥、⑦、⑩を用いたものは第2集中地点に多い。以上のように集中地点



第24図 刻・石材別長幅相関分布図

で異なる様相も認められる。

3. 有孔円板 (第42図、第43図 1~6)

合計75点出土している。孔の数が1つのものと2つ以上のものがあり、以下では単孔の有孔円板、複孔の有孔円板として個別に記述を行う。

3. - 1. 複孔の有孔円板 (第42図)

60点認められる。3点に認められる未貫通の孔 (第41図2、17など) や、4点に認められる縁にある欠けた孔 (第41図13など) を除いては、完全な孔が3つあるのは1点だけであり (第41図8)、これ以外はすべて孔2つである。

a) 平面形態 (第7表)

平面形態は以下のように分類できた (第25図)。

I類 円形。

a ほぼ正円形を呈するもの。

b 楕円形を呈するもの。

II類 圓丸長方形。

III類 その他。不整形。

III類が22点と最も多く、19点のI a類が次いで、11点のI b類、8点のII類はそれらのおよそ半数である。

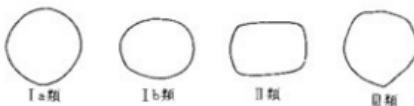
b) 大きさ (第26、27図)

20~40 mm、長幅比で3:2~1:

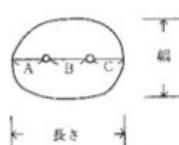
1の間に分布し、長幅比3:2付近にやや離れたまとまりがみられる程度で、顕著な集中は認められない。

c) 孔間隔B (第26図、28図)

3.7 mm~25.0 mmと幅があるが、およそ10~16 mmの間に集中する傾向は認められる。しかしこれも幅があり際だった集中ではない。



第25図 有孔円板分類図



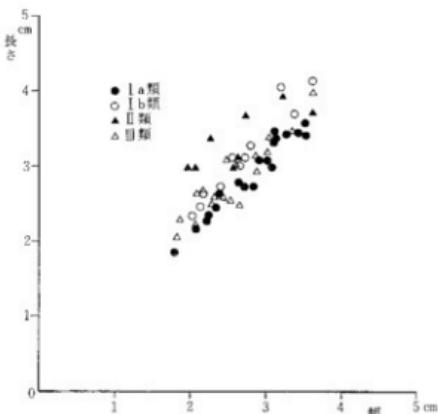
第26図 有孔円板計測基準

種類	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	1面 平均	2面 平均	3面 平均	4面 平均
I a	4 (1) 6	1 (1) 1	2 (2) 2	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	6	11	2	10
I b	1 (1) 0	1 (1) 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	6	1	11
II	0 (1) 0	1 (1) 1	0 (1) 1	0	0	0	0	0 (1) 1	0	0	0	0	0	12	4	2	8
III	2 (2) 4	2 (2) 5	1 (2) 1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	7	12	3	22
1面中	7	3	2	2	1	0	0	2	1	0	0	0	1	10			
2面中	17	7	2	3	0	1	1	0	1	0	1	0	0	33			
不明	4	1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		0		
合計	70	11	6	5	1	1	1	2	3	0	0	0	1		60		

第7表 有孔円板(複孔)類型別石材、集中地点内訳

d) 孔間隔比 (第29図)

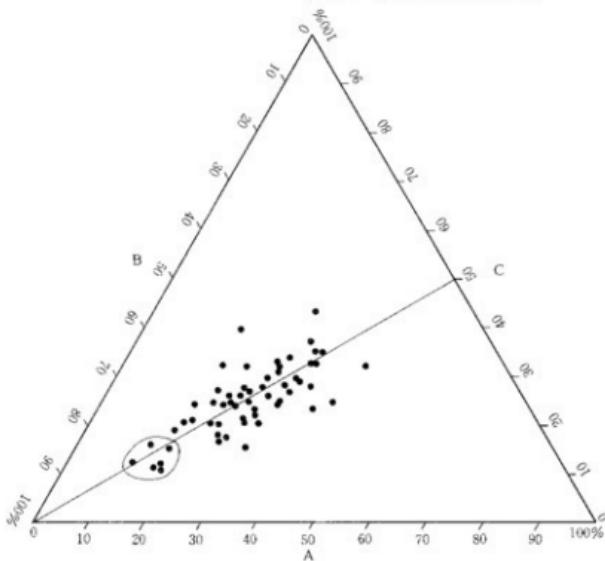
孔間隔のA、B、Cの比率について三角ダイアグラムで示した。これも疎らに分布するが、左下の角の二等分線を中心に分布する傾向がある。これはAとCの比率が等しいこと、つまり側面からのそれぞれの孔の距離が等しいことを示しており、孔はほぼ左右対称の位置に穿たれていることが分かる。また図の左下にやや散漫ながら集中が認められる。これらは、より両端近くに孔が穿たれ、孔の間隔が本体の幅に比べて広いものであることを示し



第27図 有孔円板(複孔)類型別長幅相関分布図



第28図 有孔円板(複孔)孔間隔B



第29図 有孔円板(複孔)孔間隔比三角ダイアグラム

ている。

e) 石材 (第5表)

全部で11と、多様な石材が用いられているが、①がほぼ半数を占め、次に多い②、③、④の石材を足すと4つで全体の80%以上を占める。

f) 孔径 (第30図)

大きくとらえて1…1.4~1.5 mm、2…1.8 mm、3…2.0 mm、4…2.3 mm、5…2.6 mm

の5つのピークが認められる。1は点数は僅かであるが他よりも数値が離れ、2～4は大きくまとめるると2.0 mmを中心とし、5は2.6 m mを中心と正規分布をなす。

g) 金属器の加工痕

金属器の加工痕としては、擦切り痕状を呈する金属器の刃先の痕跡(第41図16など)と、周辺の表裏面と側面のなす稜線を削り取るような加工痕(第41図2、7、9など)が認められる。前者は6点に認められ、平面形を粗く整えるときの痕跡と思われる。また後者は8点に認められ、これも大まかな整形の痕跡と考えられる。

h) 出土状況(第7表)

第2集中地点から多く出土し、出土地点不明のものをすべて第1集中地点に含めても点数に依然として偏りが残る。

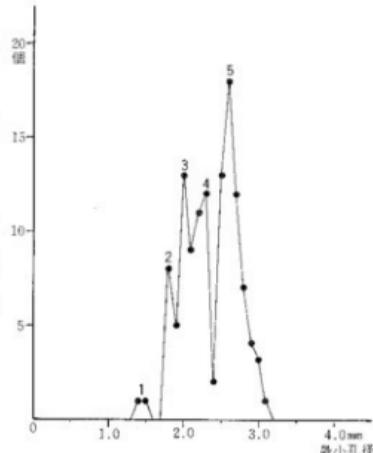
以上の属性間で当然ながら強い相関がみられるのはa) 平面形態とb) 大きさであり(第27図)、II類→I b類→III類→I a類の順で幅広になる。

a) 平面形態とc) 孔間隔Bには弱い相関が認められ(第28図)、I a類、I b類はまんべんなく分布するのに対して、II類は間隔が広い傾向があり、III類は狭い傾向がある。

a) 平面形態とe) 石材にも相関が認められる。平面形態別にはI a類・I b類は①、III類は①・②の石材を主に用い、II類は用いられる石材に偏りはない。石材別では、②、④がそれぞれIII類、I a類に主に用いられている。

出土状況と強い相関のある属性は認められない。

孔が3つあるものは対称性からみると、中央の孔が余分である。どのような理由で孔が3つ穿たれたかは不明である。側面に接した欠けた孔は1つずつ4点に認められたが、孔の位置や大きさには規則性は見出しえない、また貫通していない孔が3点に認められたが、これも同様である。



第30図 有孔円板(複孔)最小孔径個数

3.-2. 単孔の有孔円板 (第43図1~6)

15点出土している。

a) 平面形態 (第8表)

分類基準は複孔に準じる。

II類3点とIII類12点だけであり、III類がほとんどである。I類は認められず、従って円形を呈するものはない。またIII類でも多くは多角形状を呈し、特に六角形状を呈するものが多い。

b) 大きさ (第31図)

18 mm~47 mm の間に分布し、図では3つの集中がみられるが、中央の集中は1点のみである。

c) 孔間隔 (第32図)

図の比率で見てみると、3:4を中心1:1との間に分布するものが多く孔はほぼ中央にあることが分かる。また1:2を中心に分布するもの、1:3付近に分布するものが認められるが、孔が偏るこれらのものはそれぞれ1点、2点と点数が少ない。

d) 石材 (第8表)

石材は⑥と⑨しか用いられず、ほとんど⑨(15点中12点)である。

e) 孔径

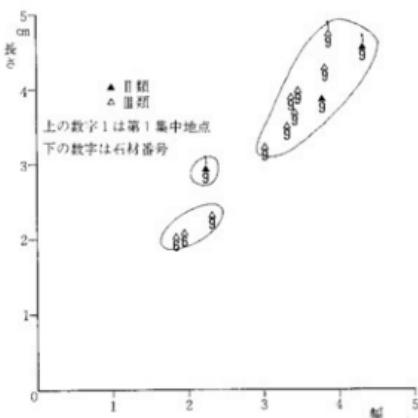
点数が少ないのでまとまりではなく、1.9~3.7 mm の間に散漫に分布し、2.1 mm に僅かに集中するだけである。

f) 金属器の加工痕

複孔と同様に二種類の痕跡が、それぞれ5点ずつに認められる。

g) 出土状況 (第8表)

第2集中地点からは11点と多く出土しており、かなりの偏りがある。



第31図 有孔円板(単孔)長幅関係分布図

石種	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	計
II類													
III類													
IV類													
V類													
VI類													
計	0	0	0	0	0	0	0	0	3 (1)	0	0	0	11

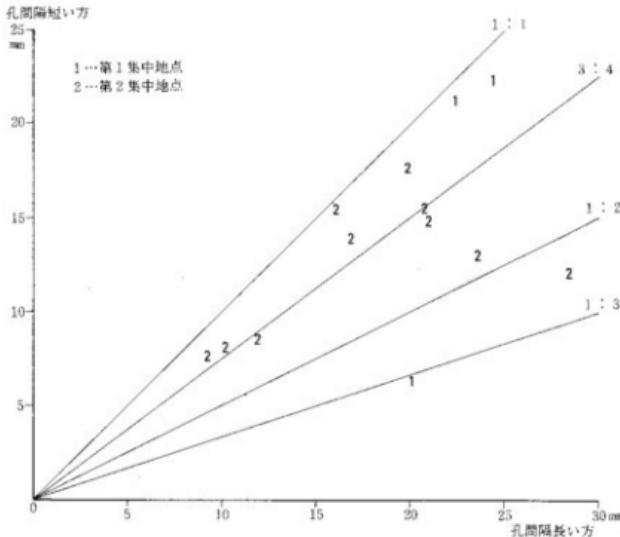
第8表 有孔円板(単孔)類型別石材集中地点内訳

以上の属性間で相関がみられるのは、まず a) 平面形態と b) 大きさである。II類はIII類に比べて大形の傾向がある（第31図）。

a) 平面形態、b) 大きさという形態的属性と d) 石材、e) 孔径、f) 金属器の加工痕という製作技法的な属性の間に相関が認められる。まず a) 平面形態と d) 石材を見ると、II類は⑨しか用いられず、また⑥の石材はIII類にだけ用いられている。b) 大きさと d) 石材では、⑥の石材は⑨に比べて非常に小形な傾向が認められる。また e) 孔径との相関では、II類で大きさの小さいものは孔径が 3.0 mm 以上であり、これらは⑥の石材が用いられている。金属器の加工痕は⑨の石材でさらに角張った平面形を呈するものに認められ、これらは金属器によって全体の形が整えられており、後に加工痕を消すような磨きはあまり加えられていない。

出土状況と b) 大きさ、c) 孔間隔にも相関は認められ、数少ない第1集中地点出土の3点は、大きさが非常に大きいものと中間のもの（第30図）、さらに c) 孔間隔では 1 : 1付近のものと 1 : 3 のものに偏る傾向がある（第32図）。

これまで検討してきた中で1点だけ諸属性が他と異なるものが認められた。それは b) 大きさで中央に分布し（第31図）、かつ c) 孔間隔では 1 : 3 付近に分布（第32図）したものである。これには貫通していない孔があり、その位置は貫通した孔と対称的な場所にあるために複孔の有孔円板を思わせる（第43図1）。単孔の有孔円板と諸属性が異なるのも、複孔の有孔円板を目的として穿孔していた途中で、何らかの理由で作業を中止したためと思われる。



第32図 有孔円板(単孔)出土地点別孔間隔比

4. 白玉 (第44図)

合計 568点出土している。出土地点別にみると、第1集中地点から 227点、第2集中地点からは 341点出土しており、個数において差が認められる。平面形はほとんどが円形で、僅かに橢円形を呈するものがある。孔が穿たれた面の観察から、研磨されたものと剝離面をそのまま残しているものとが認められたが、平滑な節理面を剝離面としているものが多く、研磨されたものとそうでないものを分けることは困難であり、個々の断定は行わなかった。

以下、遺物の観察から断面形態・直径・厚さ・石材・孔径・側面調整・小剝離痕の7つの属性を取り上げて分析を行い、製作工程について検討していくこととする。

a) 石材 (第9表)

白玉に使用されている石材は他の石製模造品と同一の石材11種類で、他の器種では用いられない石材⑩もあり、また石材を特定できないものもある。なお、きれいな算盤玉状を呈する碧玉製のものが2点認められた。これはその他とした石材⑪の中に含めた。

石材に見られる特徴は、石材①・④・⑧が多く全体の60.7%を占めること、他の石製模造品で比較的多く用いられている石材⑨が全体の9.0%しか占めていないこと、勾玉にのみ使用されている石材⑫が僅かながら(8点)認められること、また、先に述べた⑩が白玉にのみ用いられ、全体の6.5%を占めていることがあげられよう。

地点毎の分布状況にみられる特徴としては、第1集中地点227点(40.0%)、第2集中地点341点(60.0%)のうち、石材②・③・④・⑨が第2集中地点に比較的多く認められることがあげられる。

断面形 出土地点	計								
	1	2	3	4	5	6	7	8	
第1集中地点	52	87	58	3	3	6	10	5	224
第2集中地点	129	157	37	5	5	1	3	5	342
合計	181	244	95	8	8	7	13	10	566

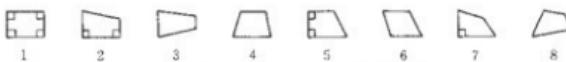
第9表 白玉出土地点別石材内訳

側面形 山土地点	計				
	A	B	C	D	
第1集中地点	24	43	142	17	226
第2集中地点	25	41	255	19	340
合計	49	84	397	36	566

第10表 白玉出土地点別断面形態

石材 出土地点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	計
第1集中地點	42	13	1	44	0	6	7	46	18	16	19	3	12	227
第2集中地點	40	29	10	124	1	4	6	49	33	21	13	5	6	341
合計	82	42	11	168	1	10	13	95	51	37	32	8	18	568

第11表 白玉出土地点別側面形態



第33図 白玉断面形態分類図



第34図 白玉側面形態分類図

b) 断面形態 (第33図、第10・11・12・13表)

断面形は細かく8種類に分けられ、さらに側面の形態分類から4種類に分けられる。

〈断面形の分類〉 (第33図)

1類：断面形が横長の長方形を呈するもの。

2類：1類のうち上・下面の一方が斜めのもの。

3類：両側辺が平行で、上面が下方へ、下面が上方へ傾斜しているもの。

4類：上・下面が水平で、両側辺が斜めの台形を呈するもの。

5類：4類のうち一側辺のみが斜めの台形を呈するもの。

6類：断面形が平行四辺形を呈するもの。

7類：2類と5類の特徴を合わせたもので、上・下面の一辺と側辺の一辺が直角に交わり、他は斜めのもの。

8類：その他のもの。

〈側面の形態分類〉 (第34図)

A類：側面ほぼ中央に稜線を持つ、算盤玉状のもの。

B類：丸みを持ち、横にやや膨らむもの。

C類：やや丸みを持つもの。

D類：丸みを持たず、直線気味のもの。

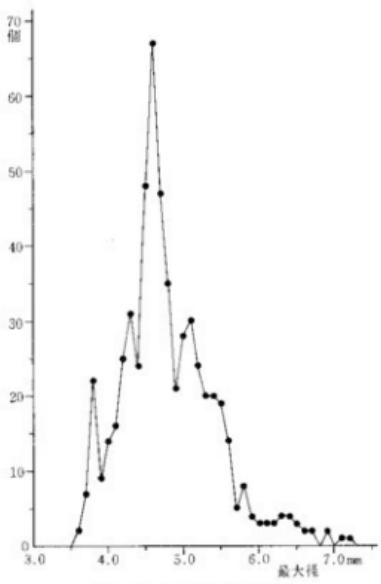
まず、断面形についてその特徴を見していくと、断面形1～3類はいずれも両側辺が孔に平行しており、1類は最も形の整ったもので181点(31.9%)、2・3類は比較的形が整っているもので340点(59.9%)ある。これらが全体の91.8%と大部分を占めている。石材との関係を見ると、4～8類といった形があまり整っていないものは石材①・④・⑧・⑨・⑩に多く、比率では④・⑨が大きな値を示す。出土地点について見てみると、1・2類が第2集中地点に比較的多く分布し、1類の71.3%、2類の64.3%を占めるといった特徴が認められる。

次に側面形態を見てみると、丁寧に研磨されたA・B類は、それぞれ49点(8.6%)、84点(14.8%)と少なく、最も多いのはC類で397点(69.9%)、D類は36点(6.3%)であった。A・B類は石材①・④・⑧・⑨・⑩に多く見られ、石材毎の比率では⑧が96点中25点、⑩が37点中12点とそれぞれ25%を越し、高い比率を示す。出土地点に見られる特徴は、B類に偏りが認められ

たことで、397点中第2集中地点には255点（64.2%）と第1集中地点より113点多かった。

c) 直径（第35・38・39図）

直徑を計測する際、その断面形や側面形態、計測位置によって様々な値が導き出されるが、



第35図 白玉最大径別個数

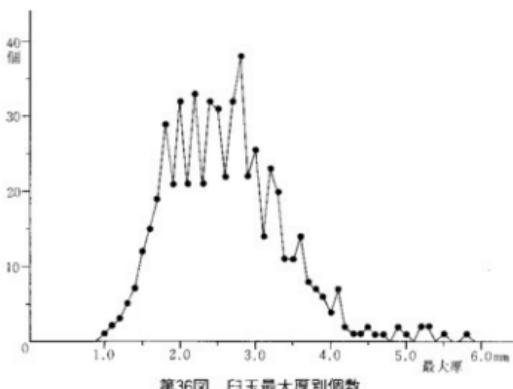
ここでは研磨によって整形される以前の素材の大きさをより良く残している最大径について見ていくこととする。

最大径は3.6 mm～7.2 mmと幅に幅があり、4.6 mm のものが最も多い。石材別に見ると、最も幅を持つのは石材①で 3.8～7.2 mm、比較的量の多いもののうち幅の幅が小さいのが石材⑩で 4.3～5.9 mm である。石材毎にグラフで表してみると、大まかにではあるが、複数のピークが認められるものがあり、3か所のものでは石材②・③・⑥・⑦・⑩・⑪、4か所のものは石材①・④・⑨で、他の石材は不明瞭であった。

d) 厚さ（第36図）

厚さを計測する際、断面形と計測位置によって様々な値が出てくるが、ここでは最大厚に注目し、石材との関連を調べた。

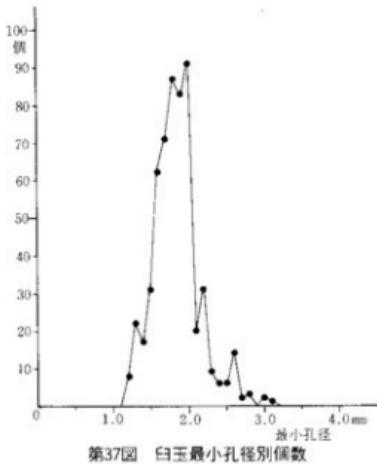
厚さには 1.0～5.8 mm と幅があり、最も多いのは 2.8 mm である。石材別に見ると、最も数値の幅の大きいのはやはり石材①で 1.5～5.8 mm あった。比較的量の多いもののうち数値の幅が小さいのは石材⑩・⑪で、幅は 1.1～3.8 mm、1.3～3.9 mm である。点数が最も多い石材④も数値の幅が比較的小



第36図 白玉最大厚別個数

さく1.1~3.8 mmである。なお、石材毎にグラフで表してみたが、直径ほど明瞭な複数のピークは認められなかった。

e) 孔径 (第37・38・39・40図)



第37図 白玉最小孔径別個数

孔径については両面の孔径を計測したが、穿孔具の大きさをより反映するであろう最小径について調べた。

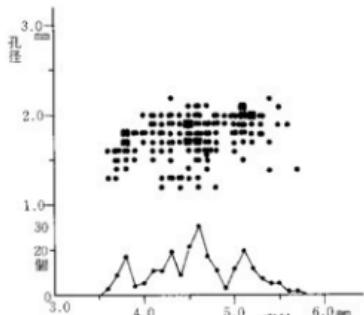
径の最小値は1.2 mm、最大値は3.1 mmで、最も多いのは2.0 mmであった。

石材と孔径との関係をみると、石材④は点数が168点(29.6%)と多いにもかかわらず、その最小径の範囲は1.2~2.2 mmと比較的まとまっており、石材⑫は点数が8点と少ないものの孔径1.7~2.0 mmという狭い範囲にある。また、石材12種のうち最小径が1.2 mmのものは5種あった。なお、石材毎にグラフで表したが、直径ほど明瞭な複数のピークは認められなかった。

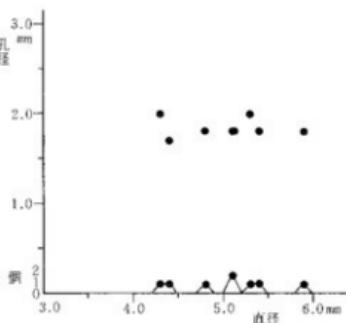
孔径と直径の関係を見たのが第38~39~40図である。c) 直径で述べたような特徴は明瞭ではなく、ある程度のまとまりは認められるものの、明確に分けることはできなかった。

f) 側面調整 (第14表)

側面には研磨による痕跡が認められ、その方向から9種類に分類した。方向は、孔が上下にまっすぐになるように置いて側面から見たときのものである。



第38図 白玉石材④直徑孔径相関分布図、直徑別個数



第39図 白玉石材⑫直徑孔径相関分布図、直徑別個数

石材	1	2	3	4	5	6	7	8	計	
①	29 (5.4)	29 (5.3)	15 (8.3)	1 (1.2)			6 (7.3)	2 (2.4)	82	
②	15 (8.3)	20 (4.0)	7 (8.5)						42	
③	3 (2.3)	7 (6.6)		1 (9.1)					11	
④	53 (3.5)	84 (6.0)	19 (0.0)	3 (1.8)	1 (0.6)	2 (1.2)	1 (1.2)	5 (3.0)	168	
⑤	1								1	
⑥	1 (0.0)	7 (7.0)	2 (2.0)						10	
⑦	3 (2.1)	6 (6.2)	3 (2.1)				1 (7.7)		13	
⑧	32 (3.3)	39 (6.6)	18 (8.8)		2 (2.1)	4 (4.2)		1 (1.0)	98	
⑨	19 (8.6)	24 (7.0)	7 (3.7)	2 (2.0)	4 (7.9)	1 (2.0)	1 (2.0)	2 (3.0)	51	
⑩	11 (2.7)	16 (3.2)	4 (0.8)	1 (2.7)	1 (2.7)		3 (8.1)		36	
⑪	15 (6.9)	8 (5.0)	8 (5.0)				1 (3.1)		32	
⑫	4 (5.0)	2 (5.0)	2 (5.0)						8	
⑬	4 (2.5)	3 (17.6)	10 (5.8)						17	
小剝	有	82 (5.3)	122 (6.0)	55 (5.9)	5 (62.5)	5 (62.5)	2 (2.6)	8 (61.5)	6 (60.0)	285
離痕	無	99 (54.7)	122 (6.0)	40 (2.1)	3 (37.5)	3 (37.5)	5 (71.4)	5 (38.5)	4 (20.0)	281
計		181 (3.9)	245 (3.2)	95 (6.8)	8 (1.4)	8 (1.4)	7 (1.2)	13 (2.3)	19 (1.8)	287

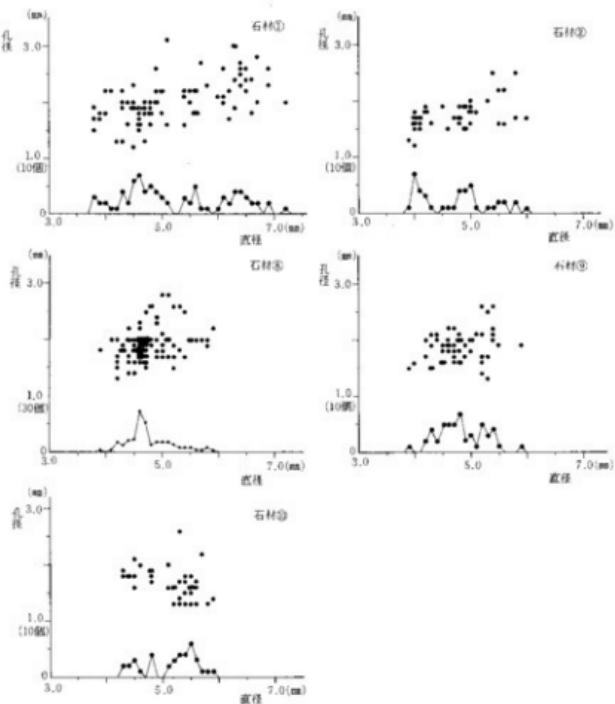
第12表 白玉・石材、小剝離痕の有無と断面形態

側面形	A	B	C	D	計	
①	7 (8.5)	10 (12.2)	57 (69.5)	8 (9.8)	82	
②	3 (7.1)	2 (2.4)	30 (71.4)	7 (16.7)	42	
③		1 (9.1)	6 (54.5)	4 (36.4)	11	
④	9 (5.4)	29 (17.3)	123 (73.2)	7 (4.2)	168	
⑤			1		1	
⑥	1 (10.0)	4 (40.0)	5 (50.0)		10	
⑦	1 (7.7)		7 (53.8)	5 (38.5)	13	
⑧	13 (13.5)	12 (12.5)	67 (68.8)	4 (4.2)	96	
⑨	6 (11.8)	6 (11.8)	37 (72.5)	2 (3.7)	51	
⑩	5 (13.5)	7 (18.9)	24 (64.9)	1 (2.7)	37	
⑪		3 (9.4)	29 (90.6)		32	
⑫		4	4		8	
⑬	3 (17.6)	6 (35.3)	8 (47.1)		17	
小剝	有	25 (51.0)	38 (44.7)	209 (52.6)	14 (38.9)	286
離痕	無	24 (49.0)	47 (55.3)	188 (47.4)	22 (61.1)	281
計		49	85	397	36	567

第13表 白玉・石材、小剝離痕の有無と側面形態

方向	↑	↗	↖	→	↑↗	↑↖	↖↗	↖→	その他	不明	
個数	568	175	261	11	4	62	2	13	7	4	29

第14表 白玉側面調整



第40図 白玉石材別直徑孔径相関分布図、直徑別個数

ほとんどが縦方向を基本としており、横方向のものは4点(0.7%)のみであった。縦方向(や斜めのものを含む)のみ認められたものが447点(78.7%)、縦方向を基本として複数方向認められたものは77点(13.6%)であった。その他複数方向認められたものが11点(1.9%)、不明のものが29点(5.1%)である。なお、側面形態A類には上下2段に研磨痕が見られるものがあったが、この場合、研磨の方向が同じものは一方向のみに、異なるものは複数方向のものに含めて扱った。

g) 小剝離痕（第15表）

孔を穿った面の周辺部に小さな剝離痕が多く認められた。小剝離痕は多くが後に研磨されているが、研磨では消えなかったものも含めて、剝離痕を持つものは568点中285点で全体の50.4%を占めている。中には側辺部が大きく欠けているために円形を成さないものもある。石材毎に見ると、石材⑧は96点中33点(34.4%)と少なく、石材⑩は37点中26点(70.3%)と多いこ

とが分かり、石材により若干の偏りが認められる。

次に、以上の観察から推定される白玉の製作工程について述べていきたい。

直径についてグラフ化した際に、石材毎に複数のピークが認められた。これと小剝離痕の存在とを考え合わせると、一つの仮説が指摘し得る。すなわち、一定の長さと径を有する円柱状の素材を作り、それを任意の厚さに打ち割ることによって、白玉を作り出していたのではないかということである。この仮説に立脚すると、グラフに見られた石材毎の複数のピークは円柱状の素材の数を反映するものと思われ、直径の数値のピーク内でのバラツキは、素材が必ずしもきれいな円柱状を成していないかったことを示しているものと考えられる。

また、小剝離痕は白玉を作り出す際に打ち割った痕跡、すなわち打削痕で、側面形態や側面の観察から、ほとんどは打削された後に研磨されており、研磨によって消された小剝離痕も少なからずあったものと推測される。白玉には、孔が穿たれた両面を研磨せずに平滑な節理面のままにしているものが比較的多く認められたが、石材①や⑨のように石の目と孔を穿った面とが平行しているものが多いことから、打削は節理面に沿うように行われ、石材の性質を利用していたのであろう。厚さには数値で見ると大きな幅があり、断面形も台形や不整な方形を呈するものなど8種類と多様である。さらに、断面形が横長の長方形を呈する形の整ったものが全体の31.9%しか占めないことから、打削後の形態を大きく変えることなく、研磨によって白玉として仕上げていたものと考えられる。また、側面を観察していた際に、研磨痕とは異なる、孔を穿った面に平行する細く浅い小さな傷が認められ、これは打削用具の痕跡が残ったものか、あるいは打削する際に目安として印した傷ではないかと推測される（第44図8・11）。

孔径については、数値に1.2～3.1mmと幅があるものの、径1.6～2.0mmものが394点

小剝離痕 石材	有	無	計
①	48 (58.5)	34 (41.5)	82 (14.4)
②	20 (47.6)	22 (52.4)	42 (7.4)
③	6 (54.5)	5 (45.5)	11 (1.9)
④	75 (44.6)	93 (55.4)	168 (29.6)
⑤	1	0	1 (0.2)
⑥	3	7	10 (1.8)
⑦	9 (68.2)	4 (30.8)	13 (2.3)
⑧	63 (65.6)	33 (34.4)	96 (16.9)
⑨	25 (49.0)	26 (51.0)	51 (9.0)
⑩	11 (29.7)	26 (70.3)	37 (6.5)
⑪	14 (43.7)	18 (56.3)	32 (5.3)
⑫	2 (25.0)	6 (75.0)	8 (1.4)
⑬	9 (52.9)	8 (47.1)	17 (2.9)
計	286 (59.4)	282 (49.6)	568

第15表 白玉石材別小剝離痕の有無

と全体の69.4%を占めている。他の器種を見ていれば、劍は最小孔径が2.0～4.0mm、有孔円板は1.4～3.7mmと白玉に比べて大きく、おそらくは器種により穿孔工具・方法が異なっていた可能性があり、白玉に見られる数値の幅も同様な性格を反映しているものと思われる。穿孔が打削後行われたか、あるいは円柱状の素材の段階で行われたかは、製作工程を復元するうえで重要な問題であるが、ここで敢えて推測を重ねると、石材⑩は直径の数値の幅が4.3～5.9mmと大きいものの、孔径は1.7～2.0mmと数値の幅が小さく、8点のうち5点が直径1.8mmで

あり(第39図)、直徑が円柱状の素材のあり方や打削の時点での破損、仕上げの研磨などにより、予め値に幅が想定できることを考えれば、先に示したように白玉の孔径の数値の幅が他の器種に比べて小さいことから、おそらくは円柱状素材の段階で穿孔し、その後で打削・研磨していたものと思われる。

以上、白玉に見られる特徴と推定し得る製作工程について述べた。製作工程の復元に関しては資料の制約があり、推定の域を出ることはできなかった。石製模造品の製作工房跡から出土した資料と他地域との比較・検討が今後の課題であるが、まずは資料が蓄積された段階での再検討が必要であろう(注4)。

5. 石核

第2集中地点出土の、非常に小型の黒曜石製石核である。最終段階では上下に打面が認められるが、頻繁に打面を移動して剝離が進んできたものと思われる。大きな剥片は剝離されていない。また他には黒曜石に限らず剥片類は一切出土していない。

6. 各器種のまとめと器種間の比較

以下では石製模造品の器種ごとのまとめと器種間の比較をおこなう。

勾玉は3点のみであるが、白玉以外では用いられていない同一の石材、⑫の粘板岩が3点とともに使用され、製作技法も類似する。しかし形態的特徴は3点でそれぞれ異なる。

劍は石材と諸属性の相関が強い。最も多く用いられている⑨雲母片岩は、幅広で大きく、鏽は作出されず、出土地点も第1集中地点に多い。これに対して⑥砂質岩、①粘板岩は、細長くほとんどのものに鏽が作出され、出土地点も第2集中地点に多い。⑨、⑥は孔径が大きい。平面形態の類型と石材は相関しないが、⑨雲母片岩は節理が発達しているためか、鏽を作出しているものはない。大きさも幅広で大きく、石材により形態的特徴が規定されている例と考えられる。

複孔の有孔円板は板状の石製品としては60点と最も多く出土しているが、形態的諸属性の中でも明確な特徴を示すまとめではなく、様々な形態を呈している。ただし①、②、③の粘板岩が70%以上用いられており、出土地点も第2集中地点に偏る傾向がある。

単孔の有孔円板は複孔の有孔円板とは異なり、特徴が把握しやすい。平面形態はIII類、特に六角形状を呈するものが多く、石材も⑨雲母片岩、⑥砂質岩しか用いられず、特に⑨が多い。そしてこれも出土地点が第2集中地点に偏る傾向がある。単孔の有孔円板も劍と同様に⑨の石材が多く用いられている。しかしこれらは加工は粗いが明確に角張った形を指向しており、複孔に多くみられるI類・丸い外形を目的としたものが、劍のように石材により形態が規定されたというものではない。

白玉は点数が多く様々な石材が用いられているが、①粘板岩、④砂質岩、⑧滑石で60%余り

を占めている。断面形態では1~3類の形の整ったもの、側面形態ではC類のやや丸みを持つものが多い。他の器種では多く用いられていた⑨雲母片岩は白玉では割合が低く、白玉で用いられているものも断面形態はあまり整っていない。これも石材に形態が左右された例であろう。最大径、最大厚は数値に幅があるが、最大径では石材ごとのグラフで見ると複数のピークが認められる。孔径も数値に幅があるが、石材によっては強いまとまりを示すものがある。側面調整はほとんどが縦方向であり、また穴を穿った面の周辺部には半分強のものに小剝離痕が認められる。そして、最大径における石材ごとの複数のピーク、穴を穿った面の周辺部の小剝離痕などは、穿孔された円柱状の素材から、一定の厚さで白玉の素材を製作するという工程が存在した可能性を示すと考えられる。

次に板状の素材を用いた器種（勾玉、劍、有孔円板）を中心に、それぞれの属性の比較をおこなう。まず大きさは、有孔円板、勾玉が2~4 cmに集中するのに対して（第27・31図）、劍には5 cm以上のものも認められる（第22図）。また厚さの平均値は、勾玉5.0 mm、劍5.3 mm、有孔円板・複孔4.1 mm、単孔5.4 mmであり、有孔円板・複孔にやや薄い素材が用いられている。白玉は平均値ではないが最も多いのは2.8 mmである。

石材は器種ごとに顕著な偏りがあり（第5表）、勾玉は②粘板岩、劍は⑨雲母片岩と⑩砂質岩、有孔円板・複孔は①粘板岩、単孔は⑨雲母片岩、白玉は①粘板岩、④砂質岩、⑧滑石がそれぞれ主に用いられている。

孔径は勾玉、劍、有孔円板では資料点数が少なく明確でないが、いずれも同様なあり方を示す。ほとんどが2.0~3.0 mm付近に集中し、数値はやや異なるが4つのピークが認められる。これに対して白玉は複数のピークが認められるものの、1.2~2.6 mmに集中する（第37図）。

金属器の加工痕は、勾玉では抉りをいれる加工、有孔円板・複孔、単孔では大まかな整形加工でそれぞれ100%、20%、53%のものに認められ、その後の加工で消えたものを考えると金属器はかなりの割合で用いられていると思われる。劍では金属器の加工痕は全く認められず、整形のための研磨加工がより細かく施されたために加工痕が消されて残されていないのかもしれない。

出土地点 器種	1	2	不明	計
勾玉	2	1	0	3
劍	10	13	3	26
有孔円板・複孔	19	33	8	60
〃・単孔	3	11	1	15
白玉	227	341	0	568
器種不明・他	13	15	2	30
計	274	414	14	702

第16表 器種別出土地点内訳

ない。しかし、⑨の石材を用いた粗い加工しかなされていないものにも認められないことから、劍では用いられなかった可能性を指摘しておく。白玉では僅かであるが、側面に加工痕が認められる。これは円柱状の素材から白玉の素材を製作する際の痕跡の可能性がある。

出土地点は第16表でも明らかなように、点数の少ない勾玉を除いて第2集中地点からの出土

量が多く、特に有孔円板・複孔、単孔、白玉でその傾向が顕著である。

(4)出土地点別の特徴

まず土器に入っていた石製模造品であるが、入っていた土器は25点であり、第2集中地点に19点と非常に偏りがある。土器の器種では、第1集中地点は偏ることなく様々なものが認められ、第2集中地点では壺の数が16点と非常に多い。石製模造品の器種では、第1集中地点には組合せとして色々なものが認められたが、第2集中地点では偏りが認められ、白玉のみの例が多い。

器種別で集中地点により属性に違いが認められたのは、剣と単孔の有孔円板である。点数の多い複孔の有孔円板、白玉には明確な違いは認められない。

点数では、上述したように数の少ない勾玉以外、有孔円板・複孔、単孔、白玉の第2集中地点からの出土量が多い。

以上のように集中地点により異なる様相が認められたが、この中でそれぞれの集中地点の性格の違いを示す可能性があるものとして、石製模造品が土器に入れられている例と、器種ごとの点数があげられる。しかし前者は確実なのは一例だけであり実態は明確ではない。また器種ごとの点数などの明確な相違点もあるが、それらがなにに起因するのかの判断材料は現段階では持ち合わせていない。各集中地点は類似する点も多く、お互いに排他的ではなく、それぞれの性格がまったく異なるというものでもないようである。

(5)まとめ

各器種は形はもとより、製作技法、素材などの面でも、一部重なる部分はあるものの、各々独立した様相が認められることが明らかになった。特に有孔円板でも複孔と単孔では相違する点が多く、一括して取り扱えないことを示している。多数の石製模造品が出土した丸森町矢ノ目遺跡でも、本遺跡と同様に、複孔は丸く、単孔は角張る傾向が伺え、六角形状を尾するものも数点認められた(注3)。この様な類例から見ても、複孔と単孔の違いはそれぞれの持つ意味、つまり模造するものの違いをあらわしている可能性があるようと思われる。

また器種によって使用された石材が顕著に異なるという点や、器種個々に様々な面で独立した様相が認められるという点については、器種それぞれには何らかの規制があった可能性もあるが、製作集団、もしくは製作者の違いを示している可能性も否定できない。しかしこの点については、それぞれの石材の原産地(注5)や製作地が明確でない現段階ではこれ以上言及できないが、石製模造品の持つ意味、機能、用途や使用者、製作者、その背後にある集団、社会を明らかにする手掛かりが含まれていると思われる。さらにまた、石製模造品製作跡との様々な点での比較も欠くことができず、これらの点が明らかになって始めて石製模造品の全体像に近づくことができるであろう。

石製模造品全体を個々に細かく分析を行ってきた結果、それぞれの特徴を把握することがほんばできた。石製模造品を個々にみると属性によってはまとまりが認められたが、そのまとまりも非常に緩やかなものであり、石製模造品の製作にあたっては強い規制というものはなかったように思われる。特に点数の多い複孔の有孔円板では明確なまとまりを示す属性は少なく、これは点数が多くするために規制が緩くなつた結果かもしれない。単に点数が多いから様々なものがあるのではなく、規制を緩くして点数を揃えた可能性が考えられよう。これは要件を供えてさえいれば石製模造品の機能、用途には影響がなかったことを示すものと思われる。この事実も石製模造品を考える上で大変重要である。

黒曜石製石核については、県内では他に類例が認められず、多賀城市山王遺跡の14号遺構から黒曜石製の剝片などが石製模造品と一緒に出土している例があるのみである（後述・第31表）。当遺跡については、黒曜石製石核が残核状を示している点、他に剝片が認められない点など、石製模造品と同様になんらかの意味をもつてこの場所に持ち込まれたと考えられる。

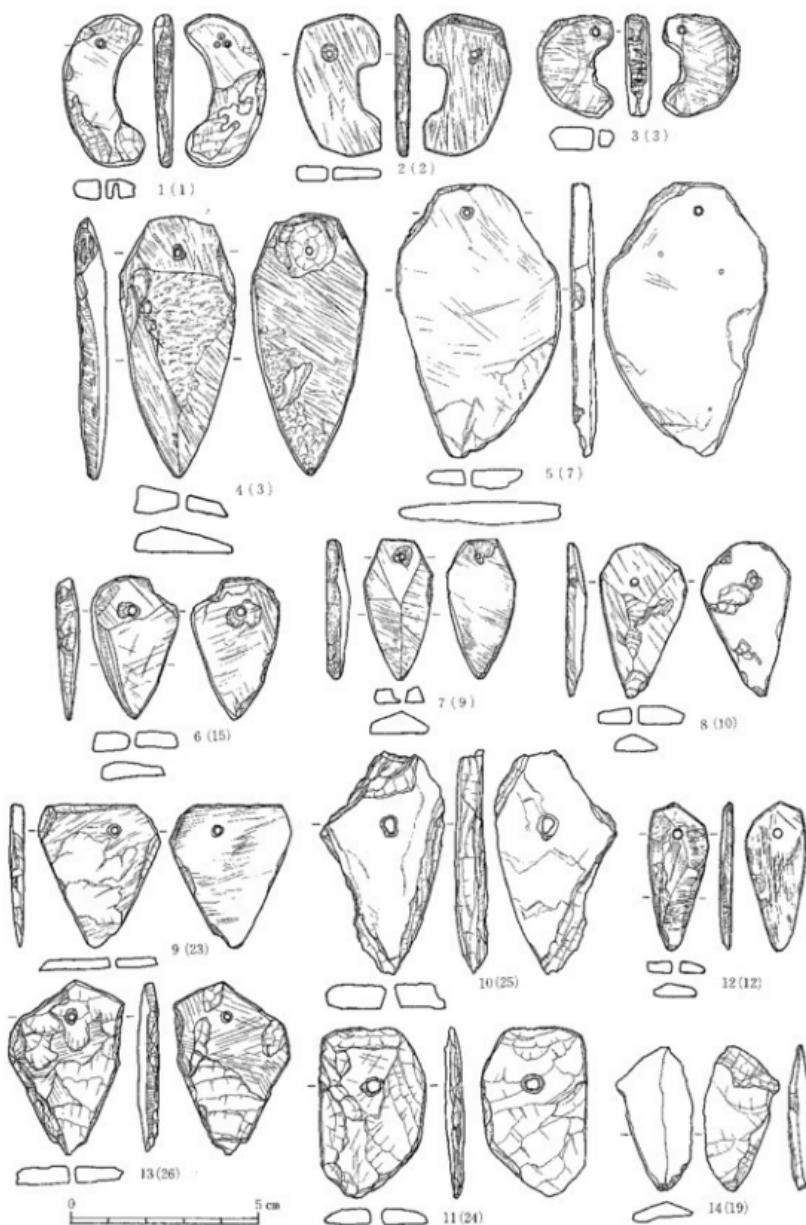
（注1）ここでいう同一石材とは、剝片石器の母岩認識における同一母岩と同様の方法により識別したものである。ただしこの石材の産状が不明であり、母岩として認識できるか否かも不明であるため同一石材と記述するにとどめた。

（注2）穿孔も金属器でなされたと考えられるが、ここでは穿孔以外の加工を指す。以下同じ。

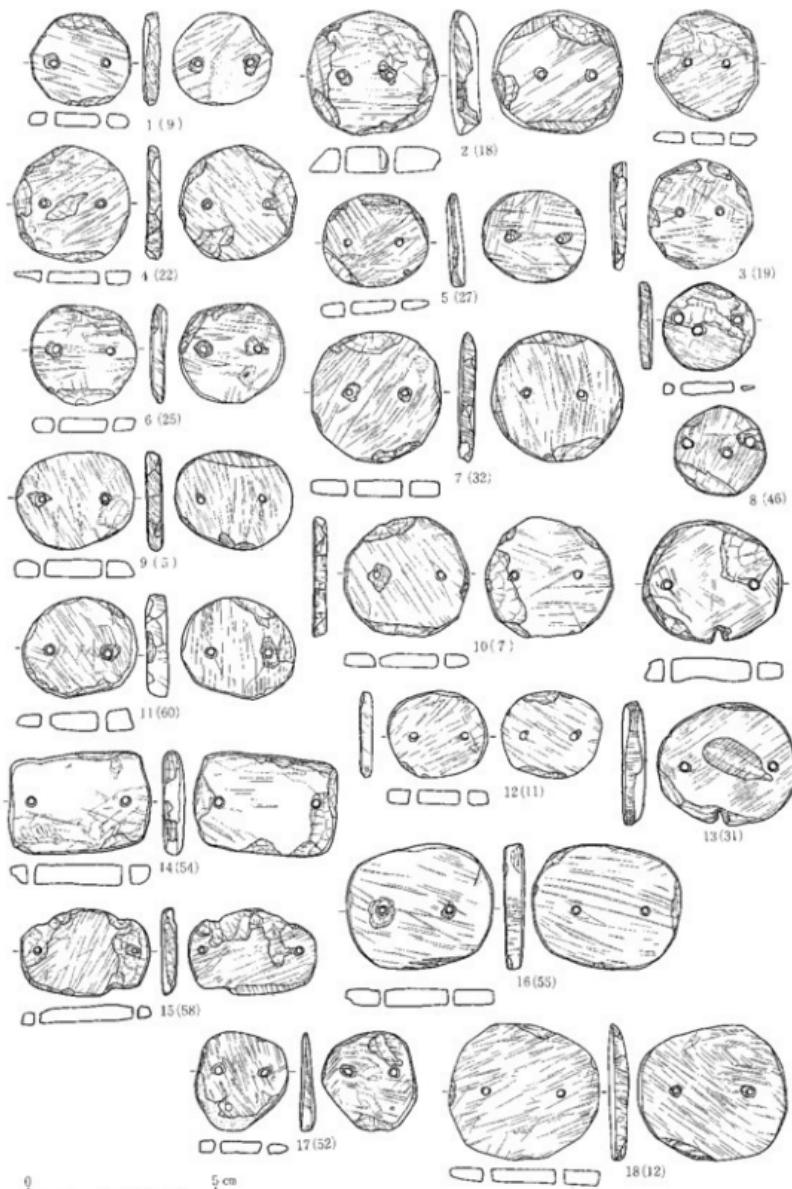
（注3）志間泰治氏の御厚意により資料を実見する機会を得た。

（注4）校了後、県外の石製模造品製作跡が発見されている2遺跡を知る機会を得た。福島県郡山市永作遺跡で発見された石製模造品製作工房跡からは、白玉の中に小口を切断したと考えられる残片が見つかっており、先に推定した白玉の製作工程を傍証する資料の一つと考えることもできよう（柳沼賢治：1987「永作遺跡」「郡山東部7」郡山市教育委員会他）。また、群馬県佐波郡東村の八寸大道上遺跡では石製模造品の製作工程を復元できる良好な資料が見つかっている。ここでは白玉を作る際にまず小さな薄い剝片を多数作り、研磨を行って大体の形を作った後に孔を開け、さらに研磨を行って白玉を完成させている（板井謙・原雅信：1989「八寸大道上遺跡」（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第91集、群馬県教育委員会）。八寸大道上遺跡の白玉完成品には直径が1cm前後の大きいものもあり、新峯崎遺跡出土の白玉よりも直径が大きいものが多いようである。新峯崎遺跡からも八寸大道上遺跡出土の白玉未製品と類似するのが1点出土しており（第43図7）、穿孔面は研磨を受けておらず、側辺は片面からの打撃による剝離面がそのまま残っている。これは、八寸大道上遺跡例と類似しており、新峯崎遺跡出土の白玉が同様の製作工程により製作されている可能性を示すものとも言えよう。今回推定した製作工程については、今後さらに検討が必要である。

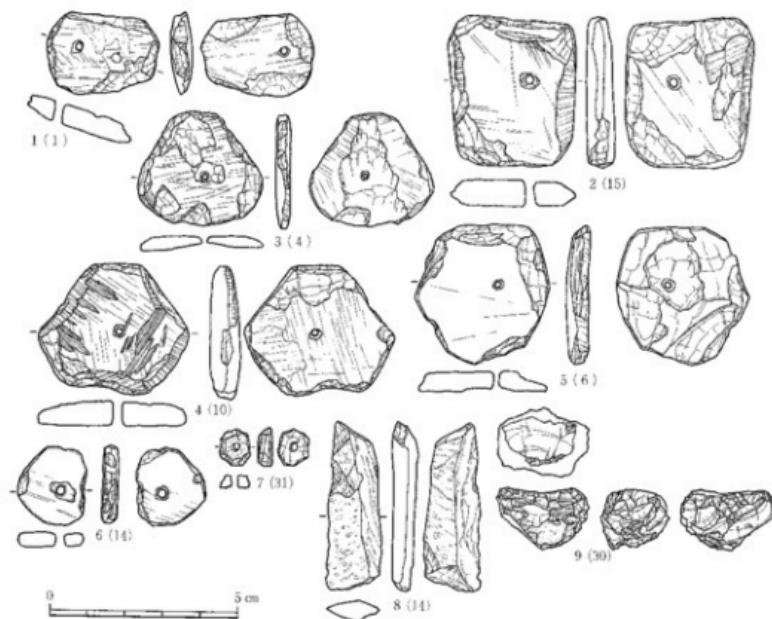
（注5）本遺跡で用いられた石材は、鉄質岩を除いては阿武隈山系で産出するという御教示を、仙台市科学館の佐々木隆先生にいただいた。



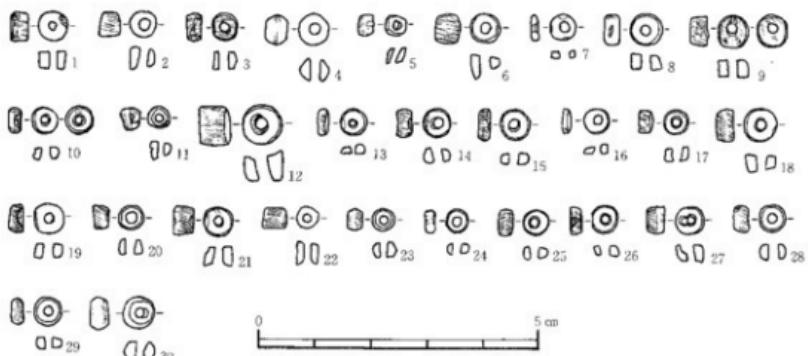
図のカッコ内は属性表の番号と一致以下同じ
第41図 勾玉(1~3)・劍(4~14)実測図



第42図 有孔円板(複孔)実測図



第43図 有孔円板(単孔)(1～6)、白玉末製品?(7)破片(8)、黒曜石製石核(9)実測図



第44図 白玉実測図

属性表注

- ・単位は mm。
- ・側面調整の矢印はみがきの方向を示す。
- ・孔径は 1 つの孔の表裏の数値。
- ・孔の状態は穿孔方向を示す。
- ・備考における金属器の加工痕 1 とは、擦切り痕を呈する金属器の刃先の痕跡、2 とは周辺の表裏面と側面のなす接線を削りとるような加工痕を示す。また、表面、裏面のはがれ、あるいは凹みとは、穿孔に伴うなんらかの痕跡と考え記述した。
- ・臼玉のミガキの後の十数字は表裏面に認められる、製作時（切断時）の痕跡（小刻離痕）の数である（第44図 1・7・14・21など）。

番	形状	底穴径	底穴深	底穴形	底穴	側面調整	側面調整	側面調査	側面調査	孔	孔	丸孔	丸孔	丸孔	丸孔	備考
										A	B	C	D	E	F	
1	46.5	23.0	5.5	○	□	△	△	△	△	2.65	1.71	1.71	5.0	32.5	3	底面一貫面
2	27.5	22.7	5.5	○	□	△	△	△	△	2.65	4.0	24.9	2	底面一貫面		
3	27.2	26.1	6.1	○	□	△	△	△	△	2.65	3.2	21.9	3	底面一貫面		底面に凹凸があり、底面内側に擦れ跡あり。

第17表 匀玉属性表

番	底穴径	底穴深	底穴形	底穴	側面調整	側面調査	孔	孔	丸孔	丸孔	備考				
							A	B	C	D					
1	36.0	18.0	2.7	○	□	△	△	△	△	4.0	30.1	圓錐一圓錐		4.表面、裏面はめがれ。	
2	45.4	25.7	6.0	○	□	△	△	△	△	4.0	30.1	圓錐一圓錐		5.底面に凹凸、裏面に擦れ跡。裏面でめがれ、表面に凹みある。	
3	46.4	36.3	6.3	○	□	△	△	△	△	4.0	30.3	底面一圓錐	4.図 4	5.底面に凹凸。表面に凹み、裏面に大きなめがれあり。	
4	50.6	36.4	5.4	○	□	△	△	△	△	7.6	26.9	圓錐一圓錐		7.底面に凹凸あり。	
5	36.8	37.1	3.8	○	□	△	△	△	△	4.0	27.1	圓錐一圓錐		8.裏面に凹凸あり。	
6	41.0	35.2	6.1	×	□	△	△	△	△	4.0	28.1	圓錐一圓錐		9.底面に凹凸あり。	
7	76.3	25.9	6.8	○	□	△	△	△	△	2.65	9.5	圓錐一圓錐	4.図 5	10.底面に凹凸、裏面に擦れ跡。	
8	56.4	22.9	2.1	○	□	△	△	△	△	2.65	3.1	圓錐一圓錐		11.底面に凹凸、裏面に擦れ跡。	
9	36.8	27.8	5.9	○	□	△	△	△	△	4.0	27.3	圓錐一圓錐		12.底面に凹凸、裏面に擦れ跡。	
10	41.0	35.2	6.1	×	□	△	△	△	△	4.0	28.1	圓錐一圓錐		13.底面に凹凸、裏面に擦れ跡。	
11	40.5	18.0	5.1	○	□	△	△	△	△	2.65	9.5	圓錐一圓錐	4.図 7	14.底面に凹凸、裏面に擦れ跡。	
12	36.8	36.9	3.9	○	□	△	△	△	△	2.65	9.5	圓錐一圓錐	4.図 12	15.底面に凹凸あり。	
13	176.7	17.1	0.7	×	□	△	△	△	△	2.65	9.5	圓錐一圓錐		16.裏面に凹凸あり。	
14	172.0	18.0	4.6	○	□	△	△	△	△	2.65	9.5	圓錐一圓錐		17.裏面に凹凸あり、裏面に擦れ跡。	
15	36.0	23.2	5.4	○	□	△	△	△	△	2.65	9.5	圓錐一圓錐	4.図 6	18.裏面に凹凸、裏面に擦れ跡。	
16	36.8	36.8	4.9	×	□	△	△	△	△	2.65	9.5	圓錐一圓錐		19.裏面に凹凸、裏面に擦れ跡。	
17	41.1	34.8	2.7	○	□	△	△	△	△	2.65	9.5	圓錐一圓錐		20.裏面に凹凸あり。	
18	176.0	17.0	0.4	○	□	△	△	△	△	2.65	9.5	圓錐一圓錐		21.底面凹凸。	
19	174.0	17.0	0.2	○	□	△	△	△	△	2.65	9.5	圓錐一圓錐	4.図 14	22.底面に凹凸の折れ面に擦れ跡あり。裏面に凹凸。	
20	42.1	38.5	0.3	×	□	△	△	△	△	2.65	4.0	30.1	圓錐一圓錐		23.裏面に凹凸あり。
21	40.5	35.2	6.0	×	□	△	△	△	△	2.65	9.5	圓錐一圓錐		24.底面に凹凸あり。	
22	40.0	33.4	6.2	×	□	△	△	△	△	2.65	9.5	圓錐一圓錐		25.底面に凹凸あり。	
23	36.3	32.1	3.7	×	□	△	△	△	△	2.65	9.5	圓錐一圓錐	4.図 3	26.裏面に凹凸あり。	
24	45.0	28.1	1.4	×	□	△	△	△	△	2.65	9.5	圓錐一圓錐	4.図 11	27.裏面に凹凸、裏面に擦れ跡。	
25	38.0	30.0	8.2	○	□	△	△	△	△	2.65	9.5	圓錐一圓錐	4.図 13	28.裏面に凹凸、裏面に擦れ跡。	
26	45.9	30.3	5.2	×	□	△	△	△	△	2.65	9.5	圓錐一圓錐	4.図 13	29.裏面に凹凸あり。	

第18表 剣属性表

No.	貢入高	最大幅	無孔率	片	G.M.	規格記号	外形記号	孔の内側	孔	孔の外側	孔			孔の形状	外寸	種別	備考	
											A	B	C					
1	25.7	25.4	0.7	上	Φ		I	△	△	△	1.01.3	1.02.3	1.0	10.12	3.1	△	7	規則的・不規則孔、表面無孔。
1	26.7	26.3	0.9	上	Φ		△	△	△	△	2.01.9	2.02.9	2.1	10.14	5.1	規則的・不規則孔	12	規則的・不規則孔、表面無孔。
3	22.2	20.0	0.5	上	Φ		△	△	△	△	2.02.2	2.02.2	1.9	10.10	2.9	△	?	規則的孔、表面無孔。
4	33.8	30.8	0.3	上	Φ		△	△	△	△	2.02.8	2.03.2	2.9	10.0	8.7	△	?	規則的孔、表面無孔。
5	31.1	28.4	4.0	上	Φ		△	△	△	△	2.02.4	2.02.4	0.2	10.0	4.4	規則的・不規則孔	13	規則的孔、表面無孔。
6	28.2	25.0	0.9	上	Φ		△	△	△	△	2.02.8	2.02.5	0.9	10.0	8.8	△	?	規則的孔、表面無孔。
7	35.7	31.5	4.9	上	Φ		△	△	△	△	2.02.4	2.02.4	0.4	10.14	6.1	規則的・不規則孔	14	規則的孔、表面無孔。
8	24.9	20.9	2.7	上	Φ		△	△	△	△	2.02.9	2.02.6	0.8	10.11	3.1	規則的・不規則孔	15	規則的孔、表面無孔。
9	28.2	24.1	3.9	上	Φ		△	△	△	△	2.02.5	2.02.8	0.9	10.11	4.4	△	?	規則的孔、表面無孔。
10	41.5	27.3	8.9	上	Φ		△	△	△	△	2.02.7	2.02.3	0.9	10.17	8.4	△	?	規則的孔、表面無孔。
11	22.4	22.4	0.5	上	Φ		△	△	△	△	2.02.7	2.02.6	0.9	10.15	5.3	規則的・不規則孔	16	規則的孔、表面無孔。
12	36.8	36.1	0.5	上	Φ		△	△	△	△	2.02.1	2.02.6	0.7	10.7	5.1	規則的・不規則孔	17	規則的孔、表面無孔。
13	28.0	25.8	4.1	上	Φ		△	△	△	△	2.02.5	2.02.7	0.7	10.7	5.0	△	?	H.規則的孔、表面無孔。
14	28.7	28.0	4.0	上	Φ		△	△	△	△	2.02.1	2.02.8	0.4	10.12	3.0	△	?	H.規則的孔、表面無孔。
15	42.3	36.3	4.1	上	Φ		△	△	△	△	2.02.1	2.02.5	0.2	10.16	8.0	△	?	H.規則的孔、表面無孔。
16	34.8	32.4	0.5	上	Φ		△	△	△	△	2.02.5	2.02.4	0.4	10.17	5.7	△	?	H.規則的孔、表面無孔。
17	38.8	31.2	3.7	上	Φ		△	△	△	△	2.02.5	2.02.6	0.7	10.16	7.9	△	?	H.規則的孔、表面無孔。
18	34.8	32.6	3.1	上	Φ		△	△	△	△	2.02.8	2.02.9	2.3	10.12	7.6	△	?	H.規則的孔、表面無孔。
19	21.5	26.5	3.7	上	Φ		△	△	△	△	2.02.5	2.02.8	7.0	10.5	6.9	規則的・不規則孔	21	規則的孔、表面無孔。
20	26.2	26.0	5.1	上	Φ		△	△	△	△	2.02.0	2.02.0	5.0	10.15	6.0	規則的・不規則孔	22	規則的孔、表面無孔。
21	34.9	26.7	2.7	上	Φ		△	△	△	△	2.01.8	2.01.7	4.7	10.16	6.0	△	?	H.規則的孔、表面無孔。
22	38.6	36.4	4.9	上	Φ		△	△	△	△	2.02.8	2.02.7	0.7	10.15	7.0	△	?	H.規則的孔、表面無孔。
23	22.2	25.4	3.4	上	Φ		△	△	△	△	2.02.6	2.02.5	5.0	10.12	2.9	規則的・不規則孔	24	規則的孔、表面無孔。
24	21.2	26.5	3.4	上	Φ		△	△	△	△	2.02.8	2.02.6	5.1	10.7	7.7	△	?	H.規則的孔、表面無孔。
25	23.8	26.4	0.5	上	Φ		△	△	△	△	2.02.3	2.02.7	5.5	10.12	5.4	△	?	規則的孔、表面無孔。
26	35.8	35.2	5.5	上	Φ		△	△	△	△	2.02.8	2.02.7	5.0	10.16	6.4	△	?	H.規則的孔、表面無孔。
27	27.2	24.8	3.2	上	Φ		△	△	△	△	2.02.6	2.02.6	6.1	10.17	5.9	△	?	規則的孔、表面無孔。
28	30.3	26.7	4.4	上	Φ		△	△	△	△	2.02.9	2.02.9	7.1	10.19	8.7	△	?	規則的孔、表面無孔。
29	23.5	22.6	0.1	上	Φ		△	△	△	△	2.02.4	2.02.4	5.1	10.17	5.1	規則的・不規則孔	30	規則的孔、表面無孔。

30	23.4	23.2	3.8	上	Φ		△	△	△	△	2.02.1	2.02.1	7.4	10.1	7.1	規則的・不規則孔	31	規則的孔、表面無孔。
31	45.5	32.0	0.3	上	Φ		△	△	△	△	2.02.9	2.02.9	3.9	10.12	3.1	規則的・不規則孔	32	規則的孔、表面無孔。
32	34.5	34.4	4.7	上	Φ		△	△	△	△	2.02.0	2.02.5	4.4	10.12	5.4	規則的・不規則孔	33	規則的孔、表面無孔。
33	21.8	22.5	3.7	上	Φ		△	△	△	△	2.02.2	2.02.2	8.0	10.12	8.2	規則的・不規則孔	34	規則的孔、表面無孔。
34	36.3	36.3	3.9	上	Φ		△	△	△	△	1.02.0	1.02.0	8.3	10.11	5.2	規則的孔、表面無孔。	35	規則的孔、表面無孔。
35	26.5	26.7	4.9	上	Φ		△	△	△	△	2.02.2	2.02.2	8.4	10.11	7.1	規則的孔、表面無孔。	36	規則的孔、表面無孔。
36	24.5	21.3	4.5	上	Φ		△	△	△	△	2.02.8	2.02.4	5.8	10.12	5.1	規則的・不規則孔	37	規則的孔、表面無孔。
37	32.1	32.1	4.7	上	Φ		△	△	△	△	2.02.7	2.02.1	4.4	10.12	4.4	規則的・不規則孔	38	規則的孔、表面無孔。
38	31.8	31.1	5.1	上	Φ		△	△	△	△	2.02.6	2.02.5	4.5	10.12	5.4	規則的・不規則孔	39	規則的孔、表面無孔。
39	29.1	22.8	4.7	上	Φ		△	△	△	△	2.02.7	2.02.2	12.1	10.1	5.2	規則的・不規則孔	40	規則的孔、表面無孔。
40	22.0	20.9	0.9	上	Φ		△	△	△	△	2.02.9	2.02.1	9.9	10.1	5.0	規則的・不規則孔	41	規則的孔、表面無孔。
41	15.2	18.9	1.1	上	Φ		△	△	△	△	2.02.2	2.02.3	5.1	10.1	5.9	規則的・不規則孔	42	規則的孔、表面無孔。
42	22.1	19.8	3.1	上	Φ		△	△	△	△	2.02.7	2.02.5	6.7	10.1	5.4	規則的・不規則孔	43	規則的孔、表面無孔。
43	23.2	22.5	3.4	上	Φ		△	△	△	△	2.02.1	2.02.1	4.3	10.11	3.1	規則的・不規則孔	44	規則的孔、表面無孔。
44	26.5	21.8	3.4	上	Φ		△	△	△	△	2.02.1	2.02.9	9.8	10.1	5.4	規則的・不規則孔	45	規則的孔、表面無孔。
45	30.0	26.9	0.9	上	Φ		△	△	△	△	2.02.9	2.02.1	5.9	10.11	5.4	規則的・不規則孔	46	規則的孔、表面無孔。
46	24.2	21.5	1.4	上	Φ		△	△	△	△	2.02.2	2.02.2	7.2	10.11	2.7	規則的・不規則孔	47	規則的孔、表面無孔。
47	25.4	23.4	3.8	上	Φ		△	△	△	△	2.02.3	2.02.3	5.9	10.10	4.1	規則的・不規則孔	48	規則的孔、表面無孔。
48	29.8	30.7	4.9	上	Φ		△	△	△	△	2.02.5	2.02.5	5.0	10.12	5.4	規則的・不規則孔	49	規則的孔、表面無孔。
49	37.0	30.7	2.8	上	Φ		△	△	△	△	2.02.8	2.02.8	9.1	10.14	5.1	規則的・不規則孔	50	規則的孔、表面無孔。
50	26.5	19.1	2.9	上	Φ		△	△	△	△	2.02.1	2.02.9	9.8	10.1	5.4	規則的・不規則孔	51	規則的孔、表面無孔。
51	22.7	22.2	4.1	上	Φ		△	△	△	△	2.02.0	2.02.0	5.8	10.1	5.4	規則的・不規則孔	52	規則的孔、表面無孔。
52	34.4	25.6	3.4	上	Φ		△	△	△	△	2.02.0	2.02.2	6.3	10.10	4.3	規則的・不規則孔	53	規則的孔、表面無孔。
53	30.0	25.0	0.6	上	Φ		△	△	△	△	2.02.1	2.02.1	5.1	10.11	2.7	規則的・不規則孔	54	規則的孔、表面無孔。
54	34.4	25.4	4.9	上	Φ		△	△	△	△	2.02.7	2.02.7	4.1	10.10	5.4	規則的・不規則孔	55	規則的孔、表面無孔。
55	30.5	25.0	3.6	上	Φ		△	△	△	△	2.02.1	2.02.0	5.1	10.11	2.7	規則的・不規則孔	56	規則的孔、表面無孔。
56	30.4	26.4	4.9	上	Φ		△	△	△	△	2.02.0	2.02.2	10.1	10.11	5.4	規則的・不規則孔	57	規則的孔、表面無孔。
57	31.0	29.9	4.2	上	Φ		△	△	△	△	2.02.9	2.02.7	8.2	10.9	7.6	規則的・不規則孔	58	規則的孔、表面無孔。
58	30.9	22.9	3.7	上	Φ		△	△	△	△	2.02.4	2.02.7	4.3	10.11	5.1	規則的・不規則孔	59	規則的孔、表面無孔。
59	25.5	22.9	4.9	上	Φ		△	△	△	△	2.02.7	2.02.7	4.2	10.11	5.1	規則的・不規則孔	60	規則的孔、表面無孔。
60	30.0	26.0	0.9	上	Φ		△	△	△	△	2.02.0	2.02.0	6.8	10.11	5.0	規則的・不規則孔	61	規則的孔、表面無孔。

第19表 有孔円板(複孔)属性表

No.	直径	板厚	形	JIS	表面形状	JIS規格	孔径	孔性質		孔の形態	表面状	目録	備考
								A	C				
1	25.0	22.0	5.4	E	○	1	2	0.6, 1.1	0.5, 10.5	孔一貫通	11F 1	13	丸孔ひじ孔。直径 0.3mm の穴。表面アラミド。
2	36.9	18.5	5.1	E	○	1	2	0.6, 1.2	0.8, 10.1	孔一貫通	11G	圓孔ひじ孔。	
3	42.0	30.3	7.1	E	○	1	2	0.6, 1.5	1.1, 10.5	孔一貫通	11H	中間孔に丸孔ひじ孔。	
4	53.4	30.2	3.0	E	○	1	2	0.6, 1.8	11.9, 10.1	孔一貫通	11I	中間孔に丸孔ひじ孔。	
5	68.4	57.4	4.9	E	○	1	2	0.6, 1.7	14.9, 12.0	孔一貫通	11J	半周孔に丸孔ひじ孔。企画書による加工工程 2 (表面)、表面に凹みあり。	
6	88.9	55.7	5.0	E	○	1	2	0.6, 1.4	15.5, 10.5	孔一貫通	11K	半周孔に丸孔ひじ孔。	
7	106.7	56.7	5.4	E	○	1	2	0.6, 1.2	15.0, 20.0	孔一貫通	11L	表面に凹みあり。表面による加工工程 1 (表面)。	
8	0.73	38.5	5.6	E	○	1	2	0.6, 1.5	15.1, 22.4	孔一貫通	11M	表面に凹み孔ひじ孔。	
9	22.0	25.9	4.0	E	○	1	2	0.6, 1.7	15.5	孔一貫通	11N	表面に凹み孔ひじ孔のない。	
10	34.3	34.4	6.5	E	○	1	2	0.6, 1.4	16.9, 17.3	孔一貫通	11O	表面に凹み孔ひじ孔なし。企画書による加工工程 1 (表面)。	
11	55.4	39.0	5.0	E	○	1	2	0.6, 1.4	16.5, 20.0	孔一貫通	11P	表面に凹み孔ひじ孔なし。企画書による加工工程 2 (表面)、表面に凹みあり。	
12	71.1	40.0	6.0	E	○	1	2	0.6, 1.3	—	—	11Q	刃先孔。	
13	103.0	50.0	6.0	E	○	1	2	0.6, 1.5	—	—	11R	中間孔に丸孔ひじ孔。	
14	20.0	20.0	2.0	E	○	1	2	0.6, 0.2	7.6, 9.2	—	11S	表面に凹み孔ひじ孔。	
15	45.5	45.5	7.1	E	○	1	2	0.6, 1.1	8.1, 22.0	表面一貫通	11T	表面に丸孔ひじ孔なし。	

第20表 有孔円板(単孔)属性表

No.	直径	板厚	形	JIS	表面形状	JIS規格	孔径	孔性質		表面状	目録	備考	
								A	B				
1	0.51	0.50	0.50	○	斜面切欠き	1	2	4.0, 0.2	—	孔一貫通	21	丸孔ひじ孔のものと混載あり。号付。表面に凹みあり。	
2	0.60	0.50	0.50	○	1	2	2.0, 0.5	—	—	孔一貫通	22	丸孔ひじ孔。表面に凹みあり。	
3	0.60	0.40	0.75	○	○	1	2	2.0, 0.6	5.9, 9.2, 6.9	—	18	丸孔。	
4	0.60	0.40	0.75	○	○	1	2	2.0, 0.7	—	—	19	丸孔。	
5	0.71	0.51	0.10	○	○	1	2	1.5, 0.6, 0.8	5.9, 9.2, 6.9	孔一貫通	10	丸孔。手のひらは、表面は斜めに入り、まっすぐ入る。	
6	0.80	0.60	0.10	○	○	1	2	1.5, 0.2	10.7	12.0	11A	表面はやや傾斜に入らる。企画書による加工工程 1 (表面)。	
7	0.92	0.60	0.10	○	○	1	2	2.0, 1.0	—	10.0	11B	表面は傾斜の入り込み。	
8	0.93	0.50	0.10	○	○	1	2	2.0, 0.8	8.1	21.0	11C	表面に凹いて割れている。発泡から引抜かれ。1-1部品でござります。	
9	1.03	0.50	0.10	○	○	1	2	2.0, 0.8	—	—	11D	企画書による加工工程 2 (表面)、表面に凹みあり。	
10	1.03	0.50	0.10	○	○	1	2	2.0, 0.8	—	—	11E	丸孔が作られてある。表面に凹みあり。	
11	14.0	0.60	0.60	○	○	1	2	2.0, 0.2	7.7	5.2, 5.8	孔一貫通	121	丸孔。表面に凹みあり。
12	0.40	0.35	0.40	○	○	1	2	2.0, 0.7	—	—	122	丸孔。	
13	0.48	0.30	0.50	○	斜面切欠き	1	2	—	—	—	131	1/2寸方角。企画書による加工工程 1 (表面)。	
14	0.5	0.4	0.2	○	斜面切欠き	1	2	—	—	—	141	表面に斜面切欠き。	
15	0.10	0.05	0.05	○	小穴	1	2	—	—	—	151	丸孔ひじ孔。	
16	0.15	0.12	0.05	○	小穴	1	2	—	—	—	161	丸孔。	
17	0.20	0.15	0.05	○	小穴	1	2	—	—	—	171	丸孔。	
18	0.40	0.20	0.20	○	穴	1	2	—	—	—	181	丸孔。	
19	0.22	0.08	0.03	○	穴	1	2	—	—	—	191	丸孔に凹み。表面に凹み。	
20	0.22	0.08	0.03	○	穴	1	2	—	—	—	201	丸孔に凹み。表面に凹み。	
21	0.22	0.08	0.03	○	穴	1	2	—	—	—	211	丸孔に凹み。表面に凹み。	
22	0.22	0.08	0.03	○	穴	1	2	—	—	—	221	丸孔に凹み。表面に凹み。	
23	0.22	0.08	0.03	○	穴	1	2	—	—	—	231	丸孔に凹み。表面に凹み。	
24	0.22	0.08	0.03	○	穴	1	2	—	—	—	241	丸孔に凹み。表面に凹み。	
25	0.22	0.08	0.03	○	穴	1	2	—	—	—	251	丸孔に凹み。表面に凹み。	
26	0.22	0.08	0.03	○	穴	1	2	—	—	—	261	丸孔に凹み。表面に凹み。	
27	0.22	0.08	0.03	○	穴	1	2	—	—	—	271	丸孔に凹み。表面に凹み。	
28	0.22	0.08	0.03	○	穴	1	2	—	—	—	281	丸孔に凹み。表面に凹み。	
29	0.22	0.08	0.03	○	穴	1	2	—	—	—	291	丸孔に凹み。表面に凹み。	
30	0.22	0.08	0.03	○	穴	1	2	—	—	—	301	丸孔に凹み。表面に凹み。	
31	0.22	0.08	0.03	○	穴	1	2	—	—	—	311	丸孔に凹み。表面に凹み。	
32	0.22	0.08	0.03	○	穴	1	2	—	—	—	321	丸孔に凹み。表面に凹み。	
33	0.22	0.08	0.03	○	穴	1	2	—	—	—	331	丸孔に凹み。表面に凹み。	
34	0.22	0.08	0.03	○	穴	1	2	—	—	—	341	丸孔に凹み。表面に凹み。	
35	0.22	0.08	0.03	○	穴	1	2	—	—	—	351	丸孔に凹み。表面に凹み。	
36	36.0	25.0	16.5	石	板	規格	1	—	—	—	41F 21	16A	
37	0.8	0.1	3.7	小穴	○	斜面	2	—	—	—	41G 21	16B	

第21表 器種不明、破片、その他属性表

属性名	属性值	属性描述	属性类型	消息	ID	类	类的名称	功能	操作
1.4.0	33.0.1	2	①	C a+1 a	2.0.1.9	底	底	底	底
2.4.0	3.7	1	①	D a a	2.0.0.0	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒
3.4.0	2.4/1.5	2	②	C a+1 a	1.9.1.8	底	底	底	底
4.5.0	5.6	2.0/2.2	2	②	C a+2 a	1.9.2.5	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒
5.4.0	1.6/0.7	4	②	D a-1 c	1.9.2.9	底	底	底	底
6.4.0	1.7/1.5	2	③	D a-1 c	1.9.2.0	底	底	底	底
7.4.0	1.6/1.1	2	③	D a-3 a	2.1.0.0	底	底	底	底
8.4.0	1.6	1.6/0.5	3-4	C a-3 c+1	1.7.0.4	底	底	底	底
9.3.0	2.0/2.0	6	④	C a+1 a	1.9.1.8	底	底	底	底
10.4.0	3.7	2.7	4	C a-1 a	1.9.1.9	底	底	底	底
11.4.0	2.0/0.0	1+2	⑤	C a-2 a	1.9.0.2	底	底	底	底
12.4.0	4.5	2.0/2.0	2+4	C a-1 a	1.9.0.1	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒
13.4.0	2.6	2.1/1.5	2+6	C a-2 a+1	1.9.1.8	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒
14.4.0	2.7	2.1/1.8	2	C a a	1.9.1.7	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒
15.5.0	3.9/0.3	2	⑥	C a-1 a	2.3.0.1	人面+一面倒	人面+一面倒	人面+一面倒	人面+一面倒
16.5.0	4.4/1.7	3	⑥	C a+1 a	1.9.0.0	底	底	底	底
17.3.0	3.6/2.7	2	⑦	C a+2 a	1.9.1.8	底	底	底	底
18.4.0	4.7	2.0/1.5	3	⑧	B a a	2.3.0.3	底	底	底
19.5.0	4.8	3.1/2.8	3	⑨	B a a	2.4.0.1	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒
20.4.0	4.7	3.4/2.2	2	⑩	B a+1 a	2.4.0.4	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒
21.4.0	4.6	2.4/2.0	2	⑪	B a+1 a	2.3.0.3	底	底	底
22.4.0	4.6	2.5/0.9	3	⑫	B a+1 a	2.3.0.4	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒
23.4.0	4.7	2.9/0.8	2	⑬	C a a	1.6.2.5	底	底	底
24.5.0	2.0	2.1/0.5	2	⑭	D a+2 a+e	2.1.0.1	底	底	底
25.4.0	3.8/0.4	2	⑮	C a+1 a	2.3.0.0	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒
26.4.0	4.6	2.6/2.0	1+2	C a+1 a+1	1.9.0.0	底	底	底	底
27.4.0	4.3	1.8/1.3	3	⑯	C a a	1.9.1.8	底	底	底
28.4.0	4.5	2.9/2.0	2	⑰	C a a	2.9.0.0	底	底	底
29.3.0	3.5	3.5/1.7	3	⑱	C a+1 a	2.9.0.0	底	底	底
30.3.0	3.4	4.0/0.7	2	⑲	A a a	2.0.0.8	人面+一面倒	人面+一面倒	人面+一面倒
31.4.0	3.0	3.5/0.8	2	⑳	D a b	2.0.0.8	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒
32.4.0	4.2	3.5/0.8	2	㉑	D a b	2.0.0.8	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒
33.4.0	4.5	1.5/1.4	2	㉒	D a b	1.9.1.8	底	底	底
34.4.0	4.2	2.9/2.6	2	㉓	C a a	2.9.1.9	底	底	底
35.4.0	3.4	3.2/1.8	2	㉔	A a a	2.0.0.1	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒
36.4.0	3.8	1.8/1.4	2	㉕	C a+1 a	1.7.0.7	底	底	底
37.4.0	3.8	1.5/1.6	1	㉖	A+C a a	1.6.1.5	底	底	底
38.4.0	3.9	1.7/1.5	2	㉗	A+C a a	1.9.1.8	底	底	底
39.4.0	3.8	1.7/1.4	2	㉘	A+C a a	1.9.1.8	底	底	底
40.4.0	3.6	1.9/1.7	1	㉙	A+B a+1 a	1.9.0.1	底	底	底
41.4.0	3.9	3.2/2.0/0.1	1	㉚	D a+1 a	1.9.0.5	底	底	底
42.4.0	3.8	2.5/2.0/0.2	2	㉛	B a+1 a	1.9.0.7	底	底	底
43.4.0	3.8	3.4/2.2/0.2	1	㉜	B a a	1.9.0.8	底	底	底
44.4.0	3.8	3.2/2.0/0.2	2	㉝	B a a	1.9.0.7	底	底	底
45.4.0	3.9	2.9/1.8	2	㉞	B a a	1.9.0.6	底	底	底
46.4.0	3.9	2.6/2.0/2	2	㉟	B a+1 a	1.9.0.6	底	底	底
47.4.0	3.8	3.5/2.0/2	1	㉟	B a a	1.9.0.7	底	底	底
48.4.0	3.8	2.3/2.0/2.5	1	㊂	B a a	1.9.0.8	底	底	底
49.4.0	3.7	3.4/2.4/1	2	㊃	A+C a a	1.6.0.2	底	底	底
50.4.0	3.7	3.2/2.0/2	2	㊄	A a a	1.9.1.8	底	底	底
51.4.0	3.8	3.1/3.0/3	3	㊅	A a+1 a+1	1.7.0.8	底	底	底
52.4.0	3.7	2.7/2.8	1	㊆	A+C a+1 a	1.7.0.6	底	底	底
53.4.0	3.7	3.1/3.0/2.9	1	㊇	C+A a+1 a	1.5.0.8	底	底	底
54.4.0	3.7	3.3/3.2/2.2	1	㊈	C a+1 a+1	1.4.0.8	底	底	底
55.4.0	3.5	3.3/3.2/2.2	1	㊉	C a+1 a+1	1.4.0.8	底	底	底
56.4.0	3.5	3.2/2.0/2.5	2	㊊	B a+2 a	1.9.0.8	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒
57.4.0	4.5	4.1/1.0/0	1	㊋	A+C a+1 a	1.9.0.1	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒
58.4.0	3.5	3.1/2.0/3	3	㊌	A a+2 a+1	1.9.0.8	底	底	底
59.4.0	4.6	1.9/1.8	2	㊍	C a+2 a+1	2.1.0.2	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒
60.4.0	5.0	3.0	2.8/2.5	4	C a+2 a+1	2.1.0.2	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒
61.5.0	3.1	3.2/2.0/1	1	㊎	C a+1 a	1.9.0.8	底	底	底
62.4.0	3.8/3.8	3	㊏	C a+1 a	1.2.0.1	底	底	底	底
63.4.0	4.0	1.5/1.7	2	㊐	C a@ a	1.9.0.3	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒
64.4.0	4.2	2.4/2.6	2	㊑	C a@ a	1.7.0.9	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒
65.4.0	5.5	5.1	2.1/0.1	2-4	B+C a+2 a	2.1.0.9	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒
66.4.0	5.2	4.8	2.0/2.5	4-5	C a a+1	1.9.0.2	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒
67.4.0	4.3	4.0	3.7	1	B a+1 a	1.9.0.1	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒
68.4.0	5.4/0.6	4.6	1	㊒	B a+1 a	2.1.0.1	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒
69.4.0	3.8	1.5/1.1	2	㊓	C a a	1.9.0.7	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒
70.4.0	4.0	2.2	1.5	1	A a+1 a+1	1.9.0.3	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒
71.4.0	5.2	4.7	1.6/1.2	1	C a+1 a+1	1.9.0.2	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒
72.4.0	5.2	2.0/2.5	2+0	C c l c	1.9.0.2/2	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒
73.5.1	5.1	4.5	2.0	1	A a a+1	1.9.0.9	底+一面倒	底+一面倒	底+一面倒

第22表 白玉属性表(1)

番号	鉱物名	組成元素	形	結晶系	結晶構造	組成割合	結晶度	性質	用途	備考
72	4.6		柱状	斜方柱		1.1			22%	半導体。
73	4.6	1.824	柱状	斜方柱	C-a+c-a	1.91.9	真		28%	
74	4.2	3.931	柱状	斜方柱	C-a+a	1.91.9	真		25%	
75	4.1	2.01.2	柱状	斜方柱	C-a+a	1.91.9	真		19%	
76	5.5	1.5	柱状	斜方柱	B-A-a+c	1.91.3	半導体・導電		15%	
77	4.8	2.01.9	柱状	斜方柱	B-a+a	1.91.9	真		20%	
78	6.1	5.324.5	柱状	斜方柱	D-a+c-a	1.91.9	半導体・導電		16%	半導体にさき立つもの。電極に用ひる。
79	4.7	6.5	柱状	斜方柱	A-a+c-a	1.91.4	半導体・導電		10%	
80	5.3	5.3	柱状	斜方柱	A-a+c-a	1.91.8	半導体・導電		10%	電極に用ひる。
81	5.1	4.9	柱状	斜方柱	A-C-a+2+c	1.91.1	半導体・導電		10%	電極に用ひる。
82	4.5	4.2	柱状	斜方柱	B-a+a	1.91.9	真		16%	
83	4.2	4.73.9	柱状	斜方柱	C-a+a	1.91.9	半導体・導電		16%	半導体に用ひる。
84	4.0	15	柱状	斜方柱	D-a+a	1.92.0	真		30%	半導体・導電
85	4.4	2.96.6	柱状	斜方柱	C-a+1-a-1	1.92.0	真		20%	半導体・導電
86	5.0	1.91.7	柱状	斜方柱	C-a+1-a	1.92.2	半導体・導電		10%	半導体・導電
87	4.9	2.1	柱状	斜方柱	C-a+1-a	1.92.2	真		17%	
88	6.5	1.3	柱状	斜方柱	C-a+a	1.91.9	半導体・導電		11%	半導体・導電
89	4.3	2.96.8	柱状	斜方柱	C-a+2+a+1	1.92.0	真		17%	
90	5.1	1.91.3	柱状	斜方柱	C-a+1-a	1.92.1	真		19%	
91	4.6	2.92.2	柱状	斜方柱	C-a+a	1.92.0	真		18%	半導体・導電
92	4.5	4.4	柱状	斜方柱	D-a+a	1.91.8	真		15%	半導体・導電
93	4.4	1.91.1	柱状	斜方柱	C-a+a	1.92.0	半導体・導電		10%	半導体・導電
94	4.3	4.0	柱状	斜方柱	C-a+a	1.92.0	真		17%	
95	4.7	2.82.7	柱状	斜方柱	C-a+1-a	1.91.9	真		17%	
96	4.3	2.96.8	柱状	斜方柱	C-a+2+a+1	1.92.0	真		17%	
97	5.1	1.91.3	柱状	斜方柱	C-a+1-a	1.92.1	真		19%	
98	4.6	2.92.2	柱状	斜方柱	C-a+a	1.92.0	真		18%	半導体・導電
99	4.5	4.4	柱状	斜方柱	D-a+a	1.91.8	真		15%	半導体・導電
100	5.0	1.91.1	柱状	斜方柱	C-a+a	1.92.0	半導体・導電		10%	半導体・導電
101	4.8	4.4	2.92.7	柱状	C-a+a	1.92.0	半導体・導電		10%	半導体・導電
102	4.6	4.3	2.92.0	柱状	B-a+a	1.92.0	真		16%	
103	4.7	2.82.9	柱状	斜方柱	C-a+a	1.92.5	半導体・導電		16%	
104	4.7	2.92.0	柱状	斜方柱	C-a+1-a	1.91.9	真		19%	
105	4.9	4.5	2.92.5	柱状	C-a+1-a	1.91.9	半導体・導電		18%	半導体・導電
106	4.1	1.91.7	柱状	斜方柱	C-a+a	1.92.0	真		17%	半導体の導電性。
107	4.5	2.41.2	柱状	斜方柱	C-a+1-a	1.91.7	半導体・導電		16%	半導体の導電性。
108	5.0	4.6	2.91.8	柱状	C-a+a	1.92.0	半導体・導電		16%	半導体の導電性。組合せ物。
109	4.8	4.4	2.92.7	柱状	A-C-a+a	1.92.0	半導体・導電		10%	半導体の導電性。
110	4.6	4.3	2.92.0	柱状	B-a+a	1.92.0	真		16%	
111	4.7	2.82.9	柱状	斜方柱	C-a+a	1.92.5	半導体・導電		16%	
112	5.0	4.6	2.92.5	柱状	C-a+a	1.92.2	半導体・導電		16%	半導体の導電性。
113	4.5	1.91.8	柱状	斜方柱	D-7a+1-Ta	1.92.4	半導体・導電		20%	
114	5.0	1.91.2	柱状	斜方柱	C-7a+1-Ta	1.92.2	半導体・導電		20%	
115	4.9	1.92.1	柱状	斜方柱	C-7a+1-Ta	1.92.4	半導体・導電		20%	半導体の導電性。
116	5.1	1.91.5	柱状	斜方柱	D-7a+1-Ta	1.92.4	半導体・導電		20%	半導体の導電性。
117	4.7	1.91.2	柱状	斜方柱	C-7a+1-Ta	1.92.0	半導体・導電		20%	半導体の導電性。
118	4.0	1.92.0	柱状	斜方柱	D-7a+1-Ta	1.91.6	半導体・導電		20%	半導体の導電性。
119	4.0	2.95.1	柱状	斜方柱	C-7a+1-Ta	1.91.6	半導体・導電		20%	半導体の導電性。
120	4.1	2.70.2	柱状	斜方柱	D-7a+1-Ta	1.91.6	半導体・導電		20%	半導体の導電性。
121	4.0	2.92.9	柱状	斜方柱	C-7a+1-Ta	1.91.8	半導体・導電		20%	半導体の導電性。
122	4.0	2.92.2	柱状	斜方柱	D-7a+1-Ta	1.91.8	半導体・導電		20%	半導体の導電性。
123	4.0	2.91.8	柱状	斜方柱	C-7a+1-Ta	1.91.8	半導体・導電		20%	半導体の導電性。
124	4.1	2.70.2	柱状	斜方柱	D-7a+1-Ta	1.91.8	半導体・導電		20%	半導体の導電性。
125	4.0	2.92.2	柱状	斜方柱	C-7a+1-Ta	1.91.8	半導体・導電		20%	半導体の導電性。
126	4.0	2.91.8	柱状	斜方柱	D-7a+1-Ta	1.91.8	半導体・導電		20%	半導体の導電性。
127	4.0	2.92.2	柱状	斜方柱	C-7a+1-Ta	1.91.8	半導体・導電		20%	半導体の導電性。
128	4.4	1.91.2	柱状	斜方柱	D-7a+1-Ta	1.91.6	半導体・導電		20%	半導体の導電性。
129	4.7	1.91.2	柱状	斜方柱	D-7a+1-Ta	1.91.6	半導体・導電		20%	半導体の導電性。
130	4.6	1.91.0	柱状	斜方柱	D-7a+1-Ta	1.91.6	半導体・導電		20%	半導体の導電性。
131	4.5	1.91.8	柱状	斜方柱	C-7a+1-Ta	1.91.6	半導体・導電		20%	半導体の導電性。
132	4.2	1.91.2	柱状	斜方柱	C-7a+1-Ta	1.91.6	半導体・導電		20%	半導体の導電性。
133	4.7	4.1	2.0	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.8	半導体・導電		20%	
134	4.7	4.0	2.4	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.8	半導体・導電		20%	
135	4.8	4.3	2.43.8	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.8	半導体・導電		20%	
136	5.7	5.2	1.91.8	柱状	B-7a+1-Ta	1.91.8	半導体・導電		20%	
137	5.5	5.1	1.91.5	柱状	A-C-7a+1-Ta	1.91.7	半導体・導電		20%	
138	4.9	4.7	1.91.2	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.7	半導体・導電		20%	
139	4.9	4.7	1.91.5	柱状	C-7a+1-Ta	1.92.5	半導体・導電		20%	
140	4.5	1.91.7	柱状	斜方柱	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
141	4.5	1.91.5	柱状	斜方柱	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
142	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
143	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
144	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
145	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
146	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
147	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
148	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
149	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
150	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
151	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
152	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
153	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
154	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
155	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
156	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
157	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
158	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
159	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
160	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
161	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
162	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
163	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
164	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
165	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
166	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
167	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
168	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
169	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
170	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
171	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
172	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
173	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
174	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
175	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
176	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
177	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
178	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
179	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
180	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
181	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
182	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
183	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
184	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
185	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
186	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
187	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
188	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
189	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
190	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
191	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
192	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
193	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
194	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
195	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
196	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
197	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
198	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
199	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
200	4.8	4.7	1.7	柱状	C-7a+1-Ta	1.91.1	半導体・導電		20%	
201	4.8	4.7	1.7	柱						

名	組合	組別	組別名	組	石	材	樹種	樹形	樹高	胸高	枝葉	葉	花	果	子	花	果	花	果	
140	4.5	4.5	1.92.7	2	◎	/	C	Ta-a	Ta-b	2.31.9	葉厚一葉薄	26								
141	4.5	4.5	1.92.6	1+2	-	/	C	Ta+b	Ta	1.91.9	葉	26	葉厚い葉も少し薄い。葉厚い葉は多くある。							
142	4.2	2.2	1	-	I	C	Ta	Ta	2.02.3	葉厚一葉薄	27	葉厚い葉も少し薄い。								
143	5.5	6.8	1.92.1	2+3	-	I	C	Ta	Ta	1.92.0.3	葉厚一葉薄	28								
144	4.6	1.92.6	2	-	I	C	Ta	Ta	2.01.9	葉厚一葉薄	29									
145	4.2	1.9	1	-	I	C	Ta+a	Ta	2.01.8	葉厚一葉薄	29									
146	4.6	1.9	1	-	I	C	Ta+b	Ta+b	1.91.4	葉	29									
147	4.2	1.9/1.8	2	-	I	C	Ta	Ta	2.01.9	葉厚一葉薄	29									
148	4.6	1.8	1	-	I	C	Ta+b	Ta	1.91.7	葉	29	葉厚い葉が少く、葉薄い葉は多くある。								
149	3.9	4.4	1.8	1	-	I	C	Ta+b	Ta+b	1.91.9	葉厚一葉薄	29								
150	4.8	4.5	1.92.7	2	-	I	C	Ta	Ta+b	2.02.4	葉厚一葉薄	29								
151	4.7	4.1	0.91.3	2	-	I	C	Ta+b	Ta	1.91.2	葉?	29								
152	4.6	1.91.5	2	-	I	C	Ta	Ta	1.91.6	葉	29									
153	4.6	4.6	1.91.3	2	-	I	A	Ta+b	Ta	1.91.9	葉厚一葉薄	29	葉厚い葉が少く、葉薄い葉がある。							
154	4.7	4.2	2.9	1	◎	/	A	Ta+b	Ta	1.91.9	葉厚一葉薄	29								
155	5.1	3.12.5	3	-	I	C	Ta+b	Ta+b	1.92.0	葉厚一葉薄	29	葉厚い葉と少し薄い葉がある。								
156	4.7	2.9/2.8	2	-	I	C	Ta+b	Ta	1.92.3	葉?	29	葉厚い葉と少し薄い葉がある。								
157	5.0	2.10.1	1	-	/	C	Ta	Ta	1.92.1	葉厚一葉薄	29									
158	4.6	4.2	1.91.9	2	-	/	C	Ta+b	Ta	1.91.8	葉?	29	葉厚い葉が少く、葉薄い葉がある。							
159	5.0	2.4	1	◎	I	C	Ta+b	Ta	1.92.0	葉厚一葉薄	29									
160	6.9	3.14.1	3	◎	I	C	Ta+b	Ta	1.92.0.3	葉厚一葉薄	29	葉厚い葉が多い。								
161	4.5	4.1	2.92.1	2	-	/	B	Ta	Ta+b	2.42.3	? (葉厚一葉薄)	29								
162	3.8	1.92.8	3	-	/	D	Ta	Ta+b	1.91.5	葉?	29	葉厚い葉が多い。								
163	4.3	1.92.4	3	-	/	C	Ta	Ta+b	1.91.2	葉厚一葉薄	29	葉厚い葉がある。								
164	3.6	1.92.6	3	-	/	D	Ta	Ta+b	1.91.6	葉厚一葉薄	29	葉厚い葉がある。								
165	4.5	1.92.1	2	-	I	A	Ta	Ta	2.02.9	葉?	29									
166	2.9	1.92.5	3	-	/	C	Ta+b	Ta	1.91.8	葉厚一葉薄	29									
167	3.6	1.92.3	5+2	-	/	A	Ta+b	Ta	1.91.7	葉?	29	葉厚い葉と葉薄い葉がある。								
168	5.6	8.10	2.92.8	3	◎	/	C	Ta+b	Ta	1.92.2	葉?	29	葉厚い葉と葉薄い葉がある。							
169	5.0	8.0	2.9	1	◎	I	D	a+1	a	2.02.0	葉?	29								
170	4.5	0.61.6	2	◎	◎	/	C	a+1	a	1.91.5	葉?	29								
171	5.1	4.6	3.3	1	◎	/	B	a+1	a	1.92.1	葉厚一葉薄	29	葉厚い葉と葉薄い葉がある。							
172	5.4	2.92.7	2	◎	/	B+C	a+1	a	2.02.4	葉厚一葉薄	29									
173	5.0	4.7	2.92.3	2	◎	/	B	a+1	D+D	2.02.0	葉厚一葉薄	29	葉厚い葉が多い。							
174	4.5	1.92.3	2	-	/	C	a+1	a	1.91.1	葉厚一葉薄	29	葉厚い葉が多い。								
175	5.3	4.9	2.10.9	2	-	/	C	a+1	a+1	1.92.6	葉厚一葉薄	29	葉厚い葉と葉薄い葉がある。							
176	5.4	1.91.9	1	-	/	C	a	a	1.91.7	葉厚一葉薄	29									
177	5.1	5.0	1.91.9	3	-	I	C	a+1	a	2.02.0	葉厚一葉薄	29								
178	5.2	2.92.5	3	◎	I	C	a+1	a	1.92.0	葉厚一葉薄	29	葉厚い葉が多い。								
179	5.4	1.92.8	2	◎	I	B	a+e	a	1.92.7	葉厚一葉薄	29									
180	4.4	3.92.6	2	-	I	C	a	a	2.02.0	葉厚一葉薄	29									
181	4.8	2.10.3	2	-	I	A	a	a	1.91.8	葉?	29									
182	4.6	2.92.1	2	-	I	C	a	a	1.91.8	葉?	29									
183	4.6	4.2	1.91.7	1	-	I	B	a	a	1.92.2	葉?	29								
184	4.3	3.92.2	2	-	I	B	a+1	a	1.92.0	葉厚一葉薄	29	葉厚い葉と葉薄い葉がある。								
185	4.5	1.92.2	2	-	I	B+A	a+1	a	1.92.2	葉厚一葉薄	29	葉厚い葉と葉薄い葉がある。								
186	4.5	1.92.5	3	-	/	C	a	a	1.92.4	葉厚一葉薄	29									
187	4.6/3.3	4.92.8	2.5	-	I	D	a+e	a	1.92.0	葉厚一葉薄	29	葉厚い葉と葉薄い葉がある。								
188	4.8	2.92.2	2	-	/	C	a+2	a	2.02.0	葉?	29	葉厚い葉と葉薄い葉がある。								
189	4.7	2.92.9	2	-	I	C	a	a	1.91.7	葉?	29	葉厚い葉と葉薄い葉がある。								
190	4.7	4.2	2.92.1	2	-	I	A	a+e	a	1.92.7	葉厚一葉薄	29	葉厚い葉と葉薄い葉がある。							
191	4.4	2.92.5	2	-	I	B	a	a	1.92.2	葉?	29									
192	4.3	3.92.2	2	-	I	B	a+1	a	1.92.0	葉厚一葉薄	29	葉厚い葉と葉薄い葉がある。								
193	4.5	1.92.0	2	-	I	B+A	a+1	a	1.92.2	葉厚一葉薄	29	葉厚い葉と葉薄い葉がある。								
194	4.5	1.92.5	3	-	/	C	a	a	1.92.4	葉厚一葉薄	29									
195	4.6/3.3	4.92.8	3	-	I	D	a+e	a	1.92.3	葉厚一葉薄	29	葉厚い葉と葉薄い葉がある。								
196	4.5	1.92.8	2	-	I	C	a+2	a+2	1.91.5	葉?	29									
197	5.4	1.91.1	1	◎	I	C	a+2	a+2	1.91.7	葉?	29									
198	5.5	1.92.1	2	-	I	B	a	a	1.91.9	葉?	29	葉厚い葉と葉薄い葉がある。								
199	4.6	1.92.1	4	-	I	B+A	a+1	a	1.91.9	葉厚一葉薄	29									
200	4.5	1.92.9	2	-	I	C	a+1	a	1.92.4	葉厚一葉薄	29									
201	4.5	1.92.9	2	-	I	C	a+1	a	1.92.4	葉厚一葉薄	29									
202	4.8	1.91.7	2	-	I	C+A	a	a	1.92.0	葉厚一葉薄	29									
203	4.5	1.91.6	2+5	-	I	C+B	a	a	1.91.9	葉厚一葉薄	29									
204	5.1	2.92.5	3	◎	I	C	a+1	a	1.91.8	葉?	29	葉厚い葉と葉薄い葉がある。								
205	5.5	2.92.7	3	◎	I	C	a	a	1.91.8	葉?	29	葉厚い葉と葉薄い葉がある。								
206	4.5	1.92.1	2	-	I	C	a+2	a+2	1.91.5	葉?	29									
207	4.5	1.92.9	2	-	I	C	a+1	a	1.92.4	葉厚一葉薄	29									
208	4.8	1.91.7	2	-	I	C+A	a	a	1.92.0	葉厚一葉薄	29									
209	4.5	1.91.6	2+5	-	I	C+B	a	a	1.91.9	葉厚一葉薄	29									
210	5.1	2.92.5	3	◎	I	C	a+1	a	1.91.8	葉?	29	葉厚い葉と葉薄い葉がある。								
211	5.5	2.92.7	3	◎	I	C	a	a	1.91.8	葉?	29	葉厚い葉と葉薄い葉がある。								
212	4.5	1.92.1	2	◎	I	C	a+1	a	1.91.9	葉?	29	葉厚い葉と葉薄い葉がある。								
213	3.8	1.92.0	3	◎	I	C	a	a	1.91.6	葉?	29	葉厚い葉と葉薄い葉がある。								

第24表 白玉属性表(3)

No.	総合番	最高層	底石	H	地質	構造形態	岩相	風化	孔の状態	試験番号	場所
254	8.2	5.5	3.5.5	1	①	↑	A a+c a+c	2.22.6	直孔一貫通	20	東・西面に分布する、時に露頭現れる。
255	5.0	4.0	3.0	1	+	↑	D a a	2.11.8.0	直孔一貫通	30	北西斜面に分布する、露頭の場合は多く。
256	5.0	4.0	2.8	1	+	↑	A a+c a	1.86.0.0	直孔一貫通	31	
257	4.9	4.5	2.10.7	2-5	+	↑	C a+c a	1.82.0	直孔一貫通	32	
258	5.7		0.92.2	3	④	↑	A a+c a+c	1.61.4	直孔一貫通	33	
259	5.0	4.5	2.41.0	2	+	↑	A a+c a	1.71.6	直孔一貫通	34	
260	5.2		1.82.6	3	+	↑	C a+c a+c	1.72.0	直孔一貫通	35	鉄鉱化が進行している、一部風化している。
261	4.7	4.1	1.83.2	2	+	↖	A a a	1.92.1	南面一貫通	36	露頭状況。
262	4.4	4.3	1.11.3	1	+	↖	A a a	1.91.7	南面一貫通	37	複合している。
263	4.6		1.81.3	2	+	↖	B-C a+c a	1.91.1	南面一貫通	38	露頭状況。
264	4.7		1.8	1	+	↖	C a a	1.91.6	直	39	
265	4.6		1.87.4	3	+	↖	C c+c a	1.86.1	露頭一貫通	40	
266	5.5	5.1	1.10.8	2	④	↖	A a+c a	1.71.9	直孔一貫通	41	表面には鉄の入り込みがある。
267	5.5	4.8	2.02.7	2	④	↖	A a+c a	1.72.1	直孔一貫通	42	
268	5.3	4.9	1.92.7	2	+	↖	B a+c a	2.42.3	直孔一貫通	43	
269	5.0		2.02.2	3	④	↖	C a+c a+c	1.97.0	直	44	
270	4.1		1.16.3	2	④	↖	C c+c a	2.02.0	直	45	
271	4.2	3.9	2.9	1	+	↖	A a a	2.02.0	直	46	
272	5.2		1.82.5	2	+	↖	C a a	1.91.8	直孔一貫通	47	
273	4.2	4.9	2.5	1-5	+	↖	C a+c a+c	2.22.0	直孔一貫通	48	
274	4.8	4.4	2.92.3	2	+	↖	A a a	2.21.8	露頭一貫通	49	
275	4.5	4.3	1.82.1	2	+	↖	B a a+c	2.21.9	露頭一貫通	50	露頭状況。
276	4.5	4.3	1.7	4	+	↖	C a a	1.81.0	南面一貫通	51	南面の露頭状況。
277	4.2		0.89.2	2	+	↖	C a+c a+c	1.72.5	露頭一貫通	52	
278	3.9	3.0	2.10.7	2	+	↖	A a+c a+c	1.41.6	露頭一貫通	53	平均露出率や鉄量が少ない、光沢あり。
279	15	5.3	1.30.3	21-0	-	+	A a+c a+c	1.61.9	露頭一貫通	54	
280	4.0	4.4	2.6	1	④	↖	A a+c a+c	1.61.5	露頭一貫通	55	
281	3.1		2.3/3	3	④	↖	C a+c a+c	2.32.3	露頭一貫通	56	露頭状況。
282	5.5		1.7	1	④	↖	C a a	1.51.4	露頭一貫通	57	
283	8.9	5.9	1.15.3	3-5	④	↖	C a+c a+c	2.42.6	露頭一貫通	58	
284	5.45.5	5.95.5	1.64.5	5-5	+	↖	C a+c a+c	2.71.0	露頭、露頭状況。	59	
285	6.3	5.8	1.32.8	2-5	+	↖	C a+c a+c	2.51.0	露頭一貫通	60	
286	6.5	6.1	1.93.9	2-5	+	↖	C a+c a+c	2.72.6	露頭一貫通	61	鉄鉱化が進んでおり、光沢あり。
287	6.1	6.2	1.51.1	2	+	↖	C a a+c	2.52.7	露頭一貫通	62	
288	6.4	5.8	2.94.0	3	↖	↖	C a a+c	2.39.2	露頭一貫通	63	露頭状況。
289	6.7		1.81.2	2	+	↖	C a a	2.11.0	露頭一貫通	64	
290	6.9		1.81.2	2	+	↖	C a+c a+c	2.22.5	露頭一貫通	65	
291	6.3		1.92.1	1	+	↖	C a+c b	1.92.0	露頭一貫通	66	
292	5.8		1.8	1	+	↖	C a+c a+c	1.32.6	露頭一貫通	67	
293	5.7	5.2	2.95.5	2-5	④	↖	C a a	1.82.7	露頭一貫通	68	
294	4.5		1.52.5	3	+	↖	C a+c a	1.91.9	直	69	
295	4.6	4.4	1.8	1	+	↖	A a a	1.91.9	直	70	
296	5.6		1.52.1	2	+	↖	C a+c b+c	2.22.3	直	71	鉄の沈積があり。
297	4.4	3.4	1.3	1	+	↖	A a a	2.32.0	露頭一貫通	72	やや鉄の沈積の跡がある。
298	5.4		2.02.9	2	④	↖	C a+c a+c	2.52.5	直	73	鉄鉱は認められない。
299	4.7		1.8	1	+	↖	C a a	1.70.7	直	74	
300	4.1		1.92.0	2	④	↖	C a a	1.70.7	直	75	
301	5.0		1.80.5	2	④	↖	C a a+c	2.01.8	露頭一貫通	76	鉄鉱の沈積があり、鉄鉱は認めない。
302	4.5	4.2	1.7	1	④	↖	B a a	1.72.0	露頭一貫通	77	鉄鉱の沈積。
303	6.0	4.1	2.02.5	2	④	↖	A a+c a	2.01.8	露頭一貫通	78	鉄鉱の沈積。
304	4.8	4.2	1.9	1	④	↖	A a+c a+c	2.01.8	露頭一貫通	79	鉄鉱の沈積。
305	4.5	3.9	2.2	1	④	↖	A a a	2.11.0.3	露頭一貫通	80	鉄鉱の沈積。
306	4.8	4.2	1.7	1	④	↖	A a+c a+c	2.01.8	露頭一貫通	81	鉄鉱の沈積。
307	4.6		1.80.5	2	+	↖	C a+c a+c	2.22.0	露頭一貫通	82	
308	5.2	4.7	1.75.9	3-5	+	↖	C a+c a+c	2.12.0	露頭一貫通	83	鉄鉱は認められない。
309	4.1		1.78.2	2	+	↖	C a a	1.69.9	露頭一貫通	84	
310	3.7	3.3	1.7	1	+	↖	C a a	1.81.6	露頭一貫通	85	鉄鉱は認められない。
311	5.3	4.8	1.64.1	2	④	↖	C a+c a+c	2.02.0	露頭一貫通	86	鉄鉱は認められない。
312	4.7		1.91.9	2	+	↖	* a+b a	1.51.5	直	87	
313	5.2		2.35.8	3	+	↖	* a+b a	2.02.3	露頭一貫通	88	鉄鉱の沈積。
314	4.9		1.85.5	2	+	↖	* a+b a	2.02.2	露頭一貫通	89	
315	4.7		1.91.6	2	+	↖	* a+b a	1.41.7	露頭一貫通	90	
316	4.84.4	4.60.0	2.02.5	2	+	↖	A a+c a	1.92.1	露頭一貫通	91	平均露出率や鉄量が少ない。
317	4.0		1.7	1	+	↖	C a a	2.01.8	露頭一貫通	92	
318	4.1		1.51.0	2	+	↖	C a a	1.91.9	露頭一貫通	93	
319	4.2		1.61.9	2	+	↖	C a a	1.91.9	露頭一貫通	94	
320	4.3	3.8	2.41.8	2	+	↖	B-A a a	2.11.0	露頭一貫通	95	
321	4.3	3.9	3.25.8	6-2	+	↖	C a a	2.02.1	露頭一貫通	96	
322	5.1		1.81.0	2	+	↖	C a a	1.92.1	露頭一貫通	97	
323	2.1		2.23.1	2	④	↖	C b(c) a+c	2.22.1	直	98	
324	4.6		1.61.3	2	+	↖	C a+c a	1.77.2	露頭一貫通	99	

第25表 白玉属性表(4)

No	武大系	範囲	使用部	形	材料	接合部	被覆部	IPM	吸出	孔	張	丸の状態	標記符号	備考		
266	4.5	L52.3	2	⑤	C	a-a	L72.1	表面-人間	60							
267	4.6	1.7	1	*	C	a-a	L72.7	表面-人間	61							
268	5.1	0.912	2	*	C	a-a	L82.0	表面-人間	62							
269	3.6	1.3	1.6	1	B	a-a	L86.6	表面-人間	63							
270	T.1	L12.7	2	④	A	a-a	L95.0	表面-人間	64							
271	6.2	5.1	1.023	2	④	*	A-a+1-a+2	L96.0	表面-人間	65						
272	4.9	4.1	1.146	6	⑤	/	D	a-a	L98.1	表面-人間	66					
273	5.9	5.4	4.952	6	-	/	D(D)	a-a	2.02.2	表面-人間	67					
274	5.8	3.541	2	*	C	a-a+1	2.05.9	表面-人間	68							
275	5.2	3.527	1	*	C	a+1-a	2.12.0	表面-人間	69							
276	3.5	1.937	3	*	C	b-a-a	2.20.3	表面-人間	70							
277	5.3	3.336	3	*	C	b(a-b-a)	2.81.2	表面-人間	71							
278	4.7	4.5	2.753	3	*	C	b(a-b-a)	3.01.9	表面-人間	72						
279	4.9	4.4	2.6	1	*	C	A-a+1-a	3.51.4	表面-人間	73						
280	4.8	4.5	3.23.7	6	*	/	C(D)D	a+1-a	3.62.2	表面-人間	74					
281	5.1	4.7	3.43.6	6	*	/	B	b(a-b)	3.82.0	表面-人間	75					
282	5.9	5.9	2.95.4	2	④	C	b+a-a	4.17.0	表面-人間	76						
283	5.1	4.44.9	2	*	C	a-a	2.02.0	表面-人間	77							
284	5.1	5.1	4.25.6	2	*	A	a-b(b)	3.02.8	表面-人間	78						
285	4.5	1.18.7	3	*	C	a+2-a+1	2.03.8	表面-人間	79							
286	4.6	1.12.3	3	*	C	b(a-b-a)	2.02.0	表面-人間	80							
287	4.8	4.3	1.75.3	2	③	A	a-b(b)	2.02.0	表面-人間	81						
288	5.4	4.03.6	3	*	C	a+1-a	1.81.5	表面-人間	82							
289	5.0	4.9	1.32.8	6	*	/	C	b-b	1.91.8	表面-人間	83					
290	4.8	4.3	1.02.4	3	*	/	C	a+1-b	2.12.6	表面-人間	84					
291	5.4	3.32.9	2	*	C	b-b	2.02.0	表面-人間	85							
292	5.4	4.35.2	3	*	C	b+1-a	2.12.1	表面-人間	86							
293	5.4	5.1	2.32.8	2-3	①	C	a-a	1.92.1	表面-人間	87						
294	4.8	4.6	1.8	1	A	a-x(b)	1.91.8	表面-人間	88							
295	4.4	4.1	2.51.6	2	④	A	a+b	2.01.8	表面-人間	89						
296	4.4	4.0	2.27.8	2	④	A	a-a	1.51.82.4	表面-人間	90						
297	5.8	5.5	4.3	1	*	C	a-g(a-b-a)	2.02.3	表面-人間	91						
298	4.7	4.6	2.32.8	3	*	C	a(g)a	2.02.5	表面-人間	92						
299	6.7	4.3	2.32.4	3	*	A	a+1-a	2.02.3	表面-人間	93						
300	3.65.2	5.04.9	1.515	3	*	A	a-1-b(a)	1.91.9	表面-人間?	94						
301	4.6	4.4	1.25.9	3	*	B	a-a	1.72.3	表面-人間	95						
302	4.6	4.2	1.51.3	2	*	A	c(b)D(a)-a+1	1.92.2	表面-人間	96						
303	4.5	4.3	1.82.4	3	*	B	a-a	1.82.0	表面-人間	97						
304	4.0	4.8	1.32.3	3	*	B	c(a-c)a	2.02.7	表面-人間	98						
305	5.1	4.8	1.42.4	2-5	⑥	C	a+1-a	2.02.1	表面-人間	99						
306	6.3	6.7	2.72.6	1	①	C	7-a 7-a	1.92.7	アリカット	100						
307	6.4	6.0	4.42	2	*	C	b+1-b(a)	1.92.4		101						
308	6.1	6.0	3.65.7	1	*	C	7-a 7-b	1.0		102						
309	5.0	12	1	*	C	7-a 7-c	1.1		103							
310	5.0	15	1	*	C	A 7-a	1.92.9		104							
311	4.6	1.7	1	*	C	7-a 7-b	1.91.6	表面-人間	105							
312	1.9	2.7	1	④	C	T-a T-a	1.92.1		106							
313	4.5	1.91.5	2	*	C	T-a T-a	1.91.9		107							
314	4.3	1.8	1	*	C	T-a T-a	1.91.9		108							
315	4.7	1.92.6	2	*	C	T-a T-a	2.01.8	表面-人間	109							
316	4.6	1.5	1	*	C	T-a T-a	1.91.5	表面-人間	110							
317	4.6	1.42.1	2	*	C	T-a T-a	1.91.6	表面-人間	111							
318	4.8	1.21.4	1-2	*	C	b(a-c)a	2.12.0	表面-人間	112							
319	5.1	1.91.8	2	*	C	a+1-a+1	1.91.6	表面-人間	113							
320	4.8	1.62.1	2	④	D	b+1-a+1	1.91.3	表面-人間	114							
321	5.1	2.5	1	④	C	b-a	1.91.7	表面-人間	115							
322	5.0	1.12.5	2	④	D	c-a	1.91.9	表面-人間	116							
323	4.4	1.19.3	2	④	C	a+1-a+1	1.91.3	表面-人間	117							
324	5.3	1.91.7	2	④	C	a+1-a+1	1.91.8	表面-人間	118							
325	4.2	1.12	1	*	C	a-a	1.71.8	表面-人間	119							
326	4.3	1.15	1	*	C	a+1-a	1.81.0	表面-人間	120							
327	5.2	1.24	1	*	C	a+1-a	2.01.8	表面-人間	121							
328	4.1	1.12.6	2	*	C	a+1-a	1.91.9	表面-人間	122							
329	4.5	1.24	1	*	C	c+1-b	1.91.3	表面-人間	123							
330	5.0	1.24	1	*	C	a+1-a	1.91.1	表面-人間	124							
331	5.1	2.5	1	*	C	b-a	1.92.0	表面-人間	125							
332	4.5	1.25.0	2	*	C	c-a	2.02.0	表面-人間	126							
333	5.6	2.25.3	2	*	C	a+1-a+1	2.21.9	表面-人間	127							
334	4.6	1.41.8	2	*	C	c+1-a	1.91.0	表面-人間	128							
335	4.9	2.7	1	*	C	b-a	1.91.8	表面-人間	129							
336	5.2	1.92.9	1+2	*	C	a+1-b	1.91.4	表面-人間	130							

第26表 白玉属性表(5)

石	最大径	最小径	形状	表面	底面	孔	孔の状態	端面	備考	
26	4.3	1.623	2	○	-	C	a+1	a	191.0 露山-西面	
27	6.8	2.023	2	-	1	C	b-	a	191.0 露山-西面	
28	4.3	1.218	2	-	1	C	b-1	b+1	191.7 露山-西面	
29	4.4	0.957	1	-	2	C	a+1	a	191.5 露山-西面	
30	5.1	2.142	5	-	1	B	b+1	b-1	191.9 露山-西面	
31	2.2	0.924	2	-	1	C	a+1	a	192.0 露山-西面	
32	4.1	1.920	2	-	1	C	a+1	b	191.9 露山-西面	
33	5.1	0.939	2	-	1	D	a	c+1	191.9 露山-西面	
34	5.2	1.940	2	-	1	C	b-	a	191.0 露山-西面	
35	5.4	2.10	1	○	1	C	c	b	191.0 露山-西面	
36	5.9	2.6	1	○	1	C	a+1	a	191.0 ?	
37	2.8	2.124	3	○	1	D	b+1	b	191.5 露山-西面	
38	4.1	2.4	1	○	1	C	a+1	a+1	191.8 露山-西面	
39	3.8	1.929	3	○	1	D	b	b	191.8 露山-西面	
40	4.6	2.2	1	○	1	C	a+1	a	191.8 道	
41	4.6	2.6	1	-	1	C	a	a	191.6 道	
42	4.6	1.9	1	-	1	C	a	a	191.7 道	
43	4.7	2.8	1	-	1	C	c	a	191.7 道	
44	4.6	2.89	2	-	1	D	b+1	b	191.9 露山-西面	
45	4.6	2.1	1	-	1	C	b	a	191.6 露山-西面	
46	4.7	1.916	2	-	1	C	c	a	191.8 ?	
47	4.7	2	1	-	1	C	c	a	191.8 ?	
48	5.4	4.0	2.0	1	-	A	a	a	191.8 露山-西面	
49	5.2	2.0	1	○	1	C	a+1	a	191.7 露山-西面	
50	5.3	1.827	2	-	1	C	c+1	b	191.3 露山-西面	
51	5.2	2.7	1	-	1	D	c+1	c	191.4 露山-西面	
52	5.5	6.00	2	-	1	C	c+1	a	191.3 道	
53	5.4	1.8	1	-	1	C	a+2	b+1	192.3 露山-西面	
54	4.7	2.5	1	-	1	C	b	b	191.9 道	
55	4.5	3.2	1	-	1	C	b	b	192.2 道	
56	4.9	1.954	3	-	1	C	b	b	191.9 露山-西面	
57	4.3	1.429	5	-	1	C	a	a	191.5 露山-西面	
58	4.7	0.829	2	-	1	C	b+1	b+1	191.7 露山-西面	
59	4.7	2.252	2	-	1	C	c	b	192.0 露山-西面	
60	5.9	2.455	2	-	1	B	a	a	191.9 露山-西面	
61	3.2	2.024	3	○	1	C	c+1	c	191.3 露山-西面	
62	4.8	1.203	2	○	1	C	b+1	a+1	191.0 露山-西面	
63	5.2	1.456	2	○	1	D	c	c	191.5 ?	
64	5.6	2.025	2	○	1	C	a+1	a	192.1 露山-西面	
65	4.6	4.3	1.6	1	○	→	A	a+1	a	191.6 露山-西面
66	4.0	4.1	1.8	1	○	→	A	a	a	191.9 露山-西面
67	4.3	2.4	1	○	1	C	a+1	a	191.6 露山-西面	
68	5.2	1.872	2	○	1	C	c	a	191.0 露山-西面	
69	4.8	3.2	1	-	1	C	a	a	192.0 道	
70	4.8	2.254	2	-	1	C	a+1	a	191.3 露山-西面	
71	4.0	2.1	1	-	1	C	c	a	191.0 道	
72	4.0	1.204	2	-	1	C	a+1	a	191.3 露山-西面	
73	4.8	2.1	1	-	1	C	b+1	a+1	192.0 道	
74	4.2	1.197	2	-	1	C	a+1	a	191.5 露山-西面	
75	4.5	2.7	2	-	1	B	b+1	a	191.7 露山-西面	
76	4.4	1.205	2	-	1	C	a+1	a	191.5 露山-西面	
77	4.8	2.254	2	-	1	C	a+1	a	191.3 露山-西面	
78	4.7	1.418	2	-	1	C	a	a	191.1 露山-西面	
79	4.8	1.1	1	-	1	C	a+1	a	191.2 露山-西面	
80	4.6	1.924	2	-	1	C	a+1	b	191.7 露山-西面	
81	4.6	1.917	2	-	1	C	c	b	191.7 露山-西面	
82	4.1	0.912	2	-	1	C	c+1	b	191.7 道	
83	5.9	2.0	1	-	1	C	a+1	b	192.2 露山-西面	
84	4.2	1.412	2	-	1	C	a+1	a	191.1 露山-西面	
85	4.8	1.203	1	-	1	C	c+1	a+1	191.7 道	
86	4.2	1.7	1	○	1	C	b	b	191.6 道	
87	4.7	2.2	1	○	1	C	b+1	a	191.5 露山-西面	
88	4.8	2.5	1	-	1	C	c	a	191.6 道	
89	4.5	2.922	1	-	1	C	c	b	191.6 露山-西面	
90	4.5	2.933	1	-	1	C	c	b+1	191.6 道	
91	4.8	1.4	1	○	1	C	b+1	b	191.6 道	
92	4.8	3.2	1	○	1	C	b	b	191.9 道	
93	5.4	1.202	2	-	1	C	c	b	191.1 露山-西面	
94	5.3	1.932	1	-	1	C	c+1	b	191.0 露山-西面	
95	5.5	1.5	1	-	1	C	c+1	b	191.0 道	
96	5.6	2.9	1	-	1	C	b+1	b+1	191.6 露山-西面	

第27表 白玉属性表(6)

品番	品名	部品番号	部品名	形状	寸法	規格番号	規格名	仕様	備考
42	5.5	2.6	1	45	1	C	x+1	b	191.8 薄肉→薄肉
43	4.4	2.1	1						表面は不鮮明。表面は凹凸。
44	4.3	0.9/1.4	2		1				表面は不鮮明。表面は凹凸。
45	4.3	2.6	1		1				表面は不鮮明。
46	4.1	1.3	1		1				表面は不鮮明。
47	4.5	1.6/2.2	2		1				表面は不鮮明。
48	4.3	1.4/2.0	2		1		a+1	a+1	191.7 薄肉→薄肉
49	5.5	1.4/1.7	2	◎	1			a	191.5 薄肉→薄肉
50	5.6	1.3/2.3	2	◎	1		a+1	b	212.0 薄肉→薄肉
51	4.1	1.7/2.2	2	◎	1		a	a	191.8 薄肉→薄肉
52	4.8	2.6	1	◎	1			a	192.0 薄肉→薄肉
53	5.2	1.8/1.8	2	30	1			b	191.4 薄
54	5.3	1.7/1.6	1	29	1			b	191.4 薄肉→薄肉
55	3.4	1.5/2.6	1+2	30	1		b+1	b-1	191.5 薄
56	4.8	4.6	3.0	1	30			a	191.8 薄
57	4.2	1.8/2.4	2	30	1			b	191.8 薄肉→薄肉
58	5.3	2.5	1	+	1		a+1	a	191.7 薄肉→薄肉
59	5.1	1.5/1.3	2	+	1		a	a	171.8 薄肉→薄肉
60	5.0	3.5	1	+	1		a+1	a	231.8 薄肉→薄肉
61	3.8	3.7	1	◎	1	D	b	b	191.7 薄
62	0.9	1.9	1	+	1	C	a	a	232.0 薄
63	4.2	3.7	1	+	1		b	b	191.3 薄
64	4.4	2.1	1	+	1		a+1	a	191.3 薄肉→薄肉
65	5.6	1.5/5.6	3	+	1		c+1	b	191.9 薄肉→薄肉
66	5.8	3.5/4.7	2	◎	1	C	b+a	a	191.8 薄肉→薄肉
67	6.0	2.6/3.1	3	+	1		a	a	191.8 薄肉→薄肉
68	5.0	2.6	1	+	1		a+1	a	191.8 薄
69	4.5	2.8	1	◎	1		b+1	a	191.5 成
70	3.8	2.0/2.6	2	◎	1		a	a	192.0 薄肉→薄肉
71	4.0	1.8/2.5	2	◎	1		a	a	191.7 薄肉→薄肉
72	4.3	1.2	1	+	1		b+1	b	192.0 薄肉→薄肉
73	4.5	0.9/2.0	3	+	1		a	a	191.5 薄
74	4.2	1.0/2.5	1+2	+	1		c+a	c	191.5 薄肉→薄肉
75	4.7	2.5/2.6	3	+	1		a	b	191.9 薄肉→薄肉
76	5.8	3.4/3.5	2	◎	1		a	a	191.4 薄
77	3.6	2.7	1	◎	1		c	a	171.7 薄
78	4.7	1.7/2.5	2	◎	1	C+A	a	a	171.0 薄肉→薄肉
79	4.7	4.2	2.3	0	+	B+A	a	b	191.8 薄肉→薄肉
80	4.9	2.5	1	+	1	C	b+1	b+1	171.7 薄肉→薄肉
81	4.3	2.5	1	+	1		a	a	191.5 薄肉→薄肉
82	4.6	2.6/3.0	2	+	1		b	b+1	210.9 薄肉→薄肉
83	3.9	1.5/2.3	3	+	1		b	b	191.6 薄肉→薄肉
84	4.4	1.2/2.6	1+2	+	1		a+b	a	192.0 薄
85	3.0	3.4	1	◎	1		b-1	a+1	191.7 薄肉→薄肉
86	4.3	4.1	1	◎	1		b+1	b	191.8 薄
87	4.4	2.8/3.0	2	+	1		a+1	b	191.7 薄肉→薄肉
88	4.7	2.9/3.7	3	+	1		a	a	191.8 薄
89	4.5	3.8	3.2/2.9	3	+		a	a	191.5 薄
90	4.2	3.8	1	+	1		a	a	191.5 薄肉→薄肉
91	4.2	3.5	1	+	1		a	a	191.5 薄
92	4.4	3.5	1	+	1		a	a	191.5 薄
93	4.4	1.8/2.9	2	+	1		a	a	191.8 薄肉→薄肉
94	6.7	2.6/5.3	3	◎	1	b+c	b+1	a	191.0 薄肉→薄肉
95	6.1	3.3/3.0	3	◎	1	a	a	a	292.6 薄肉→薄肉
96	6.0	1.9/2.4	2	◎	1		a	a	242.1 薄肉→薄肉
97	6.5	2.2/3.0	2	+	1		c	b	242.4 薄肉→薄肉
98	4.8	1.9	1	+	1		b	b	191.6 薄
99	5.4	2.4/2.1	2	+	1		a	a	191.1 薄
100	4.7	2.4/2.8	2	+	1		b-1	a	191.4 薄肉→薄肉
101	4.9	2.7	1	+	1		b+1	b+1	191.8 薄肉→薄肉
102	4.5	1.2/1.9	3	+	1		a	b	191.3 薄
103	7.5	2.2	1	+	1		b	a+1	191.6 薄肉→薄肉
104	5.5	1.9/2.3	1	+	1	B+C	b	b	191.4 薄肉→薄肉
105	4.6	2.8	1	+	1		a+1	a	191.9 薄
106	5.0	2.8	1	+	1		a+1	a	191.5 薄肉→薄肉
107	4.9	2.8	1	+	1		a+1	a	191.5 薄肉→薄肉
108	4.9	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.9 薄
109	4.9	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.9 薄
110	4.6	2.2	1	+	1		a	a	191.8 薄
111	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
112	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
113	4.1	2.4/3.0	2	+	1		a	a	191.0 薄
114	4.9	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.9 薄
115	4.8	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.9 薄
116	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
117	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
118	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
119	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
120	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
121	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
122	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
123	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
124	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
125	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
126	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
127	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
128	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
129	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
130	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
131	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
132	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
133	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
134	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
135	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
136	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
137	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
138	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
139	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
140	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
141	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
142	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
143	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
144	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
145	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
146	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
147	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
148	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
149	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
150	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
151	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
152	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
153	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
154	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
155	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
156	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
157	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
158	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
159	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
160	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
161	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
162	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
163	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
164	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
165	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
166	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
167	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
168	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
169	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
170	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
171	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
172	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
173	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
174	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
175	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
176	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
177	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
178	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
179	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
180	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
181	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
182	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
183	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
184	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
185	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
186	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
187	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
188	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
189	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
190	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
191	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
192	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
193	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
194	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
195	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄
196	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
197	4.6	1.9/2.8	2	+	1		a	a	191.8 薄
198	4.5	1.9/2.3	1	+	1		a	a	191.3 薄

第28表 白玉属性表(7)

石	種別	番号	形	石材	詳細	調査地	立派	孔	孔の位置	寸法(?)	備考	
99	4.5	191.2	2	□	*	C	b	a	191.7	直	63	
100	4.9	191.3	2	□	*	=	b+c	b	191.0	直	63	
101	5.5	191.6	2	□	*	=	a+b	a+b	191.0	直	63	
102	3.9	191.8	2	△	△N	=	a+c	a	191.0	直	63	
103	5.6	191.4	2	-	△N	B	a+b	a+b	191.0	直	62 異なる立派、立派の同じ寸法の半数。	
104	4.4	1.5	1	①	□	C	a	a	191.1	直	63	
105	4.6	192.2	2	②	□	*	a	a	191.8	直	63 同様に立派、直、直とは記載されている。	
106	4.5	192.3	2	③	□	=	a-b	b	191.9	直	63	
107	5.0	192.6	2	④	□	=	b	a	192.0	直	63 同様立派な直、同様の立派。	
108	5.0	193	1	-	□	=	a+b	a	191.0	直	63	
109	5.1	194.8	2	-	□	=	a	a	191.7	直	63	
110	5.1	194	2	-	□	=	a+b	a+b	191.0	直	63	
111	4.1	35	192.5	2	△	□	a	a	191.0	直	63 FEA結果が特異性を示す。	
112	5.1	191.5	2	-	△N	C	b	b	191.9	直	63	
113	4.5	1.7	1	-	□	=	b+1	b+1	191.8	直	63	
114	4.3	191.7	2	-	△N	*	b	b	191.0	直	63 異なる立派の立派。	
115	4.3	191.9	2	-	□	=	b	b	191.7	直	63	
116	3.8	192.6	2	-	△N	=	a-b	b	191.5	直	63	
117	4.2	1.2	1	-	□	=	b	b	191.0	直	63	
118	4.6	192.3	2	-	△	*	c	b	192.0	直	63	
119	3.7	191.4	2	-	△	C/B	b+1	b	191.0	直	63	
120	4.4	1.2	1	-	△N	C	b+a	b	191.3	直	63	
121	4.1	2.3	1	-	□	=	b	b	191.8	直	63	
122	4.6	192.3	1+3	-	□	=	a+b	a	202.0	直	63	
123	4.4	1.8	1	-	□	=	b-1	a	191.9	直	63	
124	4.5	1.9	1	-	□	=	b	a	191.7	直	63	
125	4.1	1.0	1	-	△	A	b	b	191.5	直	63 異なる立派な立派。	
126	4.5	2.2	1	-	□	C	b	b	191.7	直	63	
127	5.1	191.8	2	-	△N	=	b+1	b	202.0	直	63	
128	4.4	2.1	1	-	□	=	b+2	b+1	191.1	直	63	
129	4.7	192.3	2	-	□	=	a+b	b-1	191.7	直	63	
130	3.8	192.9	2	-	△	*	c	b	191.6	直	63	
131	8.9	5.6	192.0	2	⑥	△	=	a+b	a-1	192.0	直?	63
132	4.6	4.4	191.8	2	⑦	□	=	B	a	192.0	直?	63
133	5.2	4.3	191.5	3	⑧	□	A	a	a	192.6	直	63 異なる立派。
134	5.0	4.4	3.8	5	⑨	□	C	a	a-1	191.7	直	63
135	3.7	1.195	2	-	□	=	C-D	b	a	192.0	直	63 異なる立派。
136	1.94	5.5/5.0	191.7	2	-	△	A	a+b	a+2	191.0	直	63
137	5.5/6.8	5.1/4.7	3.3	1	-	△	B	a+b	a	191.5	直?	63
138	4.7	4.4	192.9	2	-	□	A	a+bD	a	191.0	直?	63
139	4.7	2.0	1	-	□	C	a	a	191.0	直	63	
140	4.7	1.92.3	3	-	□	C	a	a	191.9	直	63	
141	4.5	0.824	3	-	□	=	a+b	a	192.0	直	63	
142	6.3	5.1	192.8	3	⑩	△	=	a+b	a	192.0	直	63
143	5.3	1.01.6	1.7	-	□	=	a+b	a-1	191.5	直	63 異なる立派が付記されており。	
144	5.0	1.191.7	2	-	△	*	a+b	a-1	192.0	直?	63	
145	4.6	2.7	1	-	△	*	a+b	a	191.0	直	63 異なる立派。	
146	4.5	2.02.7	5-2	-	△	B	a+b	a	191.0	直	63 異なる立派が付記。	
147	4.5	1.0	1	-	△	C	a+b	a	191.8	直	63	
148	4.5	191.1	2	-	△	*	a+b	a	191.1	直	63	
149	4.6	0.571.1	2	-	△	*	a+b	a+b	222.0	直	63 異なる立派。	
150	4.8	4.5	191.7	2-5	⑪	△	=	a+b	a+b	191.7-1.8	直	63 異なる立派が付記。
151	5.6	5.3	191.9	2-3	⑫	△	=	b-a	a	191.5	直	63
152	5.1	4.6	3.4	1	⑬	□	=	a+b	a	192/19.5	直	63 異なる立派。
153	5.3	3.4	1.191.1	2	⑭	□	A	a	a-1	191.8	直	63
154	5.1	1.191.7	1.7	2	⑮	□	A	a	a	192/19.5	直	63 異なる立派。平均値記入。
155	4.7	2.191.5	3	-	⑯	D-C	C	a	191.7-2.1	直	63 異なる立派が付記。	
156	6.2	1.192.2	2	⑰	△	C	a	a+b	191.7	直	63 異なる立派が付記。	
157	4.3	1.191.4	2	⑱	△	*	a+b	b	191.7	直	63	
158	4.6	2.1	1	-	△	=	a+b	a	191.8	直	63	
159	4.6	2.191.6	2	-	△	=	a+b	a	192.1	直	63	
160	4.7	1.4	1	-	△	=	a+b	a	191.9	直	63 異なる立派。	
161	5.0	1.191.8	2	-	△	=	b	a	191.8	直	63	
162	4.7	2.191.2	2	-	△	=	b	a	191.8	直	63	
163	5.5	1.191.0	2	-	△	=	a+c	a	191.8	直	63 異なる立派があり、まっすぐで直角が付記している。	
164	4.6	2.4	1	-	△	=	b	b	191.4	直	63 異なる立派が付記。	
165	4.6	4.5	1.191.1	1	-	△	b	c	191.7	直	63 異なる立派が付記。	
166	4.5	2.6	1	⑲	△	=	a	a	192.0	直	63	
167	5.3	3.6	1	⑳	△	=	a+b	a	192.0	直	63	
168	4.7	1.191.7	1	-	△	=	a	a	191.7	直	63	

第29表 白玉属性表(8)

(6)宮城県内の石製模造品出土遺構とその性格

1. はじめに

1950年代、伊東信雄は東北地方における石製模造品の分布状態を明らかにし、その意味するところを考えようとした(伊東：1953)。1960年代には、福島県西白河郡表郷村の建鉢山遺跡の研究を踏まえ、石製模造品を中心に汎日本的な祭祀遺跡の変遷のあり方を考察した亀井正道による論考が出された(亀井：1966)。1970年代には、資料の増加を踏まえて、伊東による新たな整理が行われた(伊東：1972)。この論文で、伊東は遺構と石製模造品について検討し、石製模造品が住居跡内から発見される例は増えてきているものの、住居内から発見される石製模造品の数は少なく、また、子持勾玉・鏡・斧などの石製模造品を出した確実な例がないとして、「祭祀遺跡と呼ばれているところの多くは家々の祭場ではなくて、部落もしくは集団の祭りの場であったろう。」と推論した(前掲)。1980年代には、寺沢知子が祭祀の変化を検討するなかで、古墳・祭祀遺跡・集落跡の三者から出土する石製模造品を通して祭祀の変化をまとめている(寺沢：1986)。遺跡の発掘が頻繁に行われる今日、宮城県内でも石製模造品を出土する遺跡は数を増したが、出土状況が明確に捉えられ、その性格が検討された報告は少ない。

ここでは、宮城県内の石製模造品を出土する遺構について検討し、その特徴と性格について、現段階での可能性を検討していきたい。そのために、遺構に確実に伴い、時期が明確に捉えられるもののみ取り上げて見ていくこととする(注)。

2. 県内の石製模造品出土遺跡について

発掘調査によって、遺構に石製模造品を伴うことが明らかになった遺跡は、確認できたもので12遺跡ある。そのうち住居跡は6遺跡であり、すべてが南小泉式期のもので、出土した石製模造品の点数はいずれも少ない。住居跡の出土状況は、蔵王町宮城館跡では唯一検出された住居跡の床面から有孔円板3点(狩野：1981)、大河原町台ノ山遺跡では第5号住居跡の床面から剣形石製模造品(以下「剣」と呼ぶ)1点・有孔円板1点(阿部・千葉：1980)、亘理町宮前遺跡では第25号住居跡の床面から白玉7点(丹羽：1983)、仙台市南小泉遺跡では貯藏穴と思われる住居内土壙の堆積土から剣1点・白玉2点(佐藤：1987)、多賀城市山王遺跡では2号住居跡の床面から有孔円板3点・白玉1点・未製品2点(高倉他：1981)、古川市名生館遺跡ではS I 312の床直面上の堆積土から斧形石製模造品が1点出土している(白鳥・後藤：1985)。

住居跡以外では、土壙3遺跡・周溝基1遺跡・窓跡1遺跡・古墳1遺跡・土器集積遺構2遺跡・河川跡1遺跡がある。宮城館跡では土壙出土の壺の中から有孔円板3点・剣片数点が発見され、土壙の形態から土壙墓と考えられている(狩野：1981)。山王遺跡では14基の土壙状の遺

構から土器と石製模造品が見つかっているが、中には未製品や原石、琥珀玉やガラス小玉を出土するものがあり、報告者はこれらを土壤墓と考えている(高倉他:1981)。これらの遺構のうち、第3号遺構からは土器とともに有孔円板2点・白玉7点が出土した。今回見つかった村田町新峯崎遺跡は、平面形L字状を呈する土壙から多数の土器とともにその内外から勾玉3点・劍26点・有孔円板75点・白玉568点・破片29点・黒曜石石核1点が出土した。仙台市岩切鴻ノ巣遺跡では、周溝墓の墓壙と思われる土壙底面から、鉄製刀子とともに勾玉形石製模造品1点が出土している(白鳥・加藤:1974)。

仙台市宮沢窯跡では、焚口部・前庭部の二次床面に相当する層から有孔円板4点(うち1点は破損品)・破片2点が出土しており、燃焼部付近では二次床面の僅かに上から窯のほぼ中心線に並べて置かれたような状態で土師器が一括出土している(渡辺他:1974)。これらの土器は窯跡床面上に場所を逸れて石製模造品と発見されており、共通の目的で故意に置かれたもののかどうかは断定できないが、窯跡で焼成されたものとは考えられないことから、石製模造品とともに置かれた可能性が高い。

古墳から発見された例としては、現在のところ、白石市鷹ノ巣古墳群第18号墳の1例のみである。石製模造品は箱式石棺外の北西側に散乱した状態で見つかっており、勾玉形石製模造品1点・有孔円板4点・白玉多数が出土している。石製模造品のほかに、鐵鏃4点が石棺外の中央北側から出土している(志間:1972)。

土器集積遺構としたものは、狭い範囲から多数の土器と石製模造品とが出土するもので、丸森町矢ノ目遺跡では6×4mの狭い範囲から41個体以上の土器とともにその内外から出土しており(志間:1964)、仙台市遠見塚古墳では第12トレンチの半径約1mの浅い凹地状のところから、32個体程の土器とともにその内外から勾玉形石製模造品2点・劍4点・有孔円板62点・白玉50点・破片23点が出土している(結城・工藤:1979)。現在、発掘例で土器集積遺構として捉えられるのはこの2遺跡だけである。

河川跡から出土した例には、南小泉遺跡第15次調査の河川跡SR-1があり、第1・2層および第3層から多数の土器とともに勾玉形石製模造品2点・劍5点・有孔円板2点・單孔円板2点が出土している(渡部・宮崎:1989)。ただし、これらの共伴関係は不明であり、流れ込んできたものか、故意におかれたものかは明らかでない。

3. 遺構と石製模造品に見られる特徴

遺構と出土した石製模造品について特徴をまとめてみると、住居跡から出土した石製模造品には勾玉形のものは認められず、組合せは劍・有孔円板・劍・白玉・有孔円板・白玉・有孔円板のみ、白玉のみ、斧形石製模造品のみの6つである。点数も概して少なく、多くて数点であ

る。また、住居跡では、石製模造品に明らかに土器が伴っている例や石製模造品が土器の中から見つかった例は現時点ではない。山王遺跡の土壙群のあり方は、器種の組合せや点数において住居跡の石製模造品のあり方と似ているが、土器を伴っていること未製品や琥珀玉などが出土していることの二点において、住居跡と異なった特徴を有する。また、富沢窯跡は窯跡の床面上出土という他には見られない特殊な例であるが、石製模造品のみを見た場合、住居跡のあり方と似た状況を示している。土壙墓と周溝墓の墓壙と考えられる他の2例を見てみると、前者は壇の中から出土し、後者では鉄製刀子とともに勾玉形の石製模造品が出土しているなど、住居跡などとは異なったあり方を示している。鷹ノ巣古墳群第18号墳のあり方は、鉄鏃が近くから出土している点では周溝墓の墓壙と考えられる岩切鴻ノ巣遺跡の例と似ているが、勾玉形石製模造品・有孔円板・多量の白玉が出土している点と、その出土状況が棺外に散乱して発見されている点で大きく異なる。

土器集積遺構の状況は、住居跡や墓に関係すると思われる土壙や古墳の状況とは大きな違いが見られる。すなわち、土器集積遺構では勾玉形のもの・劍・有孔円板・白玉がセットとして存在し、多数の土器とともにその内外から石製模造品が多量に出土するという特徴が認められる。石製模造品の器種毎の特徴としては、勾玉形石製模造品が他の器種に比べて少ないことが上げられ、矢ノ目遺跡では3点、遠見塚古墳第12トレンチ第3土器群では2点出土している。白玉は矢ノ目遺跡では1点しか見つかっていないが、小さいために見逃していた可能性があり、本来は多数存在していた可能性がある。新峯崎遺跡は、土壙から出土しているという点で土器集積遺構と異なるものの、他の特徴は土器集積遺構の状況と一致している。南小泉遺跡の河川跡SR-1については問題点が残るが、出土している遺物を見ると、勾玉形のものが2点出土しており、白玉を除いた器種が揃っている点や多数の土器が出土している状況などに土器集積遺構との類似点が認められるだろう。

4. 遺構と石製模造品の性格

以上のことから、現段階での宮城県内の石製模造品出土遺構は、①石製模造品の器種およびその組合せ・②点数・③出土状況により、大きく4つに分けることができるだろう。すなわち、A：住居跡に見られるあり方、B：土壙墓や古墳・周溝墓の墓壙および古墳に見られるあり方、C：土器集積遺構や新峯崎遺跡に見られるあり方、D：特殊なあり方を示すもの（山王遺跡の土壙状遺構に見られるあり方、富沢窯跡に見られるあり方）の4つである。

Aの場合、出土状況において故意に遺棄したと思われる特別な状況は、現在のところ認められていない。石製模造品はすべての住居跡から発見されてはいないことから、特別な理由・原因が想定される。伊東信雄は、石製模造品を数点出土する遺跡について「家々の、あるいは個

人的な祭りの場」であったのではないかと推論している（伊東：1972）。住居跡内から発見される石製模造品がすべて祭祀に伴うものと断定することはできないが、石製模造品の持つ特殊性を考えれば、住居単位に祭祀が行われ、石製模造品が使われた可能性があろう。また、石製模造品の点数の違いを量的な差として捉えることができ、石製模造品の器種の組合せの違いを質的な差として捉えることができるとき、個々の祭祀の違い、あるいは集落内の家々の差を反映している可能性があるだろう。

Bの場合はその性格は明らかであり、石製模造品の持つ性格は被葬者への副葬品か、あるいは被葬者に対する何らかの祭祀に使われたものと思われる。土壙墓と周溝墓では出土状況に違いが認められ、前者の場合、土壙の堆積土上部で出土した土器の中から石製模造品が発見されたのに対し、後者の場合は、石室や墓壙の底面から他の副葬品とともに出土している。こうした出土状況の違いは石製模造品が使われた際の性格の違いを反映しているものと考えることもできるかもしれない。すなわち、周溝墓の例は被葬者への副葬品として使われ、土壙墓の例は被葬者に対する何らかの祭祀に使われた可能性が考えられる。また、鷹ノ巣古墳群第18号墳の例は、棺外から出土した鉄鏃を副葬品と考えた場合、石製模造品も副葬品である可能性が指摘できるが、出土状況から埋葬の際に用いられたであろう祭祀に使われた可能性が高い。以上のことをまとめると、土壙墓・周溝墓・古墳各1例のみと資料が少なく推測の域をでないが、憶測が許されるとするならば、鷹ノ巣古墳群第18号墳と岩切鴻ノ巣遺跡で発見された周溝墓とに見られた石製模造品の量的・質的な差は、円墳と周溝墓という、前方後円墳などに象徴される階層差を反映しているとも考えられ、祭祀のあり方も違っていたことが推測できるであろう。

Cは矢ノ目遺跡に代表されるように沖積地に見られ、矢ノ目遺跡では周囲に14件の竪穴住居跡が確認されており、遠見塚古墳も古墳時代の大集落である南小泉遺跡の中に存在することから、集落の一部に位置していたものと考えられる。新峯崎遺跡では周囲から竪穴住居跡は発見されていないが、他の遺構に見られるようなあり方とは異なり、多量の土器と石製模造品と一緒に遺棄されたような状況で出土していることから、伊東が述べているように、「部落もしくは集団の祭りの場」（前掲）、あるいは集落・集団を単位とした祭祀に関係する遺構である可能性が高いと思われる。

Dの例としては、現在のところ、山王遺跡の土壙状遺構に見られるあり方と富沢窓跡に見られるあり方の2つをあげることができるだろう。前者には琥珀玉やガラス小玉を出土する遺構があるほか、堆積土に木炭層が認められ、そこから石製模造品が出土している遺構もある。また、遺物には完成品以外に未製品や剝片、原石を出土している遺構もあり、石製模造品の製作に関係する集団が残した遺構である可能性が指摘できよう。後者が有する性格は、工人集団による「窓跡に対する祭祀的な意味をもつもの」（渡辺他：1974）と考えられる。

以上のように、石製模造品は遺構・器種の組合せ・量（点数）・出土状況において多様な様相を呈している。これは石製模造品がそれぞれの遺跡・遺構で用い方が異なっていたことを示すものであり、祭祀の性格の違いを反映するものと考える。また、石製模造品に見られる量的・質的な差は祭祀の性格の違いを示すとともに、祭祀を行う主体を反映していると推論することができるだろう。今回取り上げたのは宮城県内で出土状況が良好と考えられる資料のみであり、他県との比較・検討が必要となるとともに、古墳時代の祭祀という大きな枠組みの中での位置付けがなされる必要があろう。この拙論が、より良好な資料の蓄積と今後の研究によって、当時の生活や社会に根ざした祭祀のあり方が明らかにされていく一助となれば幸いである。

(注)住居が発見された後に、石製模造品を故意に遺棄したような例もあったものと思われるが、今回は遺構の堆積土から出土した石製模造品については検討を加えていない。遺構の堆積土から出土した石製模造品を故意に遺棄されたものと認定することは、発掘調査における割合があり、極めて困難な作業となる。今後の課題と言えよう。

市町村名	遺跡名	遺構名	時期	器種	石材	点数	出土状況・出土層位
白石市	廣ノ原古墳群	第8号墳	?	勾玉 有孔板		1点 4点 多数	縦式石室から出土した。他の遺物として1件は4点ある。
仙台市	今泉塙跡(658年)	8号墳	不明	有孔板	緑微石	1点	丸丘底層の茶褐色土。
	日向塙跡	11号墳	不明	有孔板	スレート	1点	2・3層。
栗原市	第5号古墳跡	銅鏡	不明	不明	泥岩	1点	埋土。
達生村	○	SK-6土壇	南小字式?	勾玉		1点	土塊底面。SD-E調査にて設置部と見られる。土塊底面からは北に万円1点出土している。
達生村	●	土崎御料地點 第12トレンチ 第III土塁跡	南小字式	勾玉 劍 有孔板		2点	半径約1m、深さ10cmの窪部。包みこむ形で、厚さ約5cm、高さ約5cm、片側約4cm、重さ約6kg。壁面材を仕上げている。
吉田町	△	埴輪跡	南小字式	有孔板 鉄片	石片	4点 2点	二次防護の外側側面近くから出土した十数個の近くから見つかった。埴輪は全部が褐色の土色から出土したもの。土塊に埋められたものがある。詳細不明である。
南小字跡跡	住跡跡?	南小字式	瓦片、劍 有孔板		石岩	1点	住跡跡?の附近から出土した。
(第5集)	○	第1号古墳跡	南小字式	小玉	など	1点	周囲に埋土。
(第6集)	○	第2号古墳跡 第4号土塁 第8号土塁	劍 劍形?	滑石		1点	
	1号塙	劍形?				1点	
	4号塙	劍形?				1点	
(第8集)	○	第5号古墳跡	SC途中-70切削 第5号土塙	劍形	滑石	1点	周囲に埋土。
(第9集)	○	住跡跡?	60中塙-2段半	有孔板		1点	
(第10集)	○	住跡跡?	南小字式	劍形		1点	
(第11集)	○	第1号古墳跡	南小字式	勾玉	精錐片岩	1点	住跡跡?のP5埋土。
(第12集)	○	河内跡SR-1	南小字式	劍形 有孔板		1点	1・2層から勾玉・劍、有孔板の出土しているが、3層からは有孔板のみ出土している。多數の土器の縫合部が出土している。

第30表 宮城県内の石製模造品出土遺跡一覧表（1）

市町村名	遺跡名	遺構名	時期	器種	石材	点数	出土状況・出土層位
仙台市	南小泉遺跡	○ 第5号住居跡 (第09号) (第31号)	南小泉式	刺 形 臼 玉 有孔板 有孔板 有孔板	粘土岩 砂質岩 砂質岩 砂質岩 砂質岩	1点 2点 2点 3点 1点 2点	柱内3号土塊1個。 南側斜面直上。 ピット4住居・堆積土出土。 いわじら遺跡出土である。第3号 住居跡からは青石の瓦と原石が本 山と鶴ヶ城から出土している。
多賀城市	山王遺跡	○ 2号住居跡	南小泉式	臼 玉 有孔板 有孔板	砂質岩 砂質岩	1点 2点	柱内3号土塊1個。 第1層出土。
		1号墓溝	南小泉式	臼 玉 有孔板	砂質岩	1点	第2層出土。
		2号墓溝	南小泉式	刺 形 有孔板	砂質岩	2点	第2層、第2才扶壁出土。
		○ 3号墓溝	南小泉式	臼 玉 有孔板	砂質岩	7点	第4層出土。
		4号墓溝	南小泉式	臼 玉 有孔板	砂質岩	1点	第1層出土。
		5号墓溝	南小泉式	刺 形 有孔板	砂質岩	1点	第1層出土。
		6号墓溝	南小泉式	刺 形 有孔板	砂質岩	1点	第1層出土。
		8号墓溝	南小泉式	臼 玉 有孔板	砂質岩	7点	第1層、灰褐色土。第2木扶壁出土。
		9号墓溝	南小泉式	臼 玉 有孔板	砂質岩	2点	第1層、第1木扶壁出土。
		10号墓溝	南小泉式	刺 形 有孔板	砂質岩	1点	“
		11号墓溝	南小泉式	臼 玉 有孔板	砂質岩	2点	第1層出土。
		14号墓溝	南小泉式	刺 形 臼 玉 刷毛・刺片 磨研石片	砂質岩	1点	第2木扶壁出土。
				有孔板	砂質岩	1点	第1および2木扶壁、灰褐色土。
古川市	御在郷跡 名生郷跡	○ 不明	南小泉式	刺 形 有孔板	砂質岩	5点以上	臺の中央に見つかっている。
		S 132号住居跡	引込式?	刺 形 有孔板	砂質岩	1点	床面直上の堆積土。
		S 136号住居跡	南小泉式	刺 形 有孔板	砂質岩	1点	“
高瀬町	東田郷跡	方井戸跡	南小泉式後	刺 形 有孔板	砂質岩	1点	開発断面上に置けた。いずれも欠 損品である。

市町村名	遺跡名	遺構名	時期	器種	石材	点数	出土状況・出土層位
朴拉町	鍋塚遺跡	○ 手縫	南小泉式	勾 玉 刺 形 有孔板	粘土岩 砂質岩 砂質岩 漂石	3点 26点 25点 568点 291点	半山腰付近、手縫を呈する土塊から 2つの特徴的形が割れて出土して いる。多孔板は岩名石、土塊の中 からまとめて出土したものも見ら れた。
角田市	日吉原遺跡	土器埋付地點?	南小泉式	刺 形 有孔板	砂質岩	1点	甌・環・高足・小平手・土器など が一か所のまとまって出土し、甌 ・环・甌・高足の外に山土した。
丸森町	久喜田遺跡	● 土器埋付地點	南小泉式	勾 玉 刺 形 有孔板	砂質岩	多数 3点 50点 52点	甌・环・甌・高足の外に山土した。 6×4の範囲で範囲から山土が 上の土塊とともに出土した。土塊の 内外から出土している。
蕨町	前松跡	住居跡ほか	不明	刺 形 有孔板	砂質岩	1点 數点	住居跡の中・外、特に住居跡から 多く出土している。多孔板も多い 堆積出土。
蕨町	宮崎跡	○ 住居跡 ○ 十跡1	南小泉式 南小泉式	有孔板 有孔板 刺 片	砂質片岩 砂質片岩 砂質片岩 漂石	約100点 3点 3点 數点	住居跡土出土の底から山土上 した(土塊か?)。
大利利町	坂尻山遺跡 台山遺跡	第2号住居跡 第1号住居跡	渠形式 表形ノ人式	刺 形 刺 形 有孔板	砂質岩	2点 2点	堆積土出土。
名取市	清水遺跡	○ 第5号住居跡	南小泉式	刺 形 有孔板	砂質岩	1点 1点	堆積土出土。
		第1号住居跡 第6号住居跡 第8号住居跡	渠形ノ人式 渠形ノ人式 渠形ノ人式	有孔板 有孔板 有孔板	砂質岩 砂質岩 砂質岩	1点 2点 1点	埋土2層山土。 埋土1層みどり3層山土。
		第6号住居跡 第7号住居跡 第2号住居跡 第2号住居跡 第4号住居跡	渠形ノ人式 渠形ノ人式 渠形ノ人式 渠形ノ人式 渠形ノ人式	刺 形 刺 形 有孔板 有孔板 有孔板	砂質岩 砂質岩 漂石 漂石 砂質岩	1点 1点 7点 2点 1点	埋土3層山土。 埋土2層山土。 埋土1層山土。 埋土2層山土。 埋土1層山土。
亘理町	宮前遺跡	○ 第6号住居跡 第7号住居跡 第2号住居跡	南小泉式	臼 玉 刺 形 有孔板	砂質岩	1点 1点 1点	砂質岩第4層。 砂質岩山土。
		第2号住居跡 第2号住居跡 第4号住居跡	渠形ノ人式 渠形ノ人式 渠形ノ人式	有孔板 有孔板 有孔板	砂質岩 砂質岩 砂質岩	7点 2点 1点	砂質岩第2層。 堆積土1層山土。

第31表 宮城県内の石製模造品出土遺跡一覧表 (2)

3. 土壙の年代と性格

今回の調査によって新峯崎遺跡から土壙1基、溝跡3条が検出された。土壙からは多くの土師器・石製模造品と少量の黒曜石製石核・須恵器などが出土し、土師器は検討の結果、古墳時代中期の南小泉式に位置付けられ、5世紀中葉頃の年代が与えられた。したがって土壙の構築年代も同様と考えられる。また、精査した溝跡はいずれも土壙より新しいものであるが、その所属時期は不明である。

土壙の性格を示すものとしては、土壙から出土した土師器と石製模造品がある。土師器には壺・高壺・壺・甕・ミニチュア土器の器種があり、その数量は壺69点、高壺9点、甕17点、甕13点、ミニチュア土器3点の合計111点である。石製模造品の内訳と数は勾玉3点、剣26点、有孔円板75点、白玉568点、器種不明の破片29点の合計701点である。ミニチュア土器や石製模造品は一般的に祭祀遺物と言われており、それが土師器の組成の中に認められることや石製模造品の数の多さは土壙内の遺物が祭祀に関連しているものであることを示している。また、111点を数える土師器の中に90点もの赤彩された土師器がある。土器の赤彩も一般的に祭祀に関係すると言われ、本遺跡の場合その比率が出土土師器の81.1%に及んでいることはそれを裏付ける形となっている。このように祭祀遺物や祭祀に関連する遺物が土壙内から出土した遺物の大部分を占めるということは、この土壙の性格が祭祀に関連するものである可能性が高いことを物語っている。

一方、土壙の堆積状態から、これらの遺物は埋納されたものでないことは明らかであり、各遺物の多さから、これらは一括して遺棄された遺物と考えられる。このことは祭祀に伴うと考えられる遺構が土壙周辺からは検出されなかったものの、祭祀の場がこの土壙周辺にあり、祭祀の終了と共にこの土壙に一括遺棄が行われた可能性が高いことを示している。土壙自体が祭祀に伴って掘られたものか、たまたま祭祀の場の近くにあった土壙に一括遺棄が行われたかは、判断する材料がないため不明である。さらに、このような祭祀の場が、単独であったのか複数あったのかも発掘面積が小さいため、明らかにすることはできなかった。

また、本遺跡の場合、どのような内容の祭祀が行われたのかも明らかではないが、この新峯崎遺跡が、峯崎遺跡の立地する丘陵から東に約90m離れた閑場川もしくは荒川の自然堤防上に立地して、閑場川に臨んでおりことから、水に関係する祭祀もしくは農業に関係する祭祀などが考えられる。そして、峯崎遺跡は現段階では調査されたことがなく、遺跡の性格や年代などは十分明らかとは言えないが、古式土師器などを出土しており古墳時代の集落跡の可能性の高い遺跡であることから、この祭祀を担った集団が峯崎遺跡を残した集団の可能性が強い。そして祭祀のために今回調査した新峯崎遺跡の地点まで出掛けてきて、祭祀を執り行ったとも考えられる。

さらに、峯崎遺跡は閑場地区の最高所に所在し、主軸長が約90mある大型の前方後円墳である県史跡愛宕山古墳の築造の背景となった集落跡の一つである可能性の高い遺跡でもある。愛宕山古墳は円筒埴輪を出土しており、その築造年代は5世紀後半と考えられている（氏家：1985）。すなわち、本遺跡出土土器群と年代的には近似もしくは一致する時期に築造された古墳と言える。このことから想像をたくましくすれば、峯崎遺跡に居住した集団が首長墓として、県南地方最大の前方後円墳を築造する一方で、集落前面の川に臨む自然堤防上で祭祀を実施している光景を思い浮かべることもできよう。

VI. まとめ

1. 新峯崎遺跡は高館丘陵の末端から約90m東に離れた水田中にあり、閑場川もしくは荒川の自然堤防上に立地しており、閑場川に臨んでいる。
2. 今回の調査では土壙1基、溝跡3条の遺構と、主として土壙から出土した土師器・須恵器・石製模造品・黒曜石製石核などの遺物が発見された。
3. 土壙から出土した土師器は壺69点、高壺9点、壺17点、甕13点、ミニチュア土器3点で、合計111点ある。石製模造品は勾玉3点、劍26点、有孔円板75点、臼玉568点、器種不明の破片29点701点で、黒曜石製石核1点を含め石製模造品・石器は合計702点ある。土師器は111点の内90点も赤彩されたものがあり、これらの土師器・石製模造品は祭祀遺物と考えられ、祭祀の終了と共に土壙に一括して遺棄されたものと考える。
4. 土師器の検討から本遺跡出土土器群は、古墳時代中期の南小泉式に位置付けられ、その年代は5世紀の中葉頃と考えられた。
5. 新峯崎遺跡は古墳時代の祭祀遺跡を考える上で重要な資料となろう。

<引用・参考文献>

- 青沼一民・長島栄一 (1982) : 「鴻ノ巣遺跡」『仙台市文化財調査報告書』第44集 仙台市教育委員会
- 阿部博志・千葉宗久 (1980) : 「台ノ山遺跡－東北新幹線関係遺跡調査報告書II」『宮城県文化財調査報告書』第62集 宮城県教育委員会
- 阿部 恵 (1982) : 「亘理町跡」「亘理町文化財調査報告書」第3集 亘理町教育委員会
- 伊東信雄 (1950) : 「仙台市内の古代遺跡」『仙台市史』3・別編1
- (1953) : 「東北地方に残る石製模造品の分布とその意義」『歴史』第6集 東北史学会
- (1972) : 「石製模造品出土の遺跡」『神道考古学講座』第2巻 雄山閣出版
- 氏家和典・大場恒一 (1954) : 「宮城県高倉村引田出土の土器」『歴史』第8集 東北史学会
- 氏家和典 (1959) : 「東北土器の型式分類とその年層」『歴史』第14集 東北史学会
- (1985) : 「地域における縄年-前縄」『季刊考古学』第10号 雄山閣出版
- 小川淳一 (1980) : 「塩沢北遺跡－東北自動車道遺跡調査報告書」『宮城県文化財調査報告書』第69集 宮城県教育委員会
- 小野真一 (1982) : 「祭祀遺跡」「考古学ライブラリー」10 ニューサイエンス社
- 狩野正昭 (1981) : 「宮城船跡」「宮城県文化財調査報告書」第79集 宮城県教育委員会
- 加藤正範・結城慎一 (1983) : 「南小泉遺跡－倉庫建設に伴う緊急発掘調査報告書」『仙台市文化財調査報告書』第60集 仙台市教育委員会
- 加藤道男 (1980) : 「東館遺跡－東北新幹線関係遺跡調査報告書III」『宮城県文化財調査報告書』第65集 宮城県教育委員会
- 亀井正道 (1966) : 「建鉢山－福島県表郷村古代祭祀遺跡の研究」 古川弘文社
- 木村浩二他 (1983) : 「郡山遺跡」『仙台市文化財調査報告書』第46集 仙台市教育委員会
- 小井川和夫・手塚均 (1978) : 「鞍塚遺跡」『宮城県文化財調査報告書』第53集 宮城県教育委員会
- 小井川和夫・森貢喜 (1980) : 「八幡崎B遺跡－東北新幹線関係遺跡調査報告書II」『宮城県文化財調査報告書』第62集 宮城県教育委員会
- 佐々木安彦 (1982) : 「坂下古墳調査報告書」「村田町文化財調査報告書」第3集 村田町教育委員会
- 佐藤甲二他 (1985) : 「雨小泉遺跡第12次発掘調査報告書」「仙台市文化財調査報告書」第80集 仙台市教育委員会
- 佐藤洋・山田しょう (1983) : 「今泉城跡遺跡」『仙台市文化財調査報告書』第58集 仙台市教育委員会
- 佐藤 洋 (1987) : 「南小泉遺跡第14次発掘調査報告書」「仙台市文化財調査報告書」第109集 仙台市教育委員会
- 佐藤博重他 (1980) : 「下ノ内遺跡－伊達西部地区遺跡発掘調査報告」「福島県文化財調査報告書」第82集
- 志間泰治 (1964) : 「宮城県伊具矢ノ日遺跡」「考古学年報」12 日本考古学会
- (1972) : 「鹿島古墳群発掘調査報告」「白石市文化財報告書」第12号 白石市教育委員会
- 白鳥良一・加藤道男 (1974) : 「岩切鴻ノ巣遺跡－東北新幹線関係遺跡調査報告書I」『宮城県文化財調査報告書』第35集 宮城県教育委員会
- 白鳥良一・後藤秀一 (1982) : 「名生館遺跡II」「多賀城関連遺跡発掘調査報告書」第7冊 宮城県多賀城跡研究所
- (1985) : 「名生館遺跡V」「多賀城関連遺跡発掘調査報告書」第10冊 宮城県多賀城跡研究所

- (1986)：「名生館遺跡VI」「多賀城関連遺跡発掘調査報告書」第11冊 宮城県多賀城跡研究所
- 鈴木勝彦・高橋誠明 (1990)：「名生館宮跡X」「古川市文化財調査報告書」第9集 古川市教育委員会
- 高倉敏明他 (1981)：「山王・高崎遺跡発掘調査概報」「多賀城市文化財調査報告書」第2集 多賀城市教育委員会
- 田辺昭三 (1981)：『須恵器大成』 岩波書店
- 辻 秀人 (1989)：「東北古墳時代の両期について（その1）」「福島県立博物館紀要」第3号
- 寺沢知子 (1986)：「祭祀の変化と民衆」「季刊考古学」第16号 雄山閣出版
- 東北学院大学考古学研究部 (1979)：「柴遺跡」「仙台市文化財調査報告書」第14集 仙台市教育委員会
- 土岐山武 (1981)：「留沼遺跡－東北新幹線関係遺跡調査報告書V」「宮城県文化財調査報告書」第27集 宮城県教育委員会
- 名取市教育委員会 (1979)：「十三塚遺跡－昭和53年度遺構確認調査報告」「名取市文化財調査報告書」第6集 丹羽茂・小野寺祥一郎・阿部博志 (1981)「清水遺跡－東北新幹線関係遺跡調査報告書V」「宮城県文化財調査報告書」第27集 宮城県教育委員会
- 丹羽 茂 (1983)「宮前遺跡」「宮城県文化財調査報告書」第36集 宮城県教育委員会
- 宮城県教育委員会 (1988)：「宮城県遺跡地図」「宮城県文化財調査報告書」第125集 宮城県教育委員会
- 結城慎一・工藤哲司 (1978)：「南小泉遺跡－範囲確認調査報告書」「仙台市文化財調査報告書」第13集 仙台市教育委員会
- 結城慎一・工藤哲司 (1979)：「史跡遠見塚古墳－昭和53年度環境整備予備調査概報」「仙台市文化財調査報告書」第15集 仙台市教育委員会
- 結城慎一 (1982)：「南小泉遺跡－都市計画街路建設工事関係第1次調査報告」「仙台市文化財調査報告書」第35集 仙台市教育委員会
- 結城慎一・佐藤洋 (1984)：「南小泉遺跡－都市計画街路建設工事関係第3次調査報告」「仙台市文化財調査報告書」第68集 仙台市教育委員会
- 結城慎一・藤沢敦 (1987)：「大野田古墳群・春日社古墳・鳥居塚古墳」「仙台市文化財調査報告書」第68集 仙台市教育委員会
- 渡部弘美・宮崎明 (1989)：「南小泉遺跡 第15次発掘調査報告書」「仙台市文化財調査報告書」第131集 仙台市教育委員会
- 渡辺 誠 (1985)：「南小泉遺跡 第13次発掘調査報告書」「仙台市文化財調査報告書」第81集 仙台市教育委員会
- 渡辺泰伸他 (1974)：「當沢窯跡」「古窯跡研究会研究報告」第3冊 古窯跡研究会

写 真 図 版

遺跡遠景
(西・峯崎遺跡より)



遺跡全景



遺物検出状況
(土壤北側東より)



図版 1

拡張前の調査区
南壁の遺物の状況



土壤北側遺物検出状況
(東より)



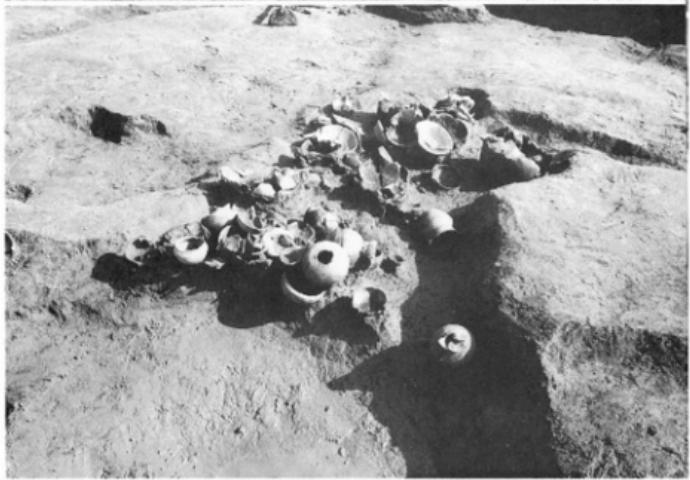
土壤北側遺物出土状況
(同上)



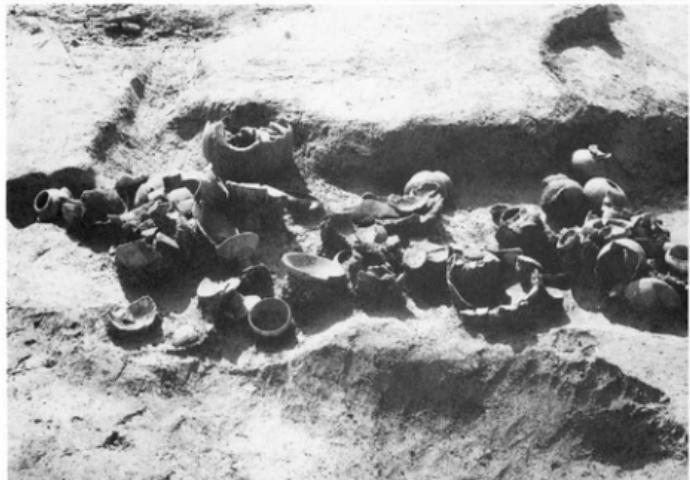
土壤全景(西より)



土壤南側遺物検出状況
(北西より)



同上(東より)



遺物出土状況細部
(西より)



同上
(東より)



同上
(中央東より)



遺物出土状況細部
(西より)



石製模造品出土状況
(No. 5)



土壤完掘状態
(北西より)





1. 第6図1



8. 第6図8



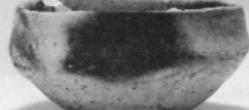
2. 第6図2



9. 第6図9



3. 第6図3



10. 第6図10



4. 第6図4



11. 第6図11



5. 第6図5



12. 第6図12



6. 第6図6



13. 第6図13

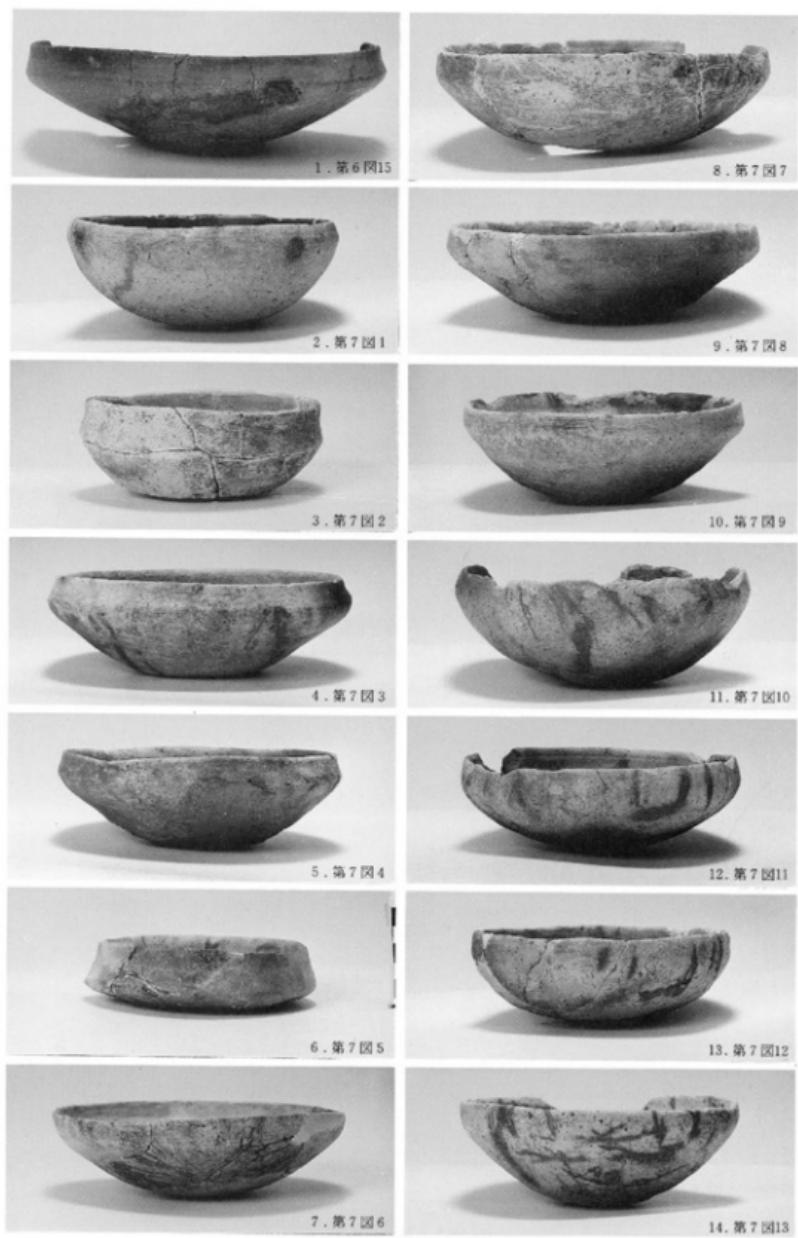


7. 第6図7



14. 第6図14

図版6 出土土器(1)



図版7 出土土器 (2)



1. 第8図14



8. 第8図9



2. 第8図2



9. 第8図10



3. 第8図3



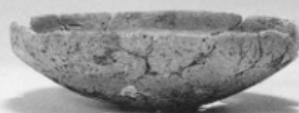
10. 第8図11



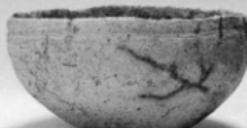
4. 第8図4



11. 第8図12



5. 第8図5



12. 第8図13



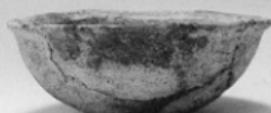
6. 第8図6



13. 第8図14



7. 第8図7

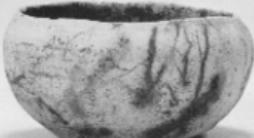


14. 第8図15

図版8 出土土器(3)



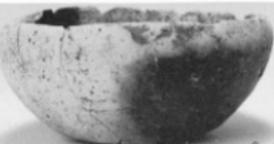
1. 第9図1



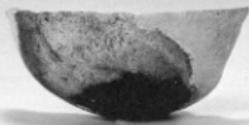
8. 第9図12



2. 第9図2



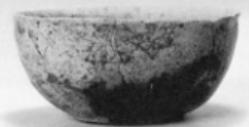
9. 第9図13



3. 第9図3



10. 第9図14



4. 第9図4



11. 第9図15



5. 第9図5



12. 第10図1



6. 第9図6



13. 第10図2



7. 第9図11



14. 第10図3

図版9 出土土器 (4)



图版10 出土土器 (5)



圖版11 出土土器 (6)



1. 第13圖4



5. 第14圖1



2. 第13圖5



6. 第14圖2



3. 第13圖6



7. 第14圖3



4. 第13圖8



8. 第14圖4

圖版12 出土土器 (7)



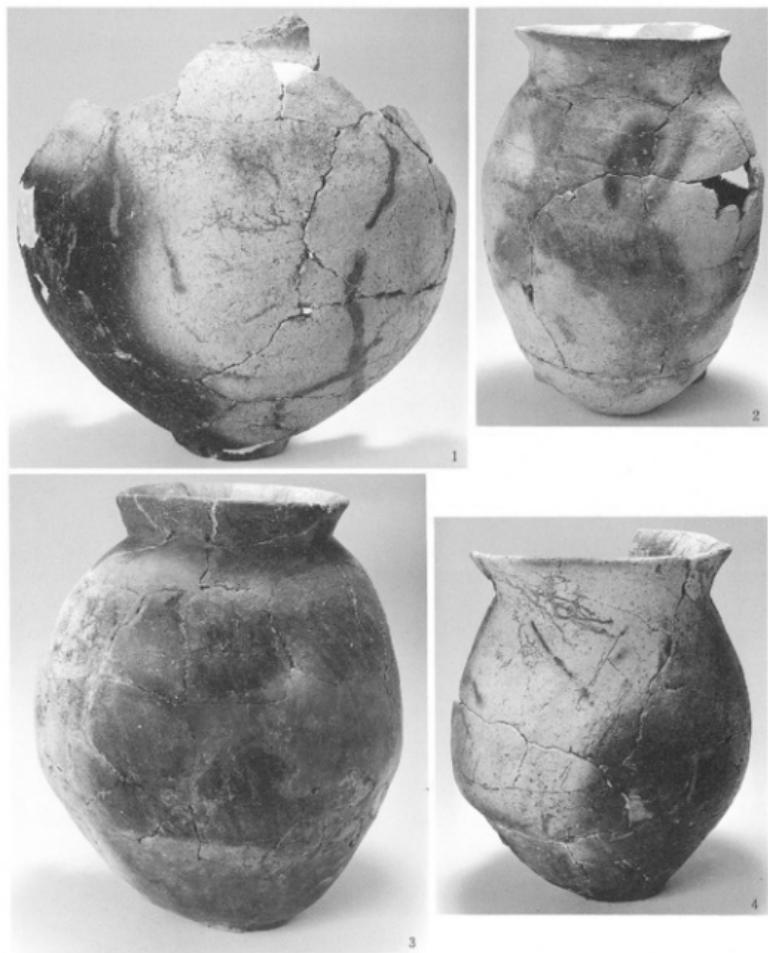
1. 第14図5 2. 第14図6 3. 第14図7

4. 第14図8

5. 第15図1 6. 第15図2

縮尺：図版6～図版13-4 約2倍， 図版13-5・6 約3倍

図版13 出土土器 (8)



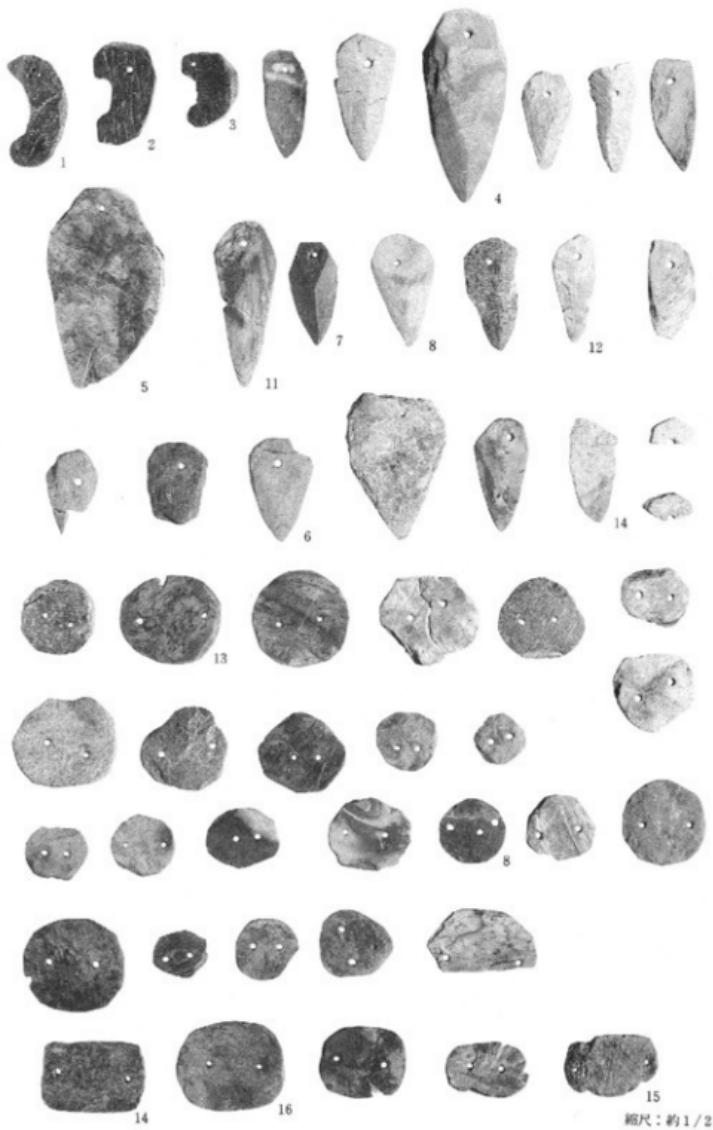
1. 第16図-1 2. 第16図-2 3. 第17図-1 4. 第17図-3
縮尺：図版14-1～4 約3%， 図版15-1～5 約5%， 図版15-6～8 約5%

図版14 出土土器 (9)



1. 第18圖2 2. 第18圖3 3. 第18圖4 4. 第18圖5
5. 第18圖6 6. 第19圖1 7. 第19圖2 8. 第19圖3

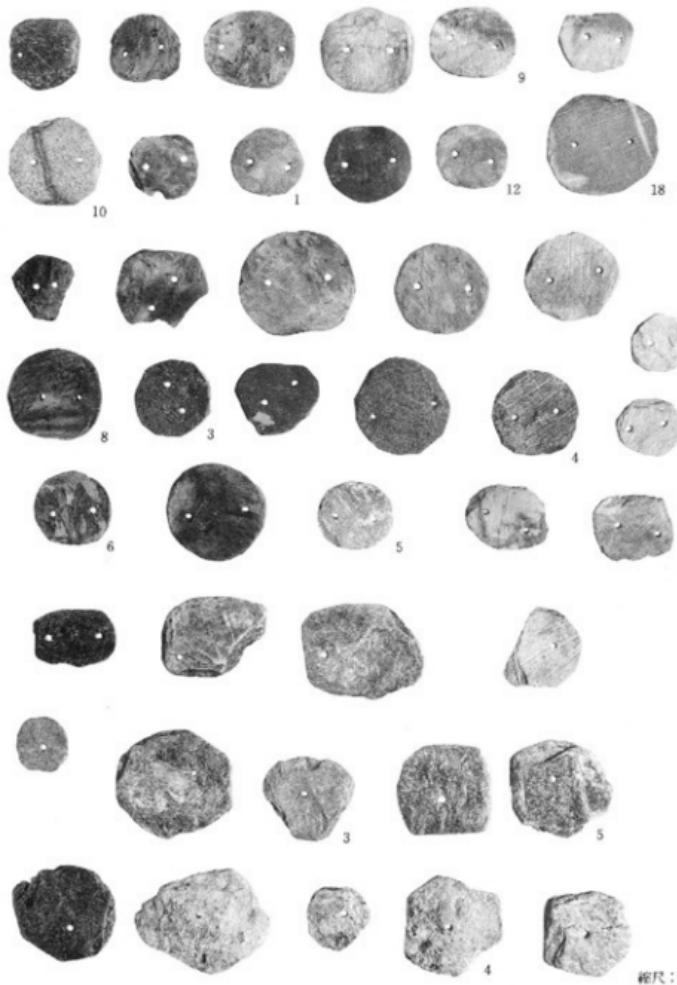
圖版15 出土土器 (10)



勾玉・劍の番号は第41図と一致

有孔円板(複孔)の番号は第42図と一致 縮尺: 約 1/2

図版16 勾玉・劍・有孔円板(複孔)

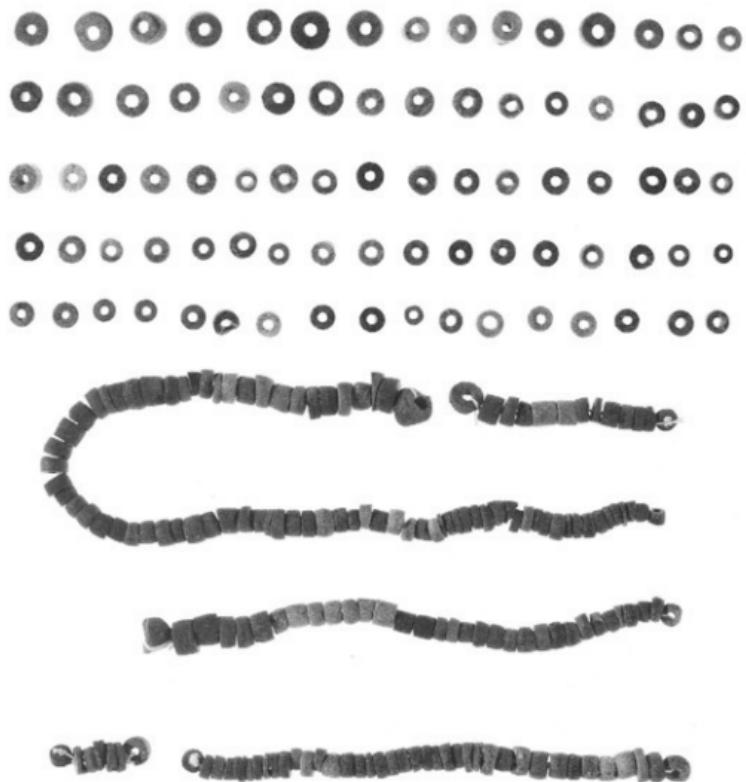


有孔円板(複孔)の番号は第42図と一致

(単孔)の番号は第43図と一致

縮尺：約1/2

図版17 有孔円板（複孔・単孔）



上・中縮尺：約実大 下縮尺：約1/3

図版18 白玉、坏内剑・有孔圆板出土状况

宮城県村田町文化財調査報告書第9集

新峯崎遺跡

平成3年3月30日印刷

平成3年3月30日発行

発行 宮城県柴田郡村田町教育委員会

宮城県柴田郡村田町大字村田字追6

印刷 株式会社 東北プリント

仙台市青葉区立町24-24電話022(263)1166

